

第10回（平成28年度第2回）  
セーフコミュニティ外傷等動向調査委員会  
《会議次第》

日時：平成28年10月20日（木）18:30～

場所：市庁舎3階303会議室

1. 開 会

2. 協議事項

（1）再認証に向けた取り組みについて

①重点取り組み分野・項目について

・・・資料①

②具体的施策について

・・・資料②

3. その他

4. 閉 会



資料①

## 第10回(平成28年度第2回) セーフコミュニティ外傷等動向調査委員会

協議事項 (1)再認証に向けた取り組みについて  
① 重点取り組み分野・項目について



平成28年10月20日(木)  
市役所3階303会議室

# 1. 協議内容

平成23年7月のセーフコミュニティ取り組み宣言から、これまでの取り組み分野・項目・具体的施策について、検証を行いながら、平成30年度の再認証に向けて、更なる取り組みの強化を図る。

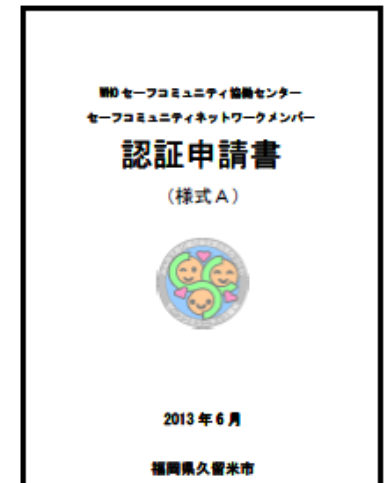
再認証まで  
あと2年



## 2. データ収集・分析

平成25年6月WHOセーフコミュニティ協働センターに提出した「認証申請書」のデータ並びに各対策委員会所有のデータを収集し、分析を行う。

- 各種データ
- ①人口動態統計
  - ②救急搬送データ
  - ③ケガや事故の実態調査
  - ④医療機関アンケート調査
  - ⑤市民意識調査 など



# ①病気を除く死亡に関するデータ (出典:人口動態統計)

## 平成19年～平成23年(5年間)

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	溺死・溺水 (2)	交通事故他 (1)			
10～19歳	自殺 (8)	交通事故 (5)	転倒・転落他 (1)		
20～29歳	自殺 (38)	交通事故 (7)	溺死・溺水 (4)	煙・火他 (1)	
30～39歳	自殺 (59)	交通事故 (6)	中毒等 (4)	転倒・転落他 (2)	他殺 (1)
40～49歳	自殺 (59)	交通事故 (6)	中毒等他 (3)	溺死・溺水他 (2)	転倒・転落他 (1)
50～59歳	自殺 (86)	交通事故 (13)	溺死・溺水 (9)	窒息 (7)	その他不慮の事故 (6)
60～69歳	自殺 (56)	溺死・溺水 (14)	交通事故 (12)	窒息他 (10)	転倒・転落 (7)
70～79歳	溺死・溺水 (44)	自殺 (40)	窒息 (26)	転倒・転落 (25)	交通事故 (17)
80～89歳	溺死・溺水 (55)	窒息 (47)	その他不慮の事故 (28)	転倒・転落 (24)	自殺 (21)
90歳～	転倒・転落 (23)	窒息 (22)	溺死・溺水 (11)	その他不慮の事故 (8)	交通事故 (6)
全体	自殺 (369)	溺死・溺水 (143)	窒息 (115)	転倒・転落 (88)	交通事故 (84)

(人数)

「認証申請書」P12より抜粋

## 平成22年～平成26年(5年間)

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	溺死・溺水 (3)	交通事故 (2)	その他不慮の事故 (1)		
10～19歳	自殺 (7)	交通事故 (3)	転倒・転落 窒息 (1) (1)		
20～29歳	自殺 (31)	交通事故 (3)	溺死・溺水 (1)		
30～39歳	自殺 (51)	交通事故 (5)	溺死・溺水 (3)	転倒・転落 中毒 (2) (2)	窒息 (1)
40～49歳	自殺 (52)	その他不慮の事故 (7)	交通事故 (4)	窒息 (2)	煙・火 中毒 (1) (1)
50～59歳	自殺 (64)	交通事故 (13)	窒息 (10)	溺死・溺水 (9)	転倒・転落 (5)
60～69歳	自殺 (47)	溺死・溺水 (23)	交通事故 (16)	窒息 (15)	転倒・転落 その他不慮の事故 (8) (8)
70～79歳	自殺 (45)	溺死・溺水 (42)	窒息 (41)	転倒・転落 (22)	交通事故 その他不慮の事故 (14) (14)
80～89歳	溺死・溺水 (84)	窒息 (53)	転倒・転落 その他不慮の事故 (27) (27)	自殺 (25)	交通事故 (7)
90歳～	転倒・転落 (28)	窒息 (23)	溺死・溺水 (11)	その他不慮の事故 (8)	交通事故 煙・火 自殺 (1) (1) (1)
全体	自殺 (323)	溺死・溺水 (175)	窒息 (146)	転倒・転落 (91)	交通事故 その他不慮の事故 (68) (68)

(人数)

## 病気を除く死亡に関するデータの比較

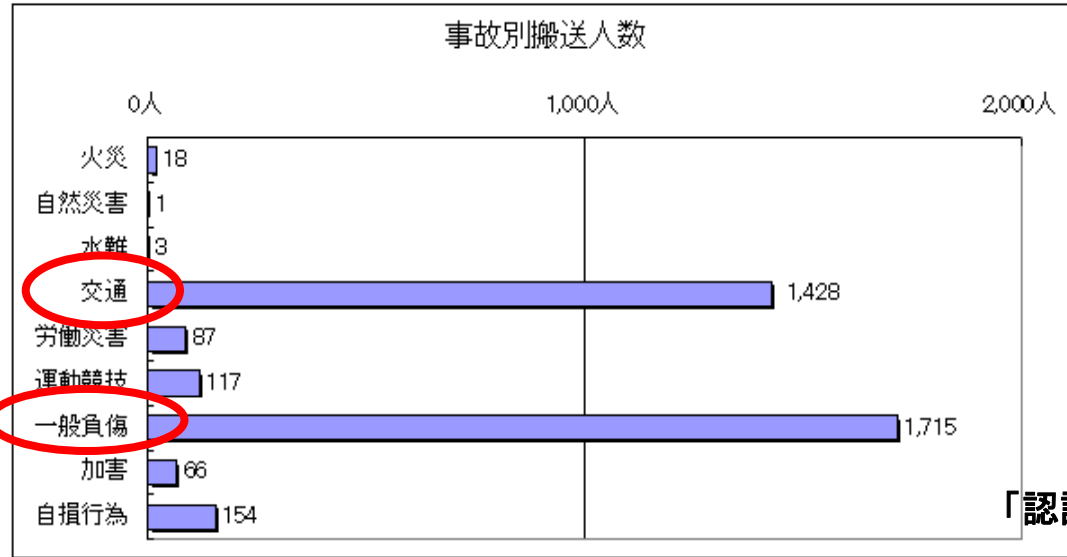
	平成19～23年	平成22～26年
分析	10歳～69歳までの幅広い年齢層で「自殺」が最も多く、若い年齢層では「交通事故」、高齢者では「溺死・溺水」「転倒」などが多い。	10歳～79歳までの幅広い年齢層で「自殺」が最も多く、若い年齢層では「交通事故」、高齢者では「溺死・溺水」「転倒」「窒息」などが多い。
課題	死亡までに至らない外傷データを収集・分析する必要がある。	

再認証まで  
あと2年

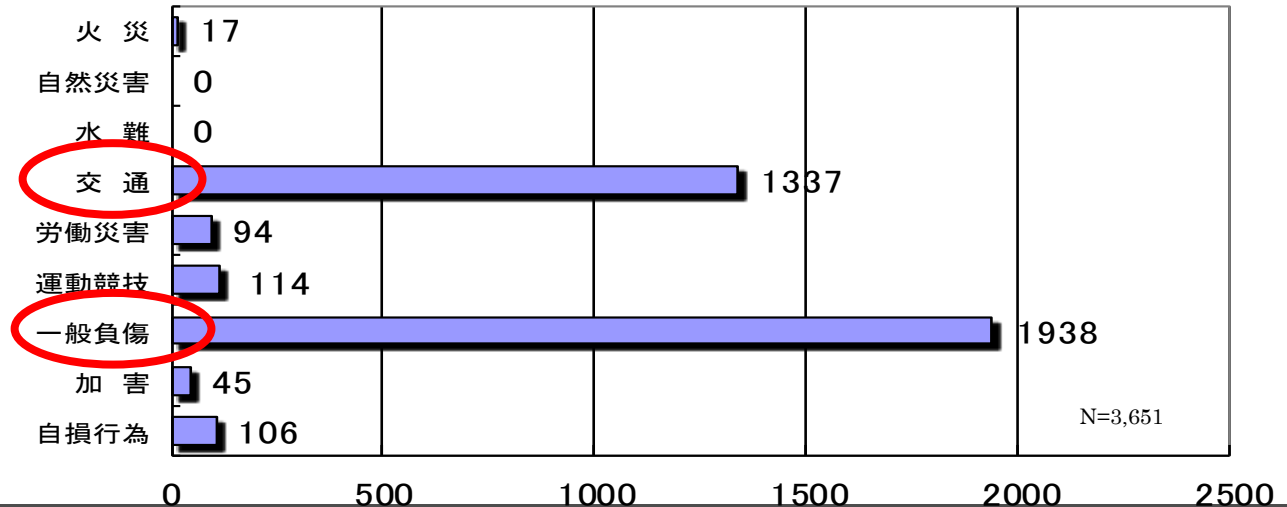


## ②救急搬送データ (出典:久留米広域消防本部)

平成23年



平成27年





## 救急搬送データの比較

	平成23年	平成27年
分 析	一般負傷が最も多く、次いで交通事故が多い。	一般負傷が最も多く、次いで交通事故が多い。
課 題	救急搬送を必要としない比較的「中・軽度」な外傷データを収集する必要がある。	

別冊のデータ集  
に詳細があるよ

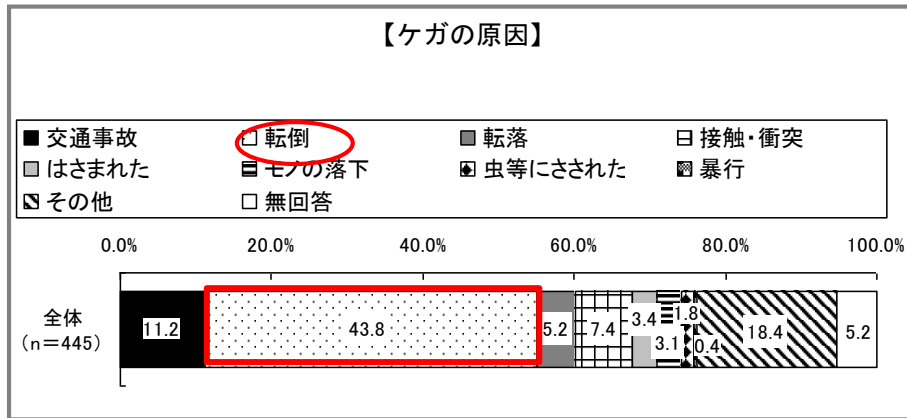


# ③ケガや事故の実態調査

(出典:久留米市)

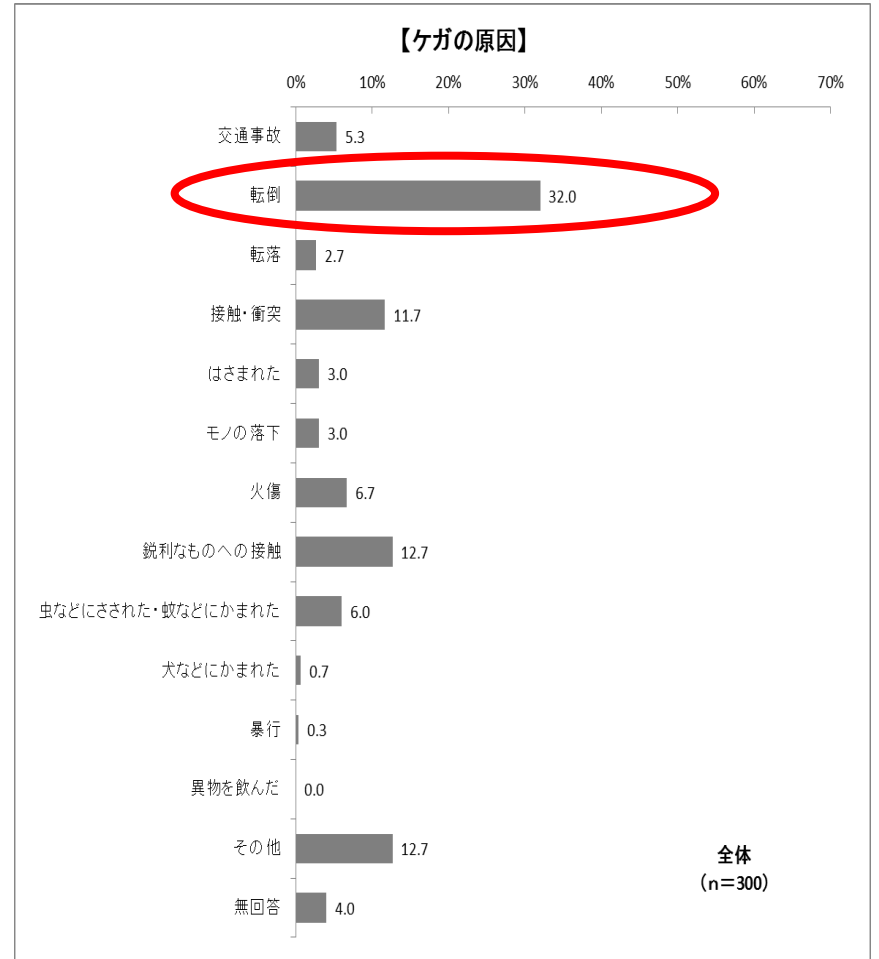
## けがの原因

### 平成23年度



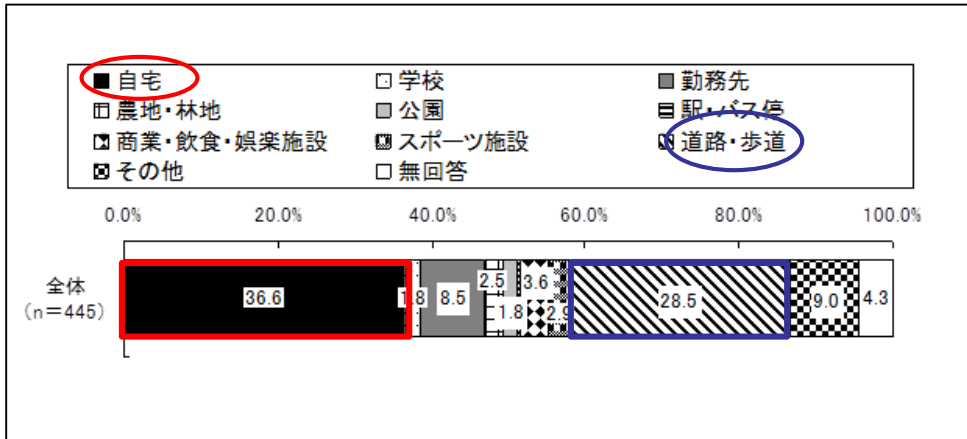
「認証申請書」P15より抜粋

### 平成26年度

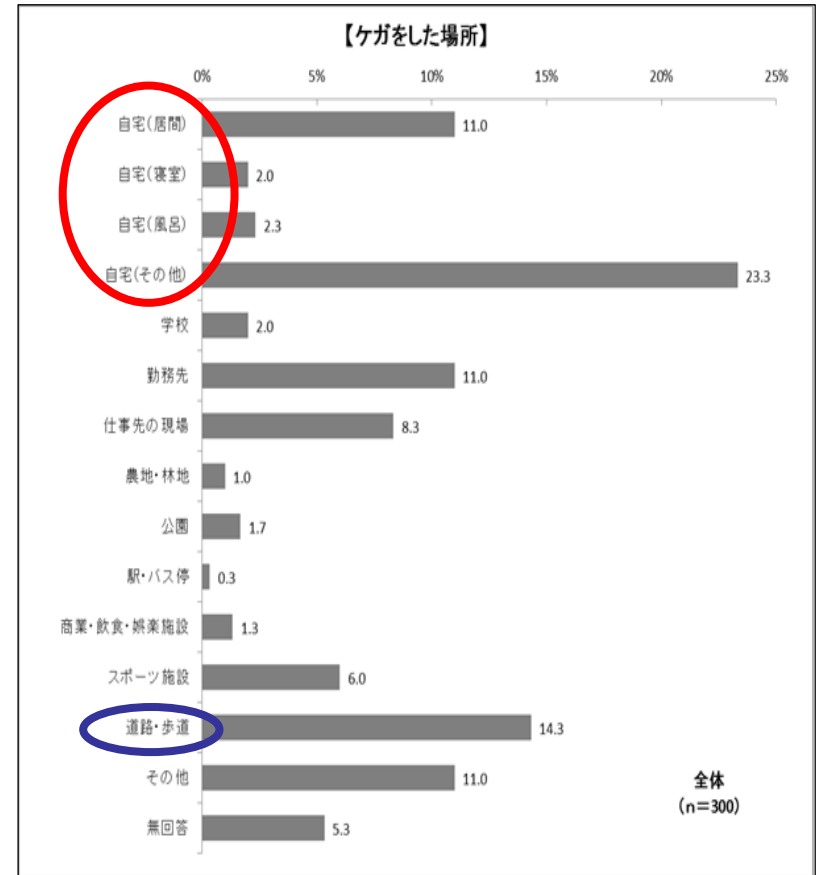


# けがの場所

## 平成23年度



## 平成26年度



## ケガや事故の実態調査の比較

		平成23年度	平成26年度
分 析	ケガの原因	「転倒」・「交通事故」・ 「接触・追突」	「転倒」・「交通事故」・ 「接触・追突」
	ケガの場所	「自宅」「道路・歩道」	「自宅」「道路・歩道」
課 題	満20歳以上の男女を無作為に抽出しているので、子どものケガや事故が含まれていない。		

3年ごとに収集  
しよるとばい





## 医療機関によるアンケートの分析

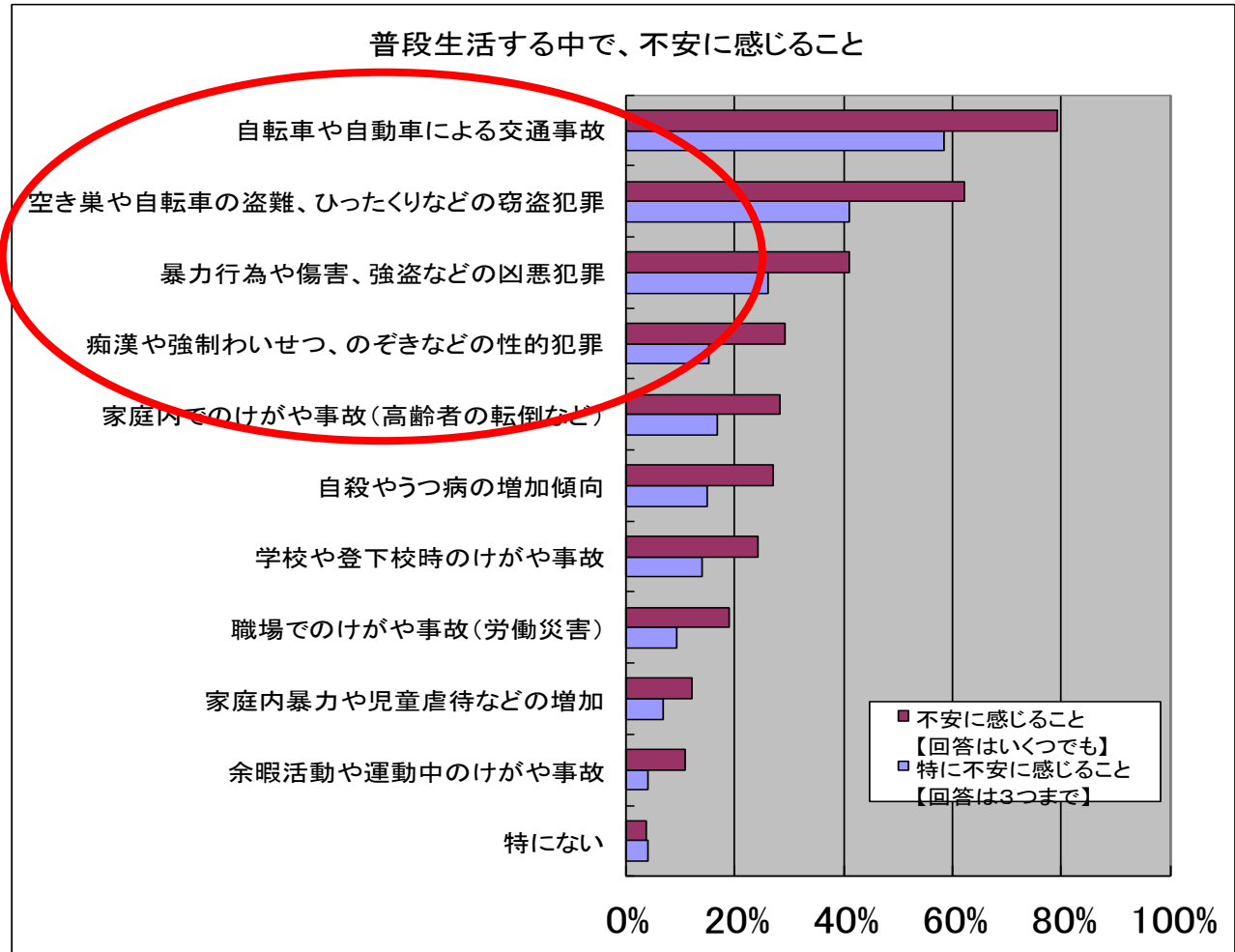
	平成27年度
分 析	年齢別・けがの原因・けがの関与など多面的にデータを収集分析することができる。データの鮮度と精度が高い。
課 題	サンプル数が少ない。患者・医療機関の負担が大きい。

5 医療機関に  
お願いしたよ

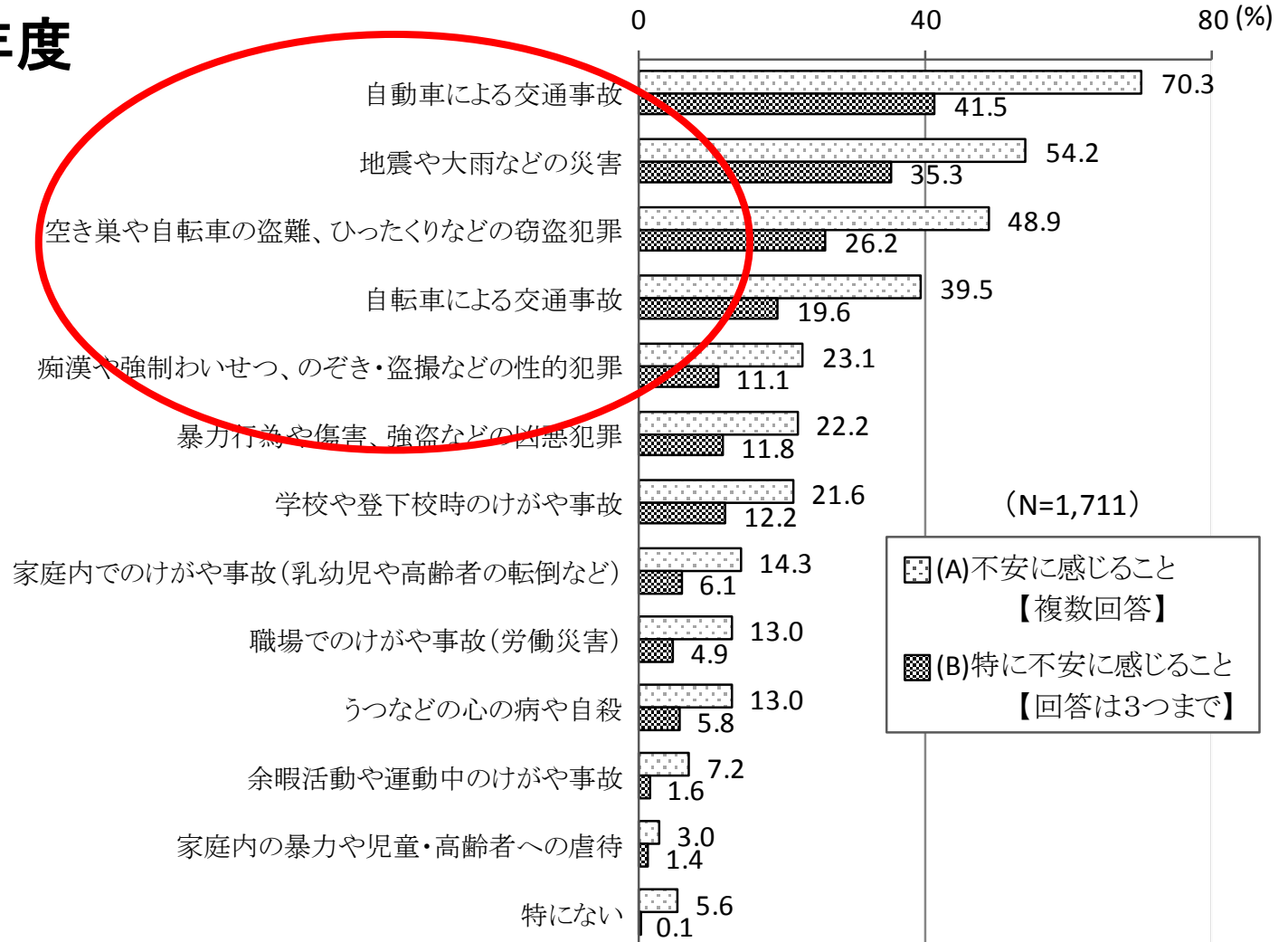


# ⑤市民意識調査 (出典:久留米市)

平成23年度



# 平成26年度





## 市民意識調査の比較

	平成23年度	平成26年度
分析	「自転車や自動車による交通事故」「空き巣や自転車の盗難、ひったくりなどなどの窃盗犯罪」	「自動車による交通事故」「地震や大雨などの災害」「空き巣や自転車の盗難、ひったくりなどの窃盗犯罪」

体感治安の向上も必要ばい



## 3. データ分析結果

各種データから、「自殺予防」「交通安全」「転倒予防」「学校の安全」「防犯」「防災」の取り組みは継続する必要がある。

また、WHOのガイドラインに定められている弱者グループの取り組みも継続する必要がある。

WHOの7つの  
指標があるっば



## 4.弱者グループを対象とした仕組み

指標3	ハイリスク集団と環境に注目した、弱者グループを対象とした仕組み
ハイリスクグループ	① 子ども(虐待の対象となりやすい)
	② 女性(DV被害の対象となりやすい)
	③ 高齢者(虐待や転倒でケガしやすい)
	④ 自殺のおそれがある者
	⑤ 要援助者(自然災害でリスクが高い)
ハイリスク環境	① 浸水想定地域がある
	② 土砂災害危険地域がある

## 5.重点取り組み分野・項目

重点取り組み分野	重点取り組み項目
1. 交通安全	① 高齢者の交通事故防止 ② 自転車事故の防止
2. 子どもの安全	③ 児童虐待の防止 ④ 学校の安全
3. 高齢者の安全	⑤ 転倒予防 ⑥ 高齢者虐待の防止
4. 犯罪・暴力の予防	⑦ 犯罪の防止・防犯力の向上 ⑧ DV防止・早期発見
5. 自殺予防	⑨ 自殺・うつ病の予防
6. 防災	⑩ 地域防災力の向上

※現在の6分野10項目を引き続き継続して取り組むこととする。

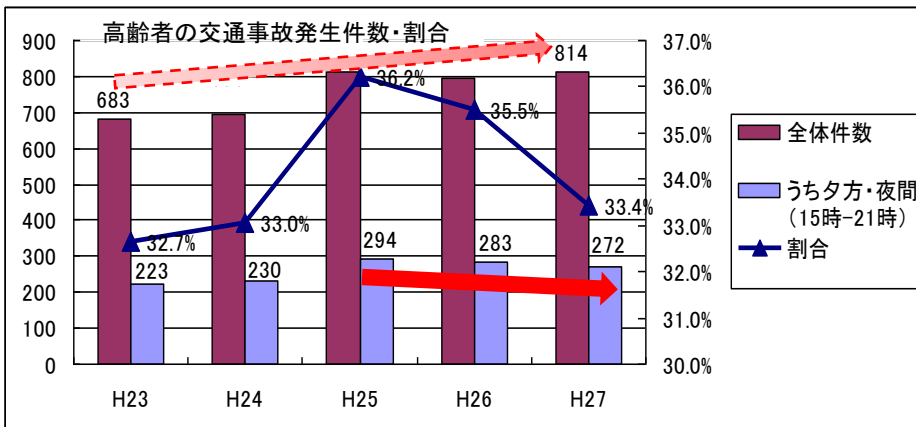
(1) 再認証にむけた取り組みについて

② 具体的施策について

1. 交通安全

重点項目	主な課題	具体的施策
高齢者の交通事故防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの体力の変化に気づいていない</li> <li>・夜間歩行中の事故が多い</li> <li>・交通事故の危険箇所が認知されていない</li> </ul>	1. 実技型高齢者交通安全講習の実施 2. 明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施 3. 交通安全マップの作成
自転車事故の防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全教室における指導者不足、中高生への啓発不足</li> <li>・自転車の運転マナーの悪化や自転車が加害者となる事故が社会問題となっている</li> </ul>	4. 交通安全教室の実施 5. 自転車安全利用キャンペーンの実施

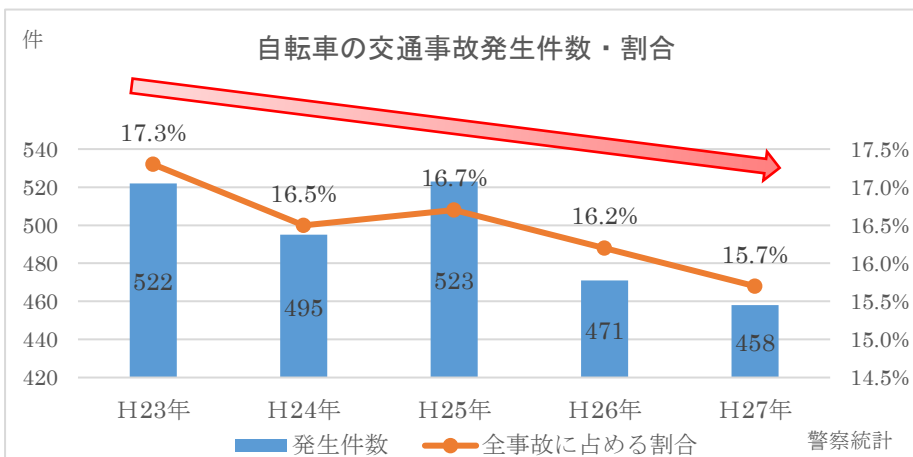
《成果指標》[高齢者の交通事故防止]



警察統計

※高齢者関連事故件数は増加傾向だが、夕方・夜間の事故件数は減少している

《成果指標》[自転車事故の防止]



警察統計

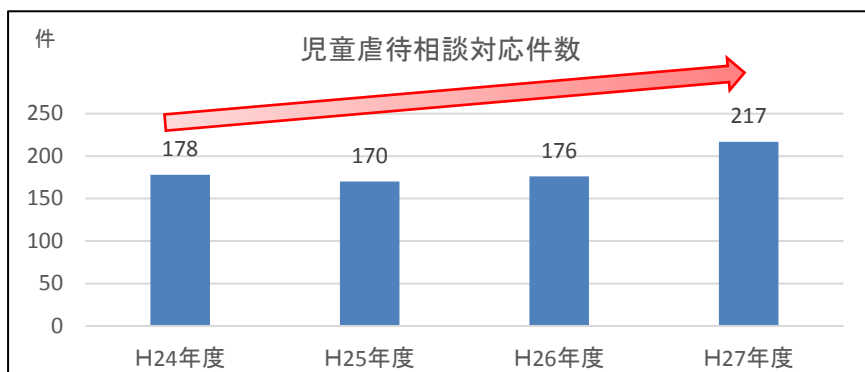
※自転車事故発生件数は減少傾向にあるものの、県と比較して高い

- <参照>
- ・資料①一別冊 「セーフコミュニティ関連データ集」P8～11
  - ・資料②一別冊 「セーフコミュニティ具体的施策の総括票及び個票」P4～10

## 2. 子どもの安全

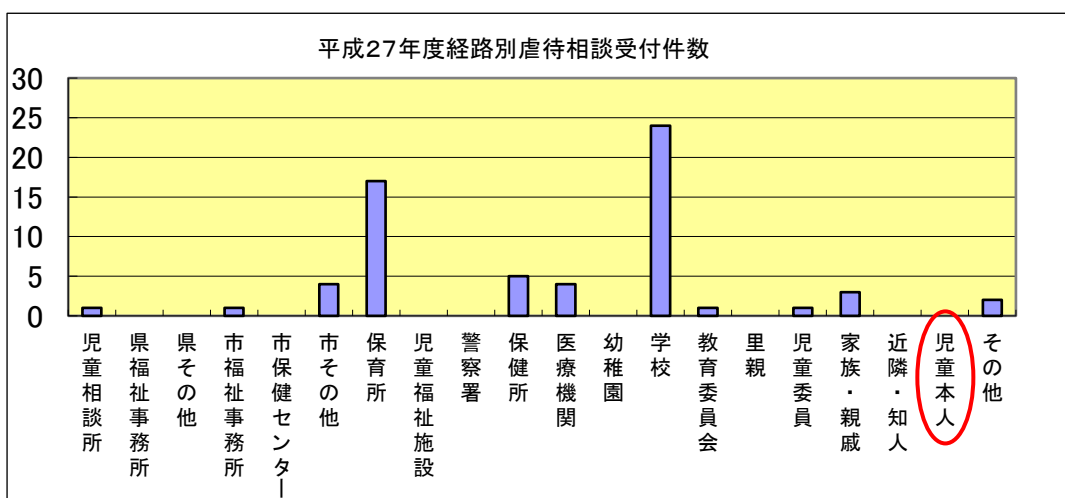
重点項目	主な課題	具体的施策
児童虐待の防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気軽に相談できる人がいない</li> <li>・子育てに困難を感じることもある保護者が5割以上いる</li> <li>・支援が必要な保護者や子どもが地域などで孤立している</li> </ul>	6. 乳児家庭訪問事業の地域連携 ⇒ 子ども見守りネットワークの構築
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待に対する学習機会が少ない</li> </ul>	7. 学校への出前サロン事業 ⇒ 子どもによるふれあい赤ちゃん体験・妊婦体験事業
		8. 子どもによるオレンジリボン作成
学校の安全	<p>〈モデル校である上津小学校の取組を全市的に広げていく〉            取組を全市に広げる上で、各学校の現在の取組や地域の特性等も加味しながら、各学校で独自性が持てるような施策の設定をおこなう。            ただし、全市的な成果を継続的に図っていくために、成果指標については統一したものを設定する。</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもがけがをした場所は、1日の大半を過ごす学校が多いが、学校内の過ごし方、ルール・マナーが徹底されていない</li> </ul>	9. 校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る校内環境づくり ⇒ 校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る取組の充実
		10. 楽しく安全な遊び方の紹介 ⇒ 校舎外で安全に遊ぶ意識付けと実践化を図る取組の充実
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行者、自転車の基本的ルール・マナーについての認識が低い</li> </ul>	11. 実践的交通教室の実施 ⇒ 交通安全教育の充実
		12. 交通指導の実施 ⇒ 地域・保護者と連携した交通指導の充実
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の身を守る社会資源、方法についての認識が低い</li> </ul>	13. 校区安全マップの作成と不審者対応の教育推進 ⇒ 防犯教育の充実
		14. 校区安全マップを活用した防犯安全パトロールの実施 ⇒ 地域・保護者と連携した防犯の取組の充実
	15. いじめの早期発見・早期対応の取り組みの実施 ⇒ いじめの未然防止・早期発見・早期対応の取組の充実	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震や火災等の災害に対し、自ら身を守る意識や実践力を身につける必要がある</li> </ul>	[新規] 火災・地震等の災害から身を守る安全教育の充実	

《成果指標》[児童虐待の防止]



※児童虐待相談対応件数は、増加傾向にある

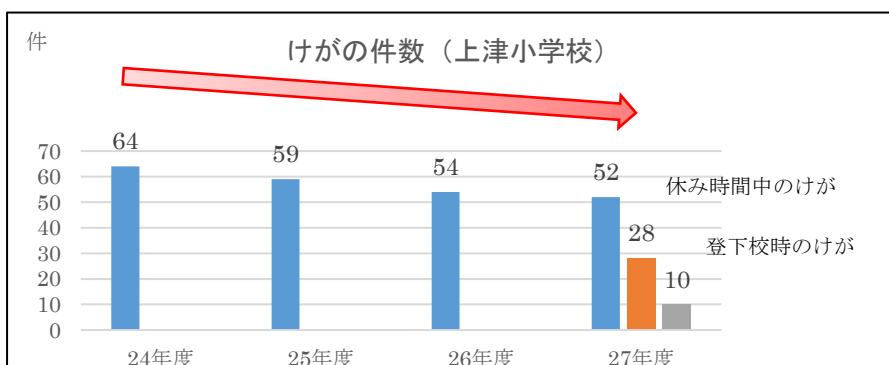
久留米市家庭子ども相談課調査



※学校や保育所からの相談は多いが、児童自身からの相談は少ない

久留米市家庭子ども相談課調査

《成果指標》[学校の安全]



※けがの件数は減少傾向にある

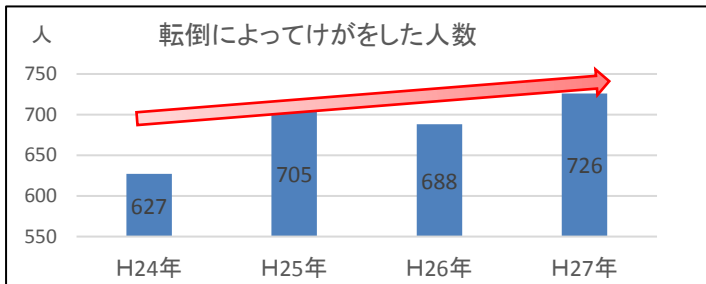
日本スポーツ振興センター災害給付対象けが状況

- ＜参照＞
- ・資料①—別冊 「セーフコミュニティ関連データ集」 P12～17
  - ・資料②—別冊 「セーフコミュニティ具体的施策の総括票及び個票」 P11～24

### 3. 高齢者の安全

重点項目	主な課題	具体的施策
転倒予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転倒リスク、危険要因の周知が十分とは言えない。</li> <li>・高齢者の転倒は、骨折などの重症につながりやすい</li> <li>・転倒に不安を感じる人は多いが、対策の周知が十分でない。</li> </ul>	16. 転倒に関するパンフレットの作成 ⇒[No.17 に統合]
		17. 介護状態にならないための予防事業の実施 ⇒介護予防の推進(仮称)
		18. 健康、体力維持を目的とした地域活動への支援 ⇒健康づくりの推進(仮称)
高齢者虐待の防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・虐待や認知症への理解が十分でない</li> <li>・高齢者のみ世帯や一人暮らしの増加等により、家族による高齢者の支援が不足している</li> <li>・早期発見に向けた体制づくりや介護者への支援が必要</li> </ul>	19. 虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催 ⇒認知症に関する理解促進(仮称) ※虐待についてはNo.21 に統合
		20. 認知症サポーター養成講座 ⇒[No.19 に統合]
		21. 介護サービス提供事業所向けの虐待予防研修 ⇒高齢者虐待防止推進(仮称)
		22. 地域で高齢者を見守るネットワークの構築 ⇒地域における見守り活動の推進
		23. 家族介護教室の開催 ⇒[No.21 に統合]
24. ものわすれ予防検診 ⇒[削除]		

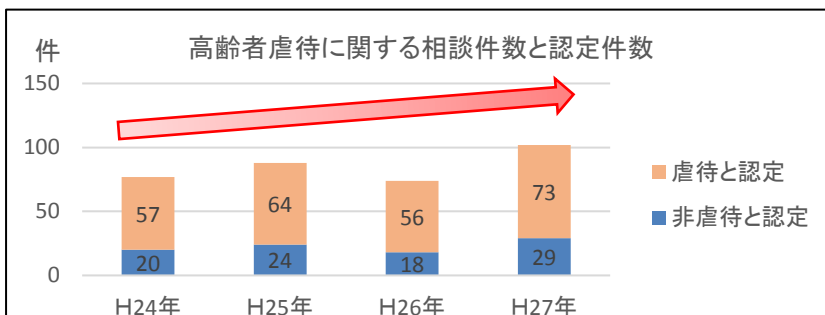
#### 《成果指標》[転倒予防]



※転倒によりけがをした高齢者は増加傾向にある

救急搬送データ

#### 《成果指標》[転倒予防]



※高齢者の虐待相談件数は増加傾向にある

久留米市長寿支援課統計資料

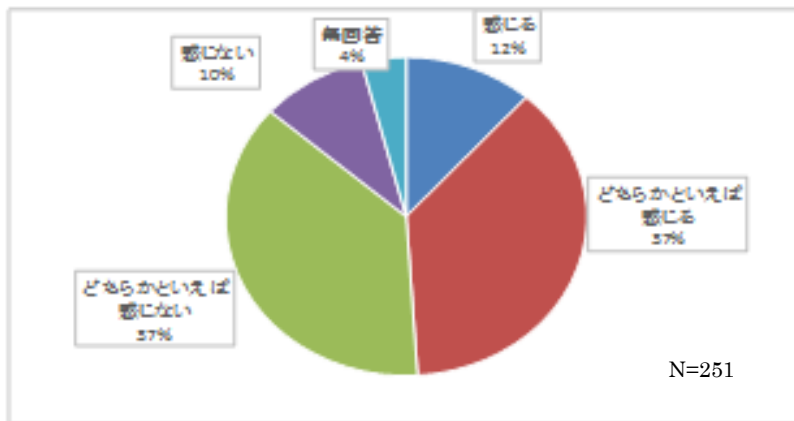
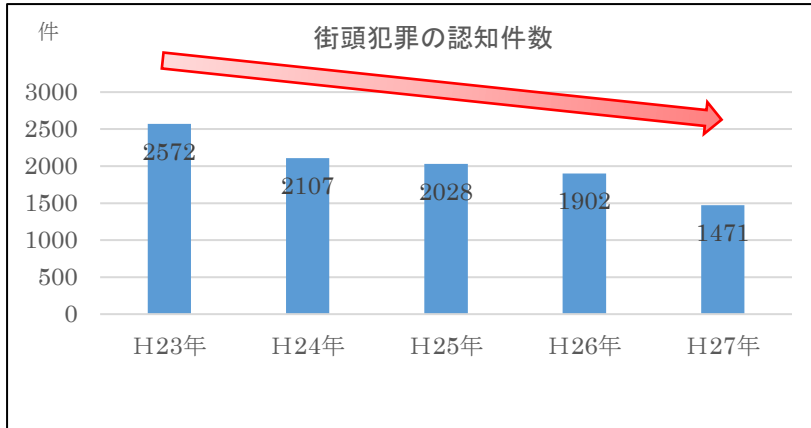
- <参照> ・資料①—別冊 「セーフコミュニティ関連データ集」 P18～23  
 ・資料②—別冊 「セーフコミュニティ具体的施策の総括票及び個票」 P25～35



## 4. 犯罪・暴力の予防

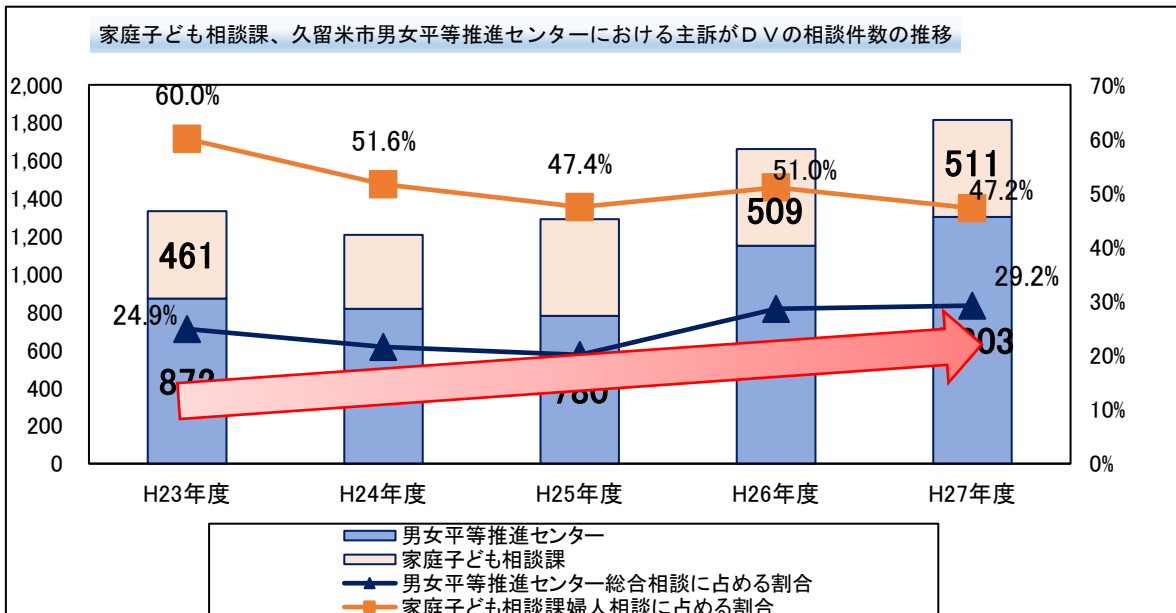
重点項目	主な課題	具体的施策
犯罪の防止・ 防犯力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民生活の身近で起きる街頭犯罪が占める割合が多い</li> <li>・日常生活の中で犯罪に巻き込まれる不安を約半数の人が感じており、特に路上を不安に思う人が多い</li> </ul>	25. 自転車ツーロックの推進
		26. 小学校区毎の地域安全マップの作成 ⇒[No.28 に統合]
		27. 犯罪多発地域での合同パトロールの実施
		28. 安全・安心感を高めるための地域環境の整備
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内での暴力団抗争は沈静化したが、依然として市内に本拠を置く暴力団は存在しており、市民の不安は解消されていない</li> </ul>	29. 暴力団壊滅市民総決起大会等の開催
		30. 児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための研修や啓発の実施
<ul style="list-style-type: none"> <li>・オレオレ詐欺、還付金詐欺などの高齢者を狙った悪質な犯罪が増えている</li> </ul>	[新規] 高齢者等を狙った犯罪のタイムリーな情報提供・啓発	
DV防止・早期発見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVに関する正しい認識、DVを容認しない意識づくりが十分にできていない</li> </ul>	31. 男女共同参画・DV防止に関する啓発の充実
		32. 教育現場等における予防教育の充実
		[新規]パープルキャンペーンの実施
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DV被害者のうち約半数が相談しておらず、相談した人も友人や家族で、専門機関にした被害者は少ない。</li> </ul>	33. 医療関係者に対する研修の強化
		34. 医療機関におけるDV被害者支援の取り組みの促進 ⇒[No.33 に統合]
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVの子どもへの影響が様々な問題行動として現れることもある</li> </ul>	35. 子どもに関わる業務に携わる職務関係者に対する研修の充実
		36. DV被害者の心理的・社会的な回復支援の検討 ⇒[削除]
		37. DV被害者の子どもへの理解を促すための研修 ⇒[No.35 に統合]
		38. 子ども向け電話相談の実施 ⇒[削除]
		39. DV被害者の子どもへの学習支援 ⇒[削除]

《成果指標》[犯罪の防止・防犯力の向上]



※街頭犯罪の認知件数は減少傾向にあるが、犯罪に不安を感じる人が6割以上いる

《成果指標》[DV防止・早期発見]



※DVに関する相談は増加傾向にある

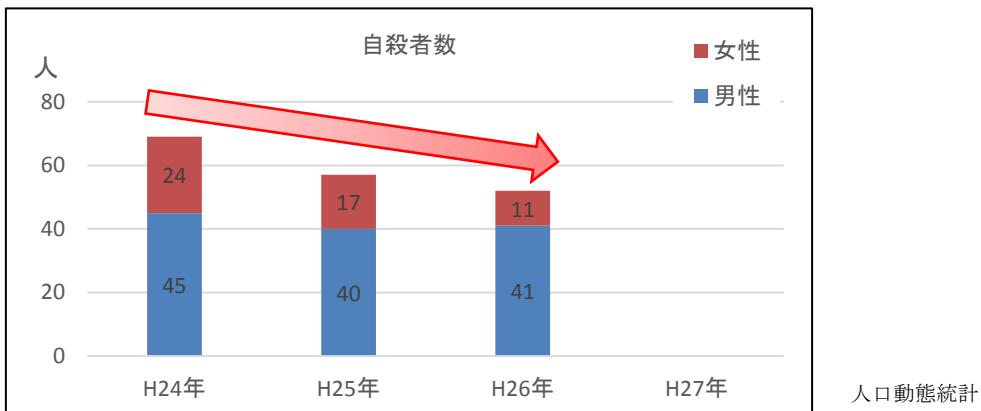
久留米市男女平等推進センター・家庭子ども相談課調査

- <参照>
- ・資料①一別冊 「セーフコミュニティ関連データ集」P24～32
  - ・資料②一別冊 「セーフコミュニティ具体的施策の総括票及び個票」P36～54

## 5. 自殺予防

重点項目	主な課題	具体的施策
自殺・うつ病の予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>働き盛りの年代の自殺が多いが、不安の意識が低い</li> <li>働き盛りの男性が誰にも相談できずに自殺に至っている</li> </ul>	40. ゲートキーパーの養成
		41. かかりつけ医と精神科医の連携強化
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自殺に至る要因は複数あり、複雑に絡み合っているため、関係機関・団体の連携強化に取り組む必要がある</li> </ul>	42. 自殺対策連絡協議会の実施 ⇒ 自殺対策委員会と協働した普及啓発活動の実施
		43. ワンストップサービス相談の実施 ⇒ 民間団体と協働した相談の実施

### 《成果指標》[自殺・うつ病の予防]



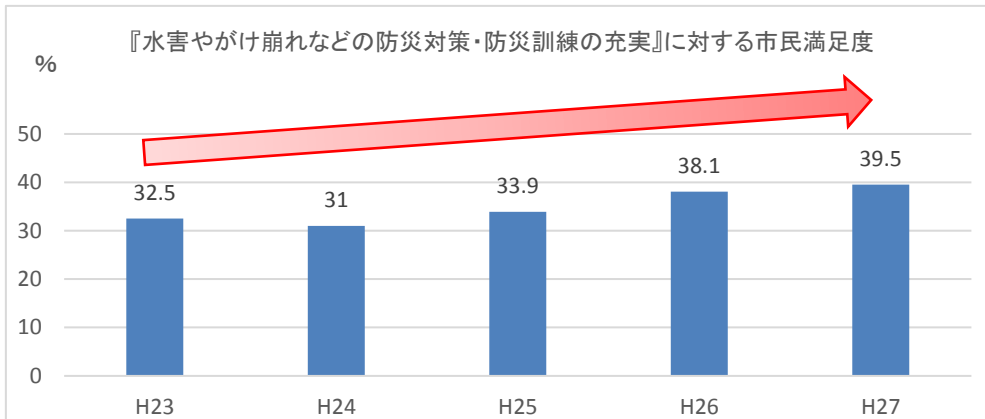
※自殺者数は減少傾向にあるが、依然として男性の自殺者の割合が高い。

- <参照>
- 資料①一別冊 「セーフコミュニティ関連データ集」 P 33～35
  - 資料②一別冊 「セーフコミュニティ具体的施策の総括票及び個票」 P 55～60

## 6. 防災

重点項目	主な課題	具体的施策
地域防災力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に防災関係機関だけでは十分な対応ができない</li> <li>・大規模災害時は自助・共助といった自主防災活動が重要であるが、認知度は約4割に留まる</li> <li>・災害に対して8割以上の人不安を持っているが、備蓄や備えをおこなっている人は約半数しかいない</li> </ul>	44. 定期的な防災研修・啓発の実施
		45. 防災に精通しているリーダーの育成
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模災害時は、高齢者などが犠牲になる割合が高く、避難支援体制の構築が必要</li> </ul>	46. 名簿登録推進にむけた積極的な情報提供
		47. 災害時要援護者個別支援計画作成
		48. 地域の避難計画を作成

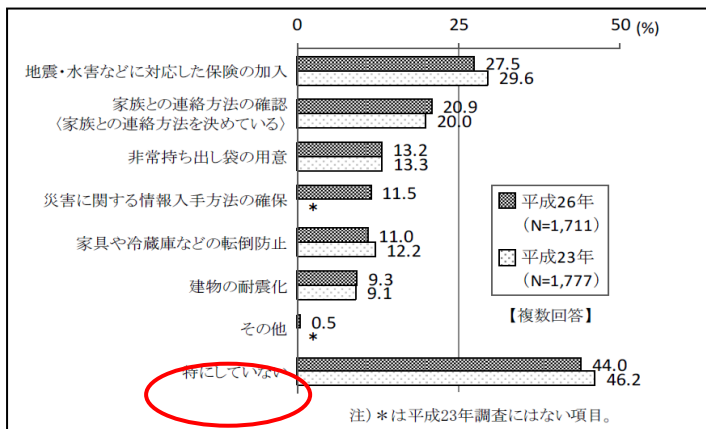
### 《成果指標》[地域防災力の向上]



※防災対策などに対する市民満足度は、上昇傾向にある

市民意識調査

### 「災害に備え、何らかの対策をおこなっているか」



市民意識調査

※災害に備えた対策等を、「特にしていない」との回答した人が約半数近くいる

- <参照>
- ・資料①—別冊 「セーフコミュニティ関連データ集」P36～40
  - ・資料②—別冊 「セーフコミュニティ具体的施策の総括票及び個票」P61～67

# セーフコミュニティ関連データ集

平成 28 年 10 月



## データ一覧

### 久留米市における死亡や外傷・事故などの状況

#### 1. 死亡に関するデータ

【図表①】年齢層別病気を含む死亡原因（人口動態統計：H22～26）

【図表②】年齢層別外的要因による死亡原因（人口動態統計：H22～26）

#### 2. 救急搬送に関するデータ

【図表③】外的要因による事故種別ごとの搬送人数（救急搬送データ：H22とH27の比較）

【図表④】年齢層別事故種別（救急搬送データ：H27）

【図表⑤】受傷原因別「一般負傷」の内訳及び年齢層別に占める「転倒・転落」の割合（救急搬送データ：H27）

【図表⑥】年齢層別けがの発生場所（救急搬送データ：H27）

#### 3. 各分野・項目に関するデータ

##### 〈1〉交通安全

【図表 1-1】人口 10 万人当たりの交通事故発生件数（警察統計：H18～27）

【図表 1-2】交通事故発生件数に占める高齢者関連事故件数の割合（警察統計：H18～27）

【図表 1-3】「交通事故死者に占める高齢者の割合」（警察統計：

【図表 1-4】人口 10 万人当たりの自転車事故発生件数（警察統計：H18～27）

【図表 1-5】交通事故死者に占める自転車関連事故の割合（警察統計：H23～27）

【図表 1-6】飲酒運転事故発生件数（警察統計：H18～27）

##### 〈2〉子どもの安全

【図表 2-1】児童相談及び虐待相談対応件数（家庭子ども相談課：H20～27 年度）

【図表 2-2】経路別虐待相談受付件数（家庭子ども相談課：H 27 年度）

【図表 2-3】児童相談の種類別対応件数（家庭子ども相談課：H27 年度）

【図表 2-4】虐待の種類別対応件数（家庭子ども相談課：H27 年度）

【図表 2-5】虐待者別対応件数（家庭子ども相談課：H20～27 年度）

【図表 2-6】「子育てに困難を感じることの有無」（子育てに関するアンケート調査：H20、H25）

【図表 2-7】「子どもを虐待しているのではないかと思うことがある」（子育てに関するアンケート調査：H20、H25）

【図表 2-8】子ども（0～17 歳まで）の受傷原因別「一般負傷」の内訳（救急搬送データ：H27）

【図表 2-9】子ども（0～15 歳未満）がけがした場所（市内医療機関による外傷発生調査：H27）

【図表 2-10】「学校や登下校時のけがや事故への不安感」（市民意識調査：H26）

【図表 2-11】「小学校で特に力を入れてほしいこと上位 5 項目」（市民意識調査：H27）

【図表 2-12】「教育行政に期待すること」（市民意識調査：H27）

### 〈3〉高齢者の安全

- 【図表 3-1】救急搬送における高齢者の受傷原因の割合（救急搬送データ：H27）
- 【図表 3-2】高齢者のけがの原因（H26 年度事故やケガなどについての実態調査）
- 【図表 3-3】転倒した高齢者のけがの状況（H26 年度事故やケガなどについての実態調査）
- 【図表 3-4】高齢者が転倒した場所（H26 年度事故やケガなどについての実態調査）
- 【図表 3-5】介護が必要になった原因（H25 年度高齢者実態調査）
- 【図表 3-6】虐待に関する相談件数と認定件数（長寿支援課統計資料：H24～27）
- 【図表 3-7】「高齢者虐待にあたると思うこと」（H25 年度高齢者実態調査）
- 【図表 3-8】「身近に高齢者虐待を見聞きしたこと」（H25 年度高齢者実態調査）
- 【図表 3-9】虐待に関する通報・相談経路（長寿支援課統計資料：H25～27）
- 【図表 3-10】被虐待者が認知症高齢者である割合（長寿支援課統計資料：H25～27）
- 【図表 3-11】虐待者の状況（長寿支援課統計資料：H25～27）

### 〈4〉犯罪・暴力の予防

- 【図表 4-1】犯罪に対する不安感（市民意識調査：H23、H26）
- 【図表 4-2】人口 10 万人当たりの一般刑法犯認知件数（警察統計：H13～27）
- 【図表 4-3】一般刑法犯のうち街頭犯罪の占める割合（警察統計：）
- 【図表 4-4】一般刑法犯の犯罪種別認知割合（警察統計：H27）
- 【図表 4-5】人口 10 万人当たりの凶悪犯認知件数（警察統計：H17～27）
- 【図表 4-6】人口 10 万人当たりの粗暴犯認知件数（警察統計：H17～27）
- 【図表 4-7】「犯罪に巻き込まれるかもしれない不安感」（市政アンケートモニター：H ）
- 【図表 4-8】作成中 オレオレ詐欺、還付金詐欺（警察統計：H ）
- 【図表 4-9】「被害にあうかもしれないと不安に思う場所」（市政アンケートモニター：H27 年度）
- 【図表 4-10】DV の相談件数（男女平等推進センター・家庭子ども相談課調査：H23 年度～27 年度）
- 【図表 4-11】男女平等推進センターの総合相談、家庭子ども相談課の婦人相談の内訳（男女平等推進センター・家庭子ども相談課調査：H23 年度～27 年度）
- 【図表 4-12】「固定的性別役割分担意識『男は仕事、女は家庭』に同感（賛成）する人の割合」（H26 年度久留米市男女平等に関する市民意識調査）
- 【図表 4-13】「固定的性別役割分担意識『男は仕事、女は家庭』に同感する人の割合と DV を人権侵害と認識する割合の関係（H26 年度久留米市男女平等に関する市民意識調査）
- 【図表 4-14】パートナーから DV を受けた経験がある人の割合（H26 年度久留米市男女平等に関する市民意識調査）
- 【図表 4-15】「DV を受けた経験がある人の相談の有無」（H26 年度久留米市男女平等に関する市民意識調査）
- 【図表 4-16】「DV を受けた経験がある人の相談先（相手）」（H26 年度久留米市男女平等に関する市民意識調査）
- 【図表 4-17】医療機関における DV 防止カードの設置・配布状況（H27 年度 DV 対策に係る医療機関の取組に関する調査）
- 【図表 4-18】「医療機関における DV 対策の実施状況」（H27 年度 DV 対策に係る医療機関の取組に関する調査）
- 【図表 4-19】「職員に DV 問題に関する取組を予定又は検討しているか」（H27 年度 DV 対策に係る医療機関の取組に関する調査）

### 〈5〉自殺予防

- 【図表 5-1】自殺者数の推移（人口動態統計：H17～26）
- 【図表 5-2】人口 10 万人当たりの自殺率（人口動態統計：H19～26）
- 【図表 5-3】久留米市の年代別性別自殺者数

【図表 5-4】「普段の生活の中で不安に感じること」(H26 市民意識調査)

【図表 5-5】「自殺の原因・動機に関する統計」(警察庁自殺統計：H23～27)

#### 〈6〉防災

【図表 6-1】阪神淡路大震災時における自力脱出困難者の救出割合(大規模地震災害による人的被害の予測：H9)

【図表 6-2】阪神・淡路大震災による死亡の状況(人口動態統計から見た淡路大震災による死亡の状況：H7)

【図表 6-3】1時間降水量 50mm以上の年間発生回数(気象庁ホームページ)

【図表 6-4】1時間降水量 80mm以上の年間発生回数(気象庁ホームページ)

【図表 6-5】「災害に対する不安感」(市民意識調査：H26)

【図表 6-6】「水や食料の備蓄状況」(市民意識調査：H26)

【図表 6-7】「災害に備えた対策の実施状況」(市民意識調査：H26)

【図表 6-8】「自主防災活動に関する認知度」(市民意識調査：H26)

【図表 6-9】「災害時要援護者名簿の認知度」(民生委員による「H27 年久留米市在宅高齢者基礎調査」)



# 久留米市における死亡や外傷・事故などの状況

## 1. 死亡に関するデータ

### (1) 病気を含めた死亡原因

人口動態統計によると、平成22年から平成26年までの5年間の死亡者数は14,792人で、主な原因は悪性新生物や心疾患、肺炎などのほか、自殺や不慮の事故となっています。

【図表①】年齢層別病気を含めた死亡原因

年齢層	1位	2位	3位	4位	5位
0～9歳	循環器系の 先天奇形 (9)	不慮の事故 乳幼児突然死症候群 (6)	周産期に特異的な呼 吸障害及び心血管障 害 (5)	その他の先天 奇形及び変形 (4)	神経系の疾患 (3) 心疾患(高血圧性を除く) (3) 染色体異常 (3) 神経系の疾患 (3)
10～19歳	自殺 (7)	不慮の事故 (2)	悪性新生物 (1) 神経系の疾患 (1) 心疾患(高血圧性を除く) (1) その他の外因 (1)	—	—
20～29歳	自殺 (31)	悪性新生物 (6)	不慮の事故 (4) その他の外因 (4)	心疾患 (高血圧性を除く) (3)	敗血症 (1) 神経系の疾患 (1) 脳血管疾患 (1) 呼吸器系の疾患 (1)
30～39歳	自殺 (51)	悪性新生物 (28)	不慮の事故 (12)	脳血管疾患 (9)	その他の外因 (6)
40～49歳	悪性新生物 (93)	自殺 (52)	脳血管疾患 (21)	肝疾患 (17)	心疾患(高血圧性を除く) (14) 不慮の事故 (14)
50～59歳	悪性新生物 (306)	自殺 (64)	心疾患(高血圧性を除く) (39) 脳血管疾患 (39)	不慮の事故 (38)	肝疾患 (28)
60～69歳	悪性新生物 (849)	脳血管疾患 (120)	心疾患 (高血圧性を除く) (98)	不慮の事故 (79)	肺炎 (78)
70～79歳	悪性新生物 (1,336)	心疾患 (高血圧性を除く) (269)	脳血管疾患 (252)	肺炎 (209)	不慮の事故 (130)
80～89歳	悪性新生物 (1,475)	心疾患 (高血圧性を除く) (641)	肺炎 (598)	脳血管疾患 (475)	呼吸器系の疾患 (373)
90歳～	心疾患 (高血圧性を除く) (625)	肺炎 (454)	老衰 (392)	悪性新生物 (391)	脳血管疾患 (358)
合計	悪性新生物 (4,490)	心疾患 (高血圧性を除く) (1,697)	肺炎 (1,371)	脳血管疾患 (1,275)	その他の 呼吸器系の疾患 (826)

人口動態統計：平成22年～27年（人数）

※平成19年～23年の5年間の状況

0～9歳…(1位)循環器系の先天奇形、(2位)悪性新生物等、(3位)乳幼児突然死症候群、(4位)不慮の事故、(5位)心疾患  
 10～19歳…(1位)自殺、(2位)不慮の事故、(3位)悪性新生物等、(4位)心疾患、(5位)—  
 20～29歳…(1位)自殺、(2位)不慮の事故、(3位)悪性新生物等、(4位)心疾患、(5位)肝疾患  
 30～39歳…(1位)自殺、(2位)悪性新生物等、(3位)不慮の事故、(4位)心疾患、(5位)脳血管疾患  
 40～49歳…(1位)悪性新生物等、(2位)自殺、(3位)心疾患、(4位)脳血管疾患、(5位)不慮の事故  
 50～59歳…(1位)悪性新生物等、(2位)自殺、(3位)脳血管疾患、(4位)不慮の事故、(5位)肺炎  
 60～69歳…(1位)悪性新生物等、(2位)脳血管疾患、(3位)心疾患、(4位)肺炎、(5位)不慮の事故  
 70～79歳…(1位)悪性新生物等、(2位)心疾患、(3位)脳血管疾患、(4位)肺炎、(5位)その他呼吸器系の疾患  
 80～89歳…(1位)悪性新生物等、(2位)心疾患、(3位)肺炎、(4位)脳血管疾患、(5位)その他呼吸器系の疾患  
 90歳～ …(1位)心疾患、(2位)肺炎、(3位)老衰、(4位)脳血管疾患、(5位)その他呼吸器系の疾患

(2) 外的要因による死亡原因

平成 22 年から平成 26 年までの 5 年間の外的要因による（病気を除く）死亡者数は 963 人で全体の 6.5%になります。

死亡原因では、10 歳～79 歳までの幅広い年齢層で「自殺」が最も多くなっています。また、若い年齢層では「交通事故」が多く、高齢者では「転倒」や「溺死」「窒息」などが多い傾向がみられます。

【図表②】年齢層別外的要因による死亡原因

年齢層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
0～9歳	溺死・溺水 (3)	交通事故 (2)	その他不慮の事故 (1)	—	—
10～19歳	自殺 (7)	交通事故 (3)	転倒・転落 窒息 (1) (1)	—	—
20～29歳	自殺 (31)	交通事故 (3)	溺死・溺水 (1)	—	—
30～39歳	自殺 (51)	交通事故 (5)	溺死・溺水 (3)	転倒・転落 中毒 (2) (2)	窒息 (1)
40～49歳	自殺 (52)	その他不慮の事故 (7)	交通事故 (4)	窒息 (2)	煙・火 中毒 (1) (1)
50～59歳	自殺 (64)	交通事故 (13)	窒息 (10)	溺死・溺水 (9)	転倒・転落 (5)
60～69歳	自殺 (47)	溺死・溺水 (23)	交通事故 (16)	窒息 (15)	転倒・転落 (8) その他不慮の事故 (8)
70～79歳	自殺 (45)	溺死・溺水 (42)	窒息 (41)	転倒・転落 (22)	交通事故 (14) その他不慮の事故 (14)
80～89歳	溺死・溺水 (84)	窒息 (53)	転倒・転落 (27) その他不慮の事故 (27)	自殺 (25)	交通事故 (7)
90歳～	転倒・転落 (28)	窒息 (23)	溺死・溺水 (11)	その他不慮の事故 (8)	交通事故 (1) 煙・火 (1) 自殺 (1)
合計	自殺 (323)	溺死・溺水 (175)	窒息 (146)	転倒・転落 (91)	交通事故 (68) その他不慮の事故 (68)

人口動態統計：平成22～27年（人数）

※平成 19 年～23 年の 5 年間の状況

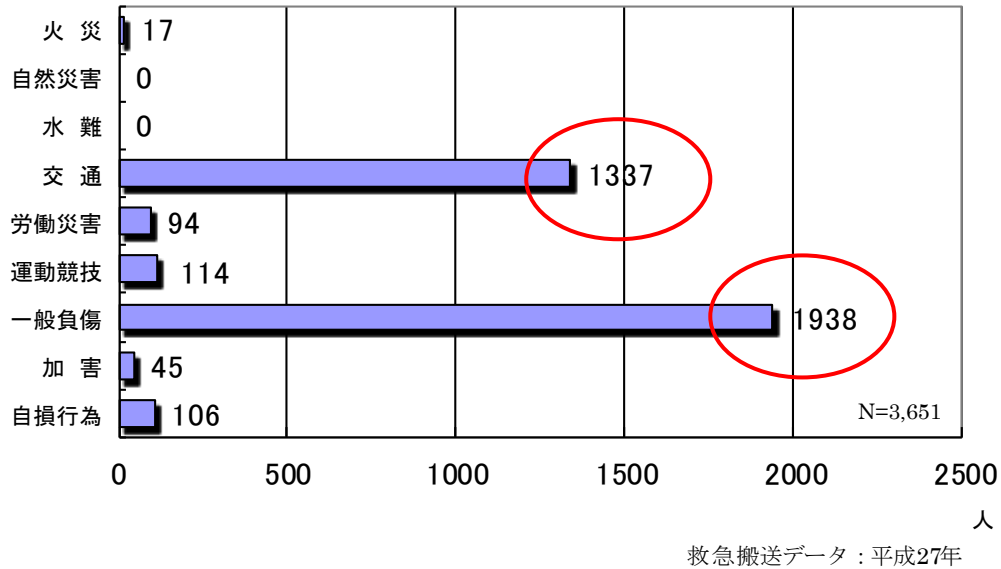
- 1～9 歳…(1 位)溺死・溺水、(2 位)交通事故、(3 位)—、(4 位)—、(5 位)—
- 10～19 歳…(1 位)自殺、(2 位)交通事故、(3 位)転倒・転落、(4 位)—、(5 位)—
- 20～29 歳…(1 位)自殺、(2 位)交通事故、(3 位)溺死・溺水、(4 位)煙・火、(5 位)—
- 30～39 歳…(1 位)自殺、(2 位)交通事故、(3 位)中毒、(4 位)転倒・転落、(5 位)他殺
- 40～49 歳…(1 位)自殺、(2 位)交通事故、(3 位)中毒、(4 位)溺死・溺水、(5 位)転倒・転落
- 50～59 歳…(1 位)自殺、(2 位)交通事故、(3 位)溺死・溺水、(4 位)窒息、(5 位)その他不慮の事故
- 60～69 歳…(1 位)自殺、(2 位)溺死・溺水、(3 位)交通事故、(4 位)窒息、(5 位)転倒・転落
- 70～79 歳…(1 位)溺死・溺水、(2 位)自殺、(3 位)窒息、(4 位)転倒・転落、(5 位)交通事故
- 80～89 歳…(1 位)溺死・溺水、(2 位)窒息、(3 位)その他不慮の事故、(4 位)転倒・転落、(5 位)自殺
- 90 歳～ …(1 位)転倒・転落、(2 位)窒息、(3 位)溺死・溺水、(4 位)その他不慮の事故、(5 位)交通事故

## 2. 救急搬送に関するデータ

### (1) 外的要因による事故種別ごとの救急搬送人数

久留米市における平成27年の外傷による救急搬送人数は3,651人となっており、事故種別では「一般負傷」(53.1%)、「交通事故」(36.6%)が圧倒的に多い。

【図表③】 外的要因による事故種別ごとの救急搬送人数

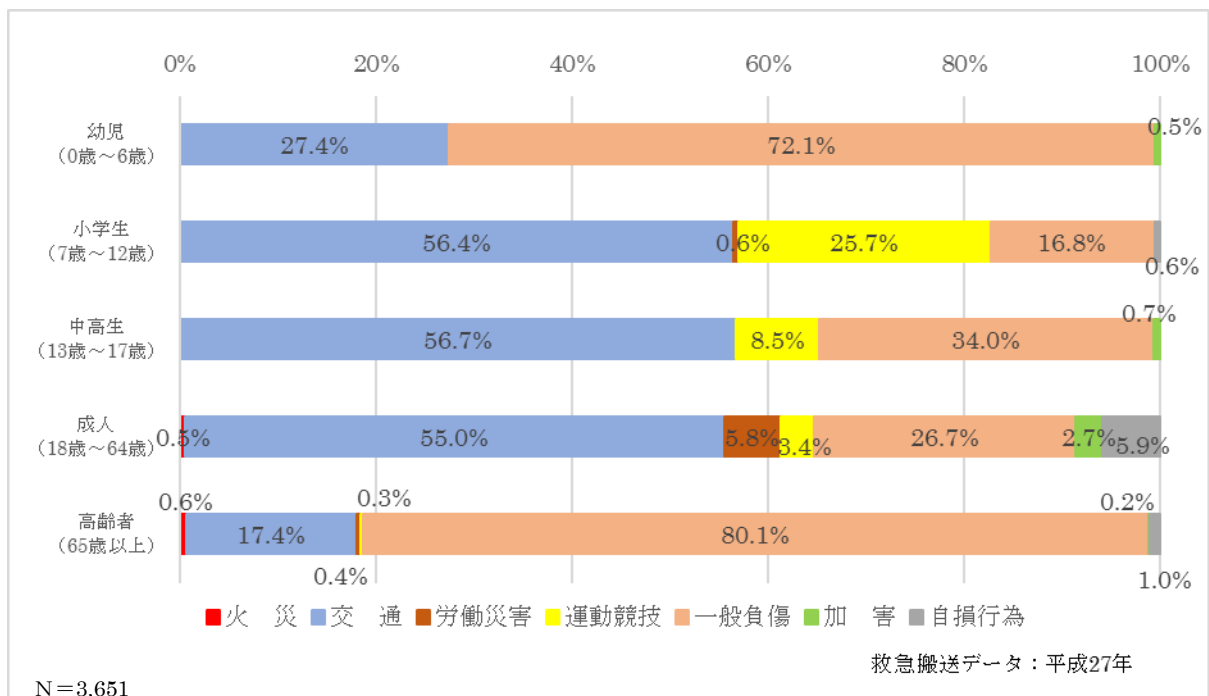


### (2) 年齢層別の事故種別の割合

救急搬送された事故種別を年齢層別にみると、0歳から6歳までの幼児、65歳以上の高齢者では「一般負傷」の割合が共に7割を超えている。

小学生、中高生などの若い年齢層では「交通事故」が5割以上を占め、また他の年齢層に比べ「運動競技」の割合が高い。

【図表④】 救急搬送における年齢層別事故種別の割合

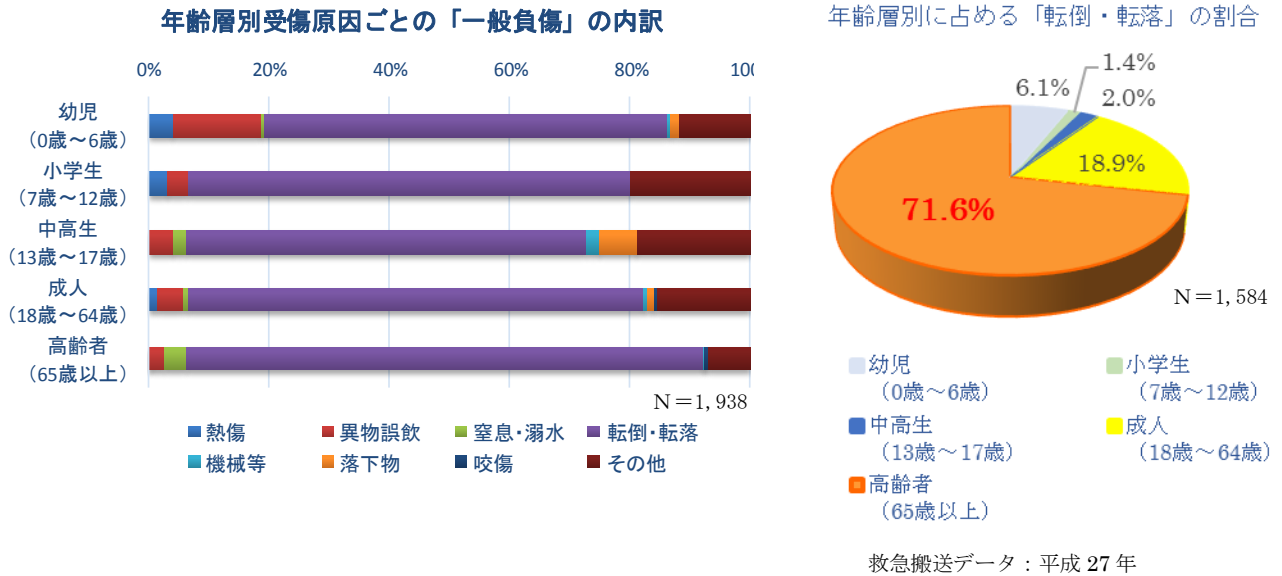


(3) 「一般負傷」の内訳、及び年齢層別に占める「転倒・転落」の割合

救急搬送された「一般負傷」の内訳を受傷原因ごとにみると、どの年齢層においても「転倒・転落」が大半を占めている。

また、年齢層別に占める「転倒・転落」の割合は、65歳以上の高齢者が71.6%となっている。

【図表⑤】年齢層別受傷原因ごとの「一般負傷」の内訳及び年齢層別に占める「転倒・転落」の割合

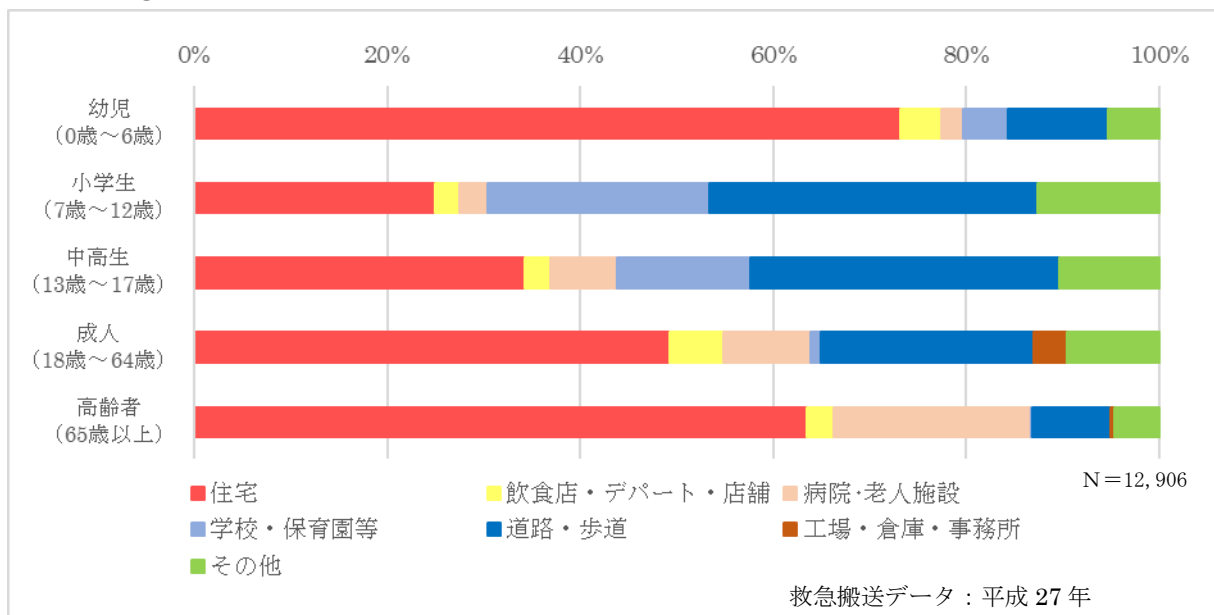


(4) けがの発生場所

比較的どの年齢層においても、「住宅」や「道路・歩道」での発生が多く、特に幼児や高齢者において「住宅」の占める割合が高い。

また、他の年齢層に比べ小学生、中高生は、「学校・保育園等」での発生も多く見られる。

【図表⑥】年齢層別けがの発生場所



### 3. 各分野・項目に関するデータ

久留米市では、様々な統計データやアンケート調査などを収集・分析し、重点的に取り組む6分野・10項目を、以下のとおり取設定しています。

	重点取り組み分野 (6分野)	重点取り組み項目 (10項目)
1	交通安全	①高齢者の交通事故防止 ②自転車事故の防止
2	子どもの安全	①児童虐待の防止 ②学校の安全
3	高齢者の安全	①転倒予防 ②高齢者虐待の防止
4	犯罪・暴力の予防	①犯罪の防止・防犯力の向上 ②DV防止・早期発見
5	自殺予防	自殺・うつ病の予防
6	防災	地域防災力の向上

また、ハイリスクのグループや環境に焦点を当てた予防活動を推進するセーフコミュニティの観点から、久留米市では、ハイリスクグループ（環境）に、「虐待を受けやすい子どもや高齢者」、「DVの被害を受けやすい女性」、「自殺のリスクがある人」、「自然災害による外傷のリスクがある人」を設定しています。

## 〈1〉交通安全

人口動態統計では、ほとんどの年齢層において外的要因による死亡原因の上位に「交通事故」が挙がっており、特に若い年齢層では「自殺」に次いで2位と高い。【図表②】

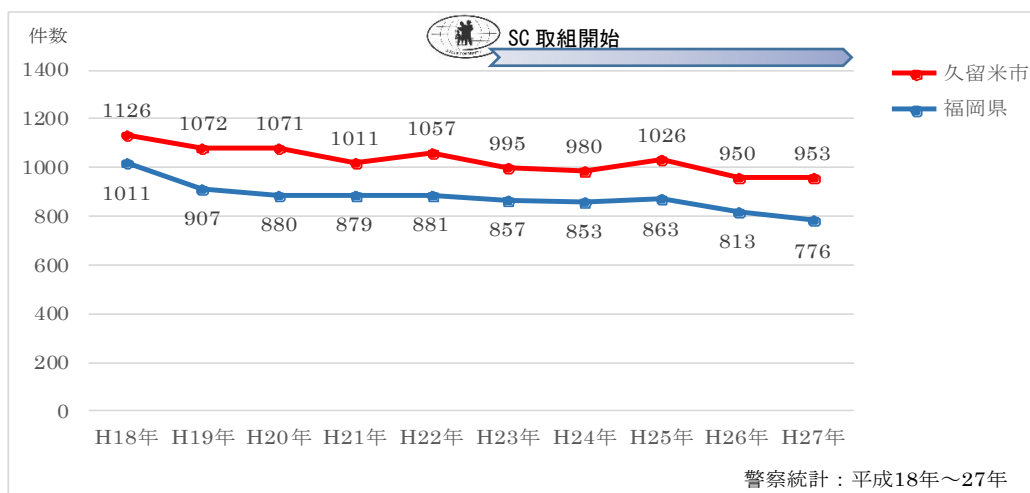
また、救急搬送においても、全体の36.6%を「交通事故」が占めている。【図表④】

### 重点項目：①高齢者の交通事故防止

#### (1) 交通事故発生件数

人口10万人当たりの交通事故発生件数は減少傾向にあるものの、県と比較すると高い水準にある。

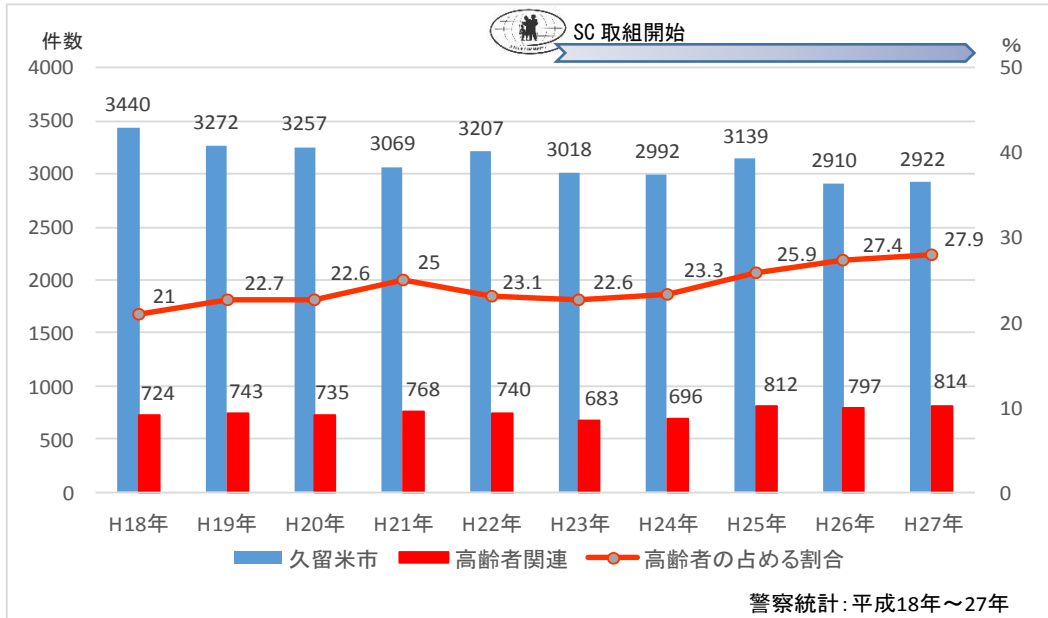
【図表 1-1】人口10万人当たりの交通事故発生件数



(2) 高齢者関連の交通事故発生件数

久留米市内における交通事故発生件数は減少傾向で推移しているが、高齢者関連事故件数は増加している。

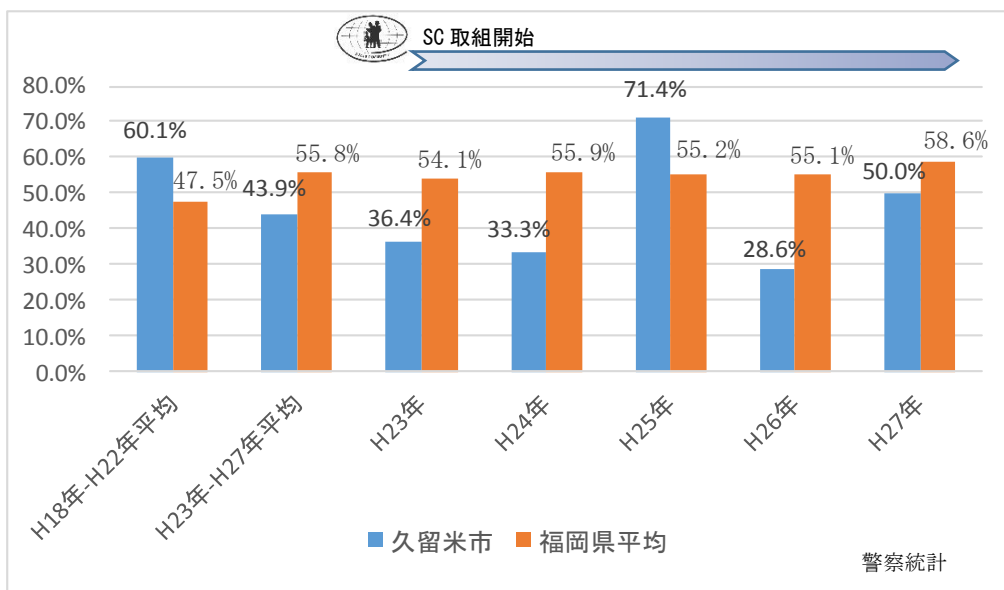
【図表 1-2】交通事故発生件数に占める高齢者関連事故件数の割合



(3) 交通事故死者に占める高齢者の割合

市内の交通事故死者に占める高齢者の割合は、セーフコミュニティ取り組み開始前（平成19年～平成22年の5ヵ年平均）に比べ、それ以降の5年間（平成23年～平成27年）は減少しているものの、年によっては平均を大きく上回っている。

【図表 1-3】交通事故死者に占める高齢者の割合



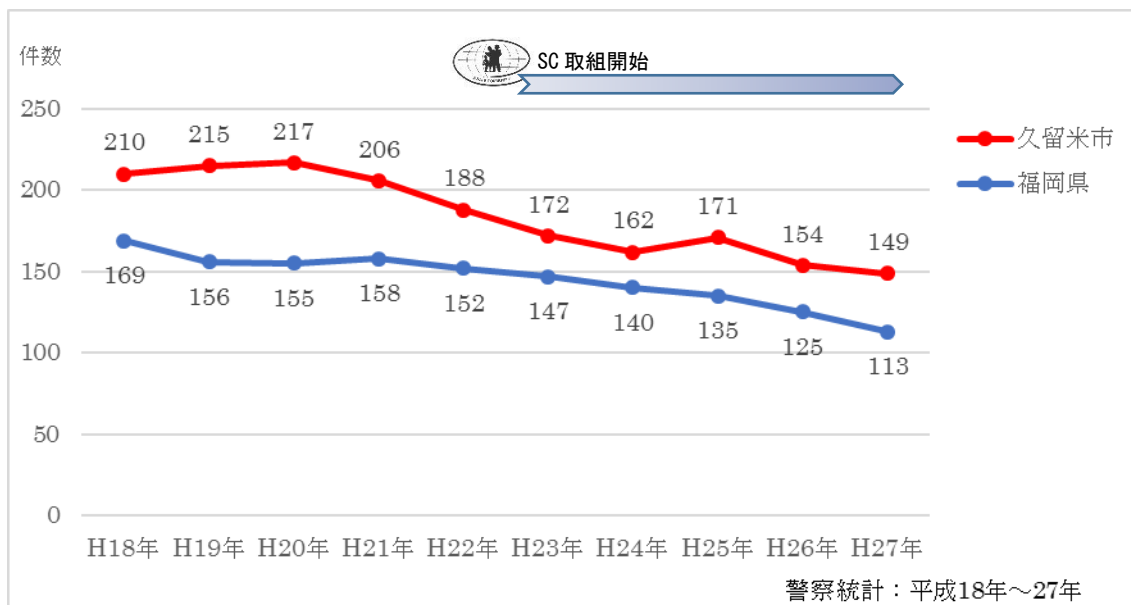
## 重点項目：②自転車事故の防止

自転車の運転マナーの悪化や自転車が加害者となる交通事故が社会問題となっており、平成27年6月に改正道路交通法が施行されるなど、一人ひとりのルール遵守・マナー向上が求められている。【※環境・状況等により】

### (4) 自転車事故発生件数

人口10万人当たりの自転車事故発生件数は減少しているものの、県と比較すると高い水準にある。

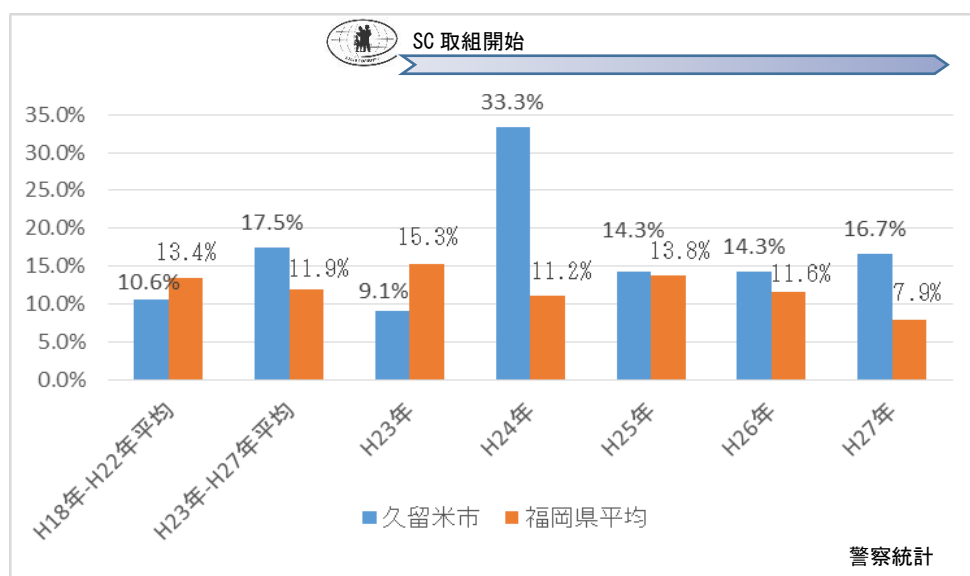
【図表 1-4】 人口10万人当たりの自転車事故発生件数



### (5) 交通事故死者に占める自転車関連事故の割合

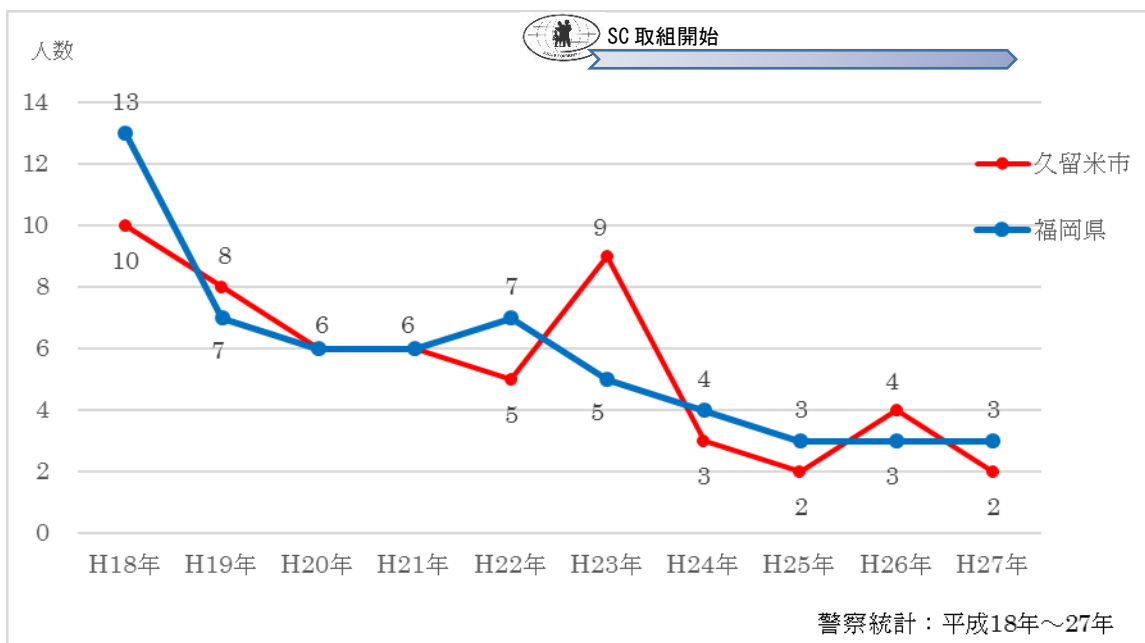
対全事故比率は減少傾向にあるが、交通事故死者数に占める割合は増えている。

【図表 1-5】 交通事故死者に占める自転車関連事故の割合



(6) 飲酒運転事故発生件数

【図表 1-6】人口 10 万人当たりの飲酒運転事故発生件数





## 〈2〉子どもの安全

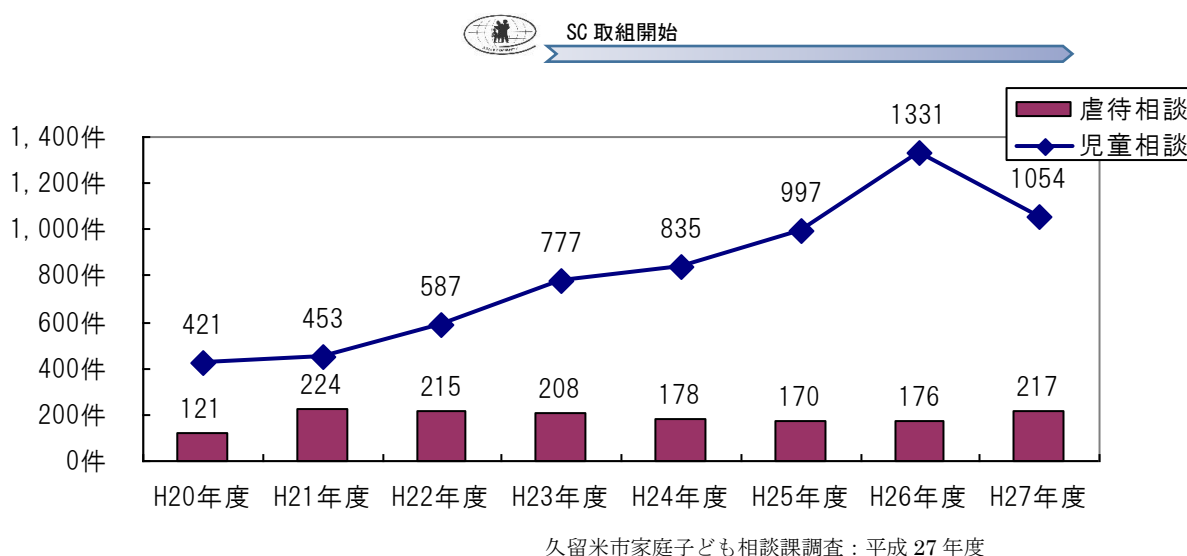
### 重点項目：①児童虐待の防止

平成 22 年 6 月に、市をはじめとする行政・関係機関が虐待を把握して対応していた子どもが死亡する事件が発生。また、全国的に児童虐待の相談件数は増加の一途をたどり、社会全体で早急に解決すべき重要な課題となっている。【※環境・状況等により】

#### (1) 児童相談や虐待相談の対応件数

家庭子ども相談課における児童相談件数は、平成 27 年度は減少しているものの、近年、増加傾向で推移している。

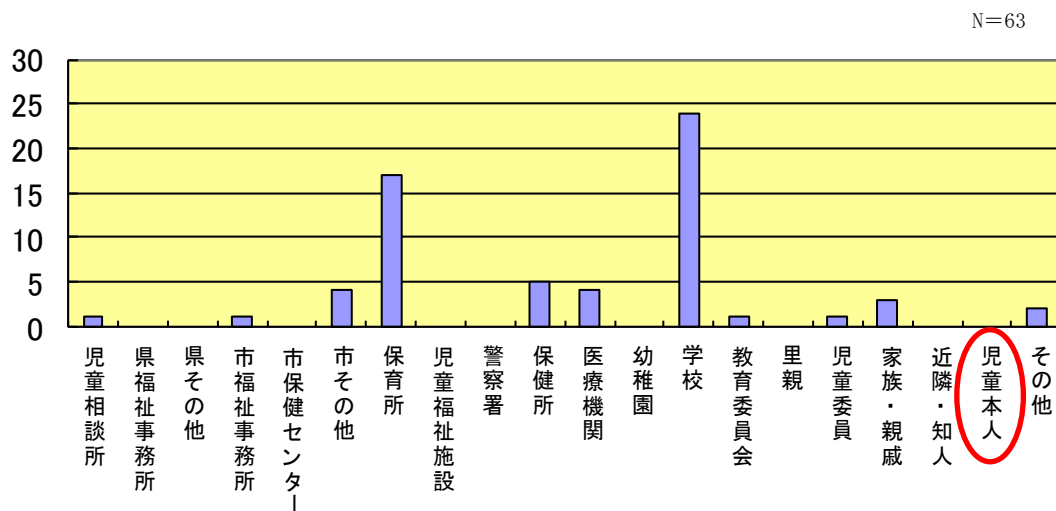
【図表 2-1】 児童相談及び虐待相談対応件数



#### (2) 経路別虐待相談受付件数

虐待相談の受付件数を経路別にみると、学校や保育所からの相談は多いが児童自身からは少ない。

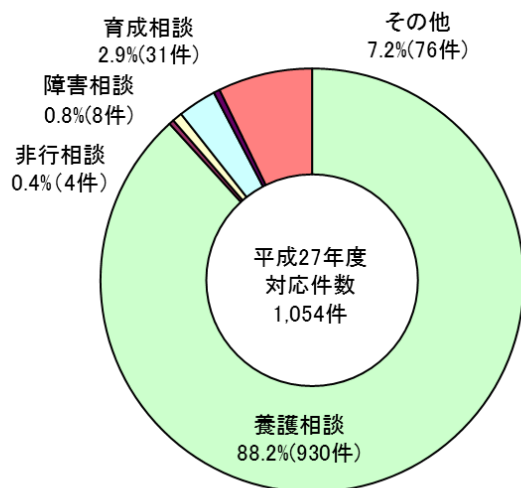
【図表 2-2】 経路別虐待相談受付件数



(3) 児童相談の種類別対応件数

児童相談の内容については、「養護相談」が全体の87.4%を占める。

【図表 2-3】 児童相談種類別対応件数

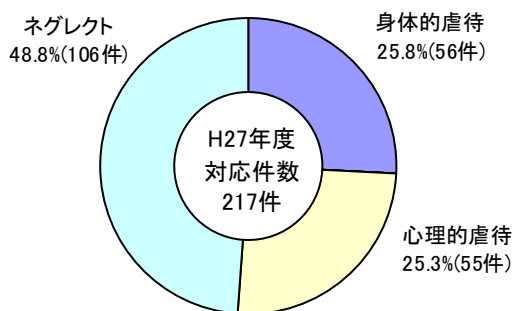


久留米市家庭子ども相談課:平成27年度

(4) 虐待の種類

虐待の種類では、ネグレクトが最も多い。

【図表 2-4】 虐待の種類別対応件数

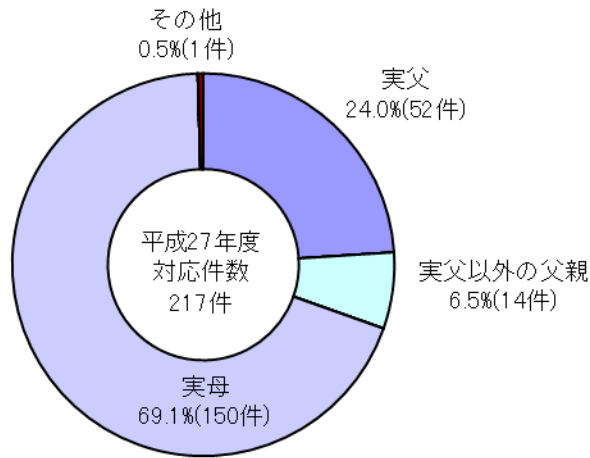


久留米市家庭子ども相談課調査:平成27年度

(5) 虐待者の状況

児童虐待の加害者は、実母が最も多く、全体の6割以上を占めている。

【図表 2-5】虐待者別対応件数



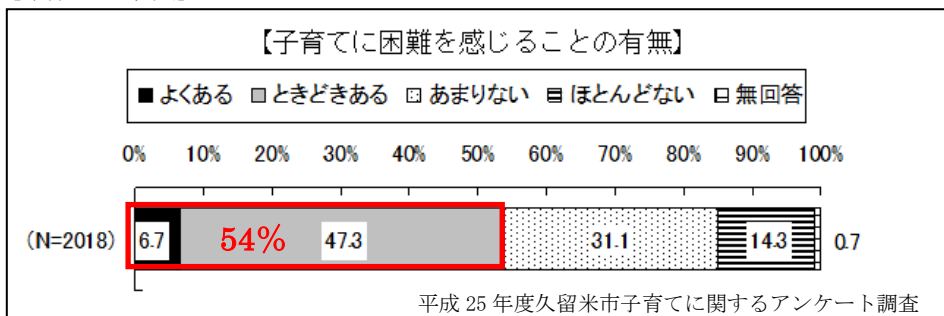
久留米市家庭子ども相談課調査:平成27年度

(6) 子育てに関する不安感

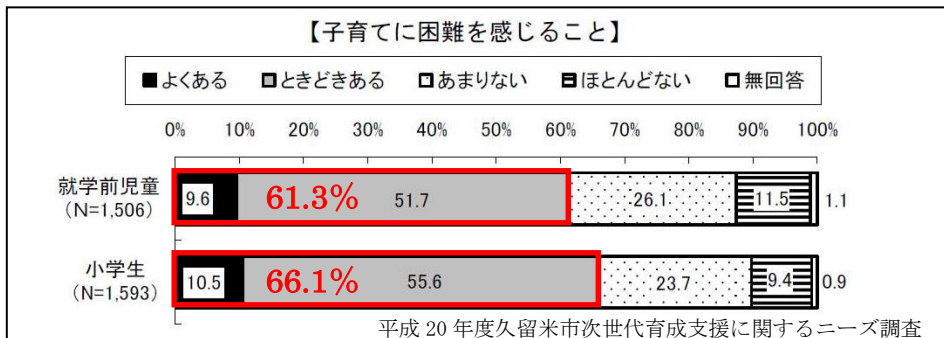
子育てに関する不安についてたずねたところ、子育てに困難を感じるがあると回答した保護者が5割以上いる。

【図表 2-6】「子育てに困難を感じることの有無」

[平成 25 年度]

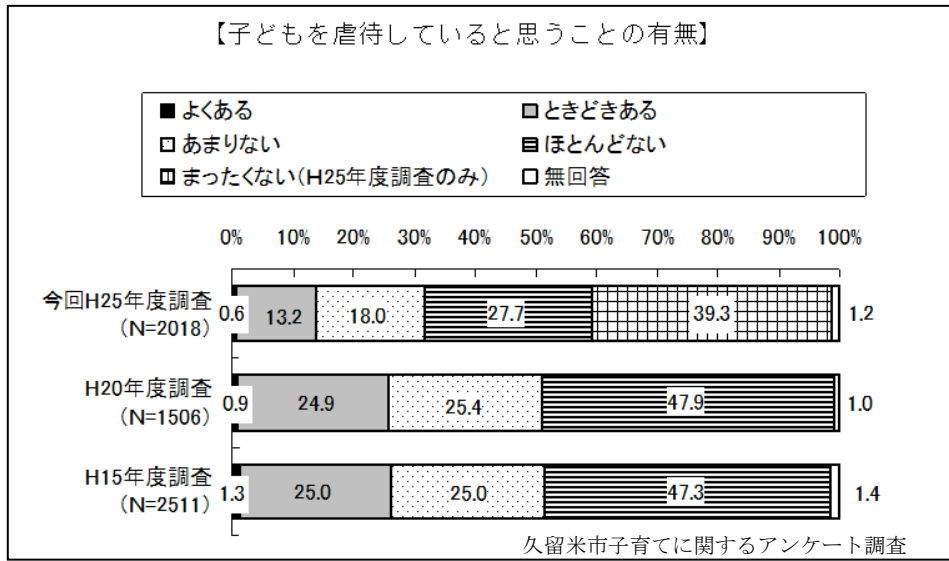


[平成 20 年度]



また、「自分の子どもを虐待しているのではないかと感じた」と回答した保護者が1割強いる。

【図表 2-7】「子どもを虐待しているのではないかとすることがある」



## 重点項目：②学校の安全

「楽しく安全に過ごせる学校づくり」に対する市民の期待は大変高いものがある。  
その中で、地震や火災などの災害に対して、自ら身を守る意識や実践力を身につけさせることは、学校で楽しく安全に過ごす上で大変重要である。

また、学校を核として、交通安全、防犯等に対する意識と知識を高めることは、子ども達に生きる力を育む上で大変重要である。【※環境・状況等により】

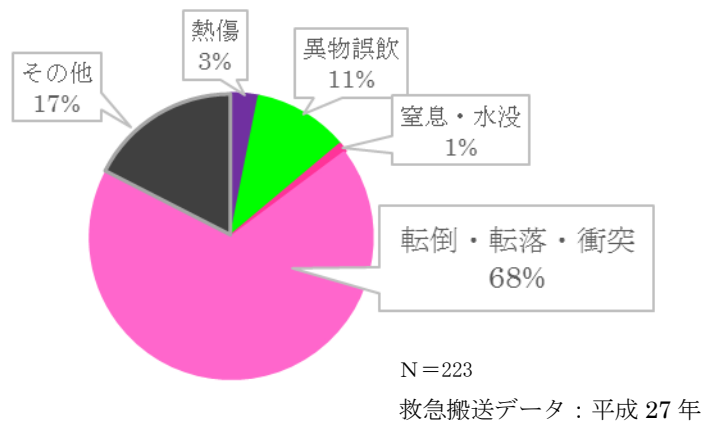
(1) 子ども（0～17歳まで）の救急搬送における事故種別の割合

子ども（0歳～17歳まで）の「一般負傷」による救急搬送が多い。【図表⑤】

(2) 子ども（0～17歳まで）の受傷原因別の「一般負傷」の内訳

子どもの「一般負傷」の内訳を受傷原因ごとにみると、「転倒・転落・衝突」が6割以上を占めている。

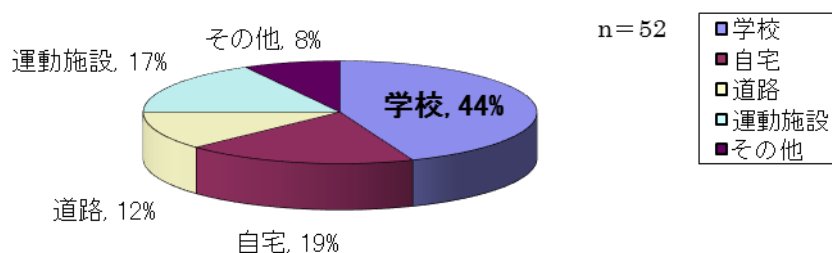
【図表 2-8】子ども（0～17歳まで）の受傷原因別「一般負傷」の内訳



(3) 子ども（0～15歳未満）がけがをした場所

子どもがけがをした場所は、一日の大半を過ごす「学校」が多い。

【図表 2-9】子どもがけがをした場所



平成27年度市内医療機関による外傷発生調査

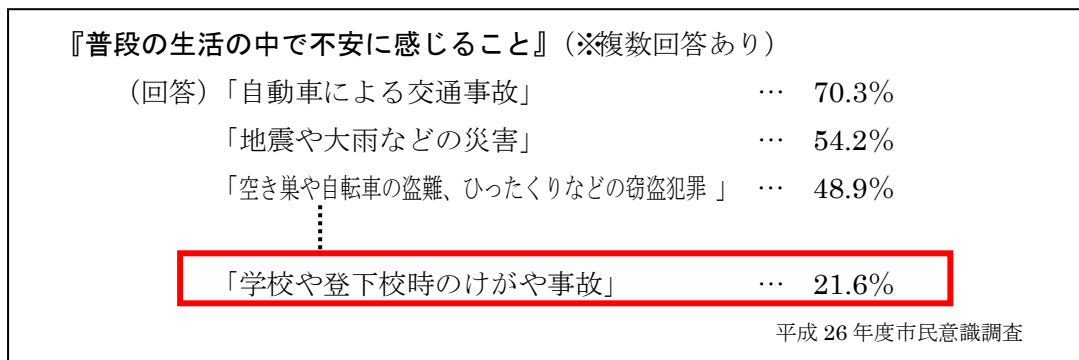
(4) 学校生活・教育に対する不安や期待

普段の生活の中で不安に感じることは、交通事故や災害、犯罪と続く中、「学校や登下校時のけがや事故」に対する不安が挙げられている。

また、「犯罪や事故から身を守る安全に関する教育」への関心が高く、「いじめ対策や体罰防止を徹底し、安心して学べる学校づくりの推進」への期待が最も多いという結果がみられる。

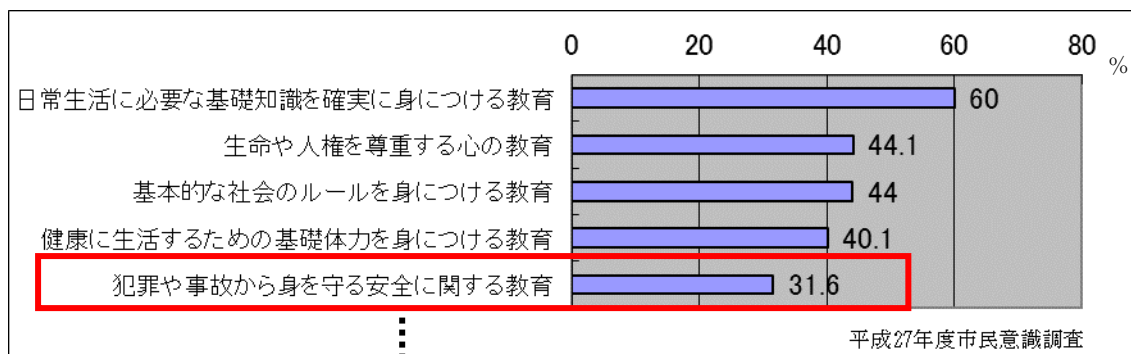
【図表 2-10】「学校や登下校時のけがや事故への不安感」

N=1,711



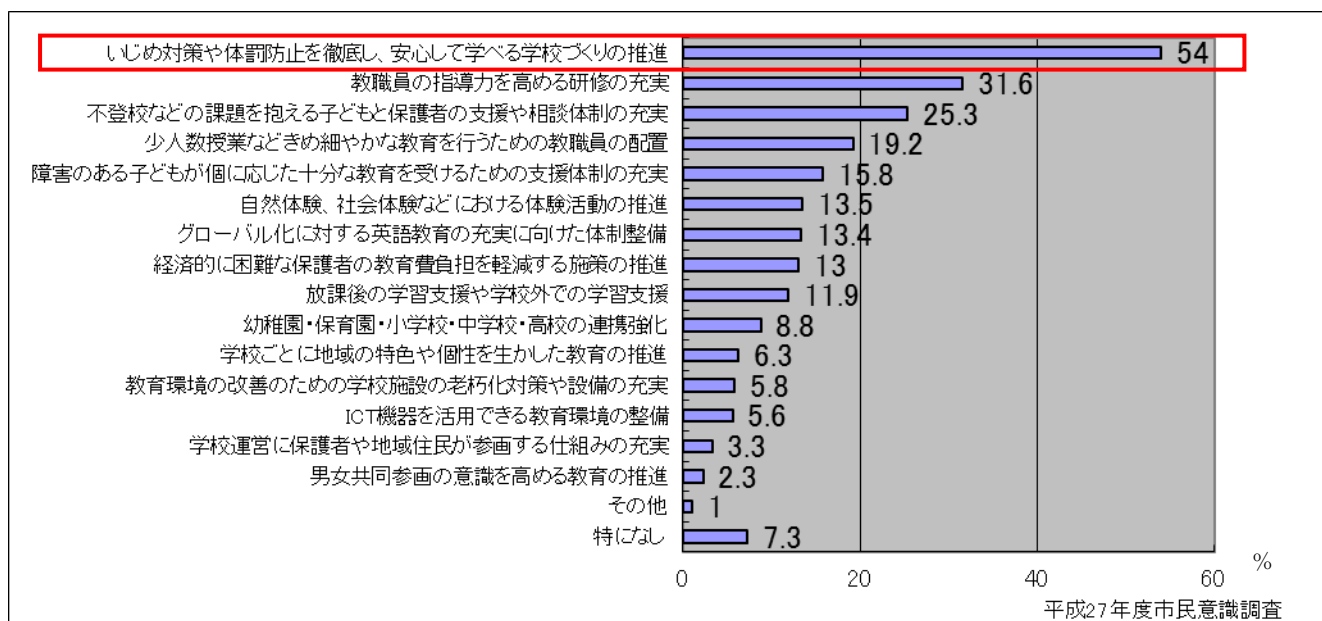
【図表 2-11】「小学校で特に力を入れてほしいこと上位 5 項目」

N=1,736



【図表 2-12】「教育行政に期待すること」

N=1,736



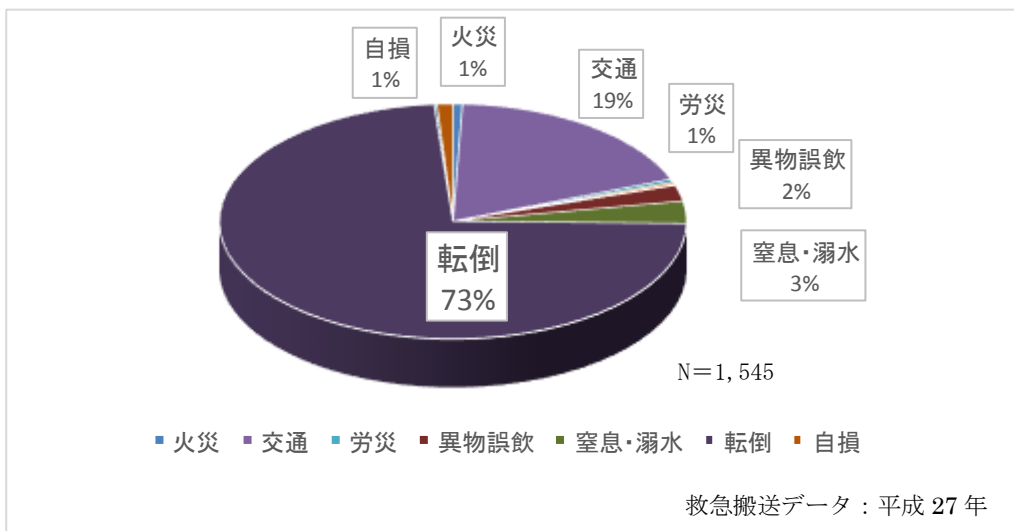
### 〈3〉 高齢者の安全

#### 重点項目：①転倒予防

##### (1) 高齢者のけがの原因

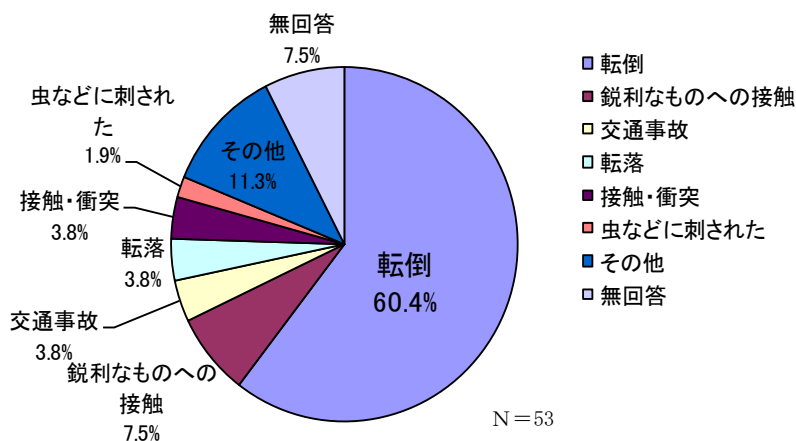
外的要因により救急搬送された高齢者のうち、73%が「転倒」によるものである。

【図表 3-1】 救急搬送における高齢者の受傷原因の割合



また、市内の高齢者を対象にけがの原因についてたずねたところ、転倒によるものが第1位で60.4%を占め、原因の中で群を抜いている。

【図表 3-2】 高齢者のけがの原因

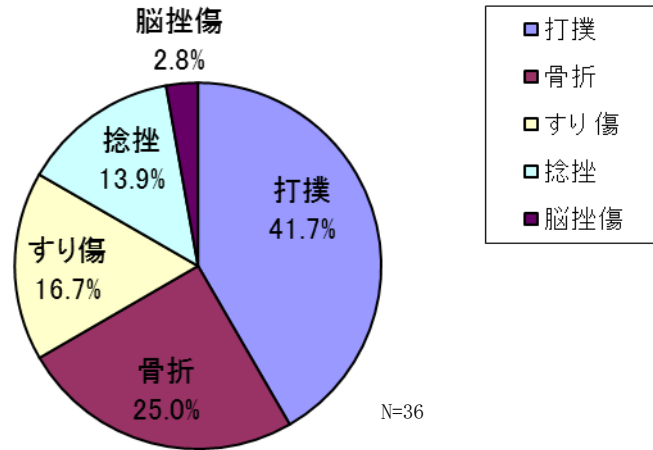


平成 26 年度久留米市民の事故やケガなどについての実態調査

(2) 転倒した高齢者のけがの状況

転倒をしてけがをした高齢者のうち、4人に1人が骨折という重症を負っている。

【図表 3-3】 転倒した高齢者のけがの状況

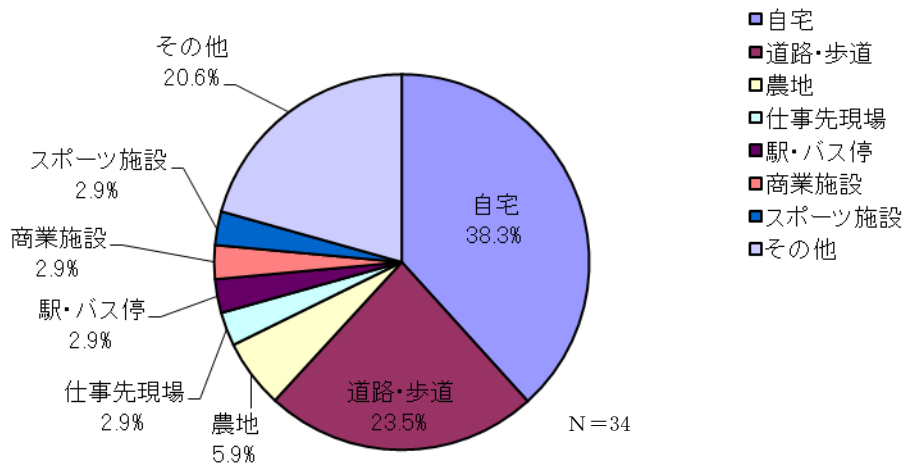


平成26年度久留米市民の事故やケガなどについての実態調査

(3) 高齢者が転倒した場所

高齢者に転倒した場所についてたずねたところ、3分の1以上は「自宅」と回答しており、転倒は高齢者の身近なところ、日常生活の中で起こっている。

【図表 3-4】 高齢者が転倒した場所



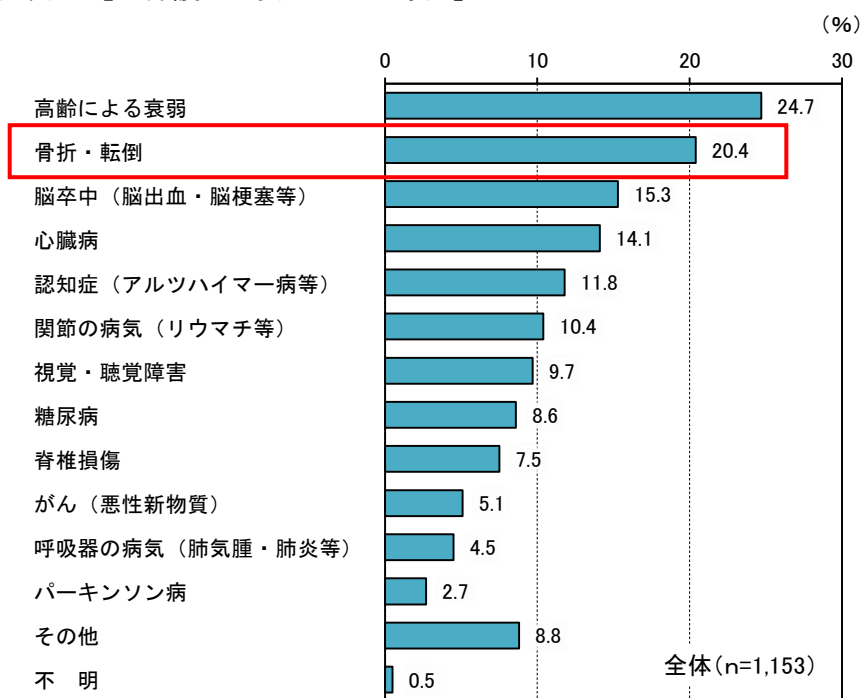
平成 26 年度久留米市民の事故やケガなどについての実態調査



(4) 介護が必要になった原因

介護が必要になった原因のうち、「骨折・転倒」によるものが全体の 20.4%である。

【図表 3-5】「介護が必要になった原因」



平成 25 年度高齢者実態調査

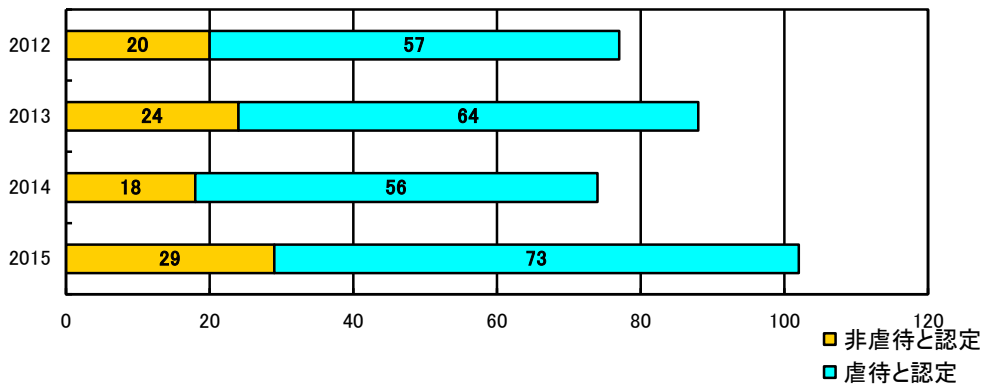
## 重点項目：②高齢者虐待の防止

介護疲れ等による介護放棄や暴力行為など高齢者に対する虐待が社会問題になっており、虐待ケースの早期発見、早期対応のため、関係機関や団体、地域によるネットワークの構築などが必要となっている。[※環境・状況等により]

### (1) 高齢者虐待相談・認定件数

久留米市において、高齢者虐待相談・認定件数は増減があるものの、増加の兆しを見せている。

【図表 3-6】虐待に関する相談件数と認定件数

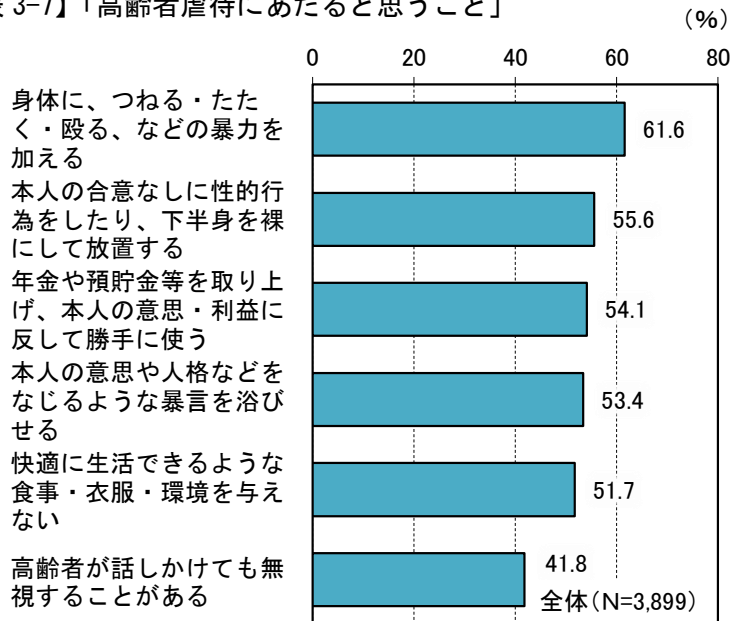


長寿支援課統計資料：平成 24 年度～27 年度

### (2) 虐待という行為に対する認識

虐待には様々な形態があるが、直接高齢者に暴力を加えることさえ、4 割近くは虐待の認識がない。また高齢者に対して精神的な苦痛を与えることを虐待ととらえる人は半数以上いる。

【図表 3-7】「高齢者虐待にあたると思うこと」

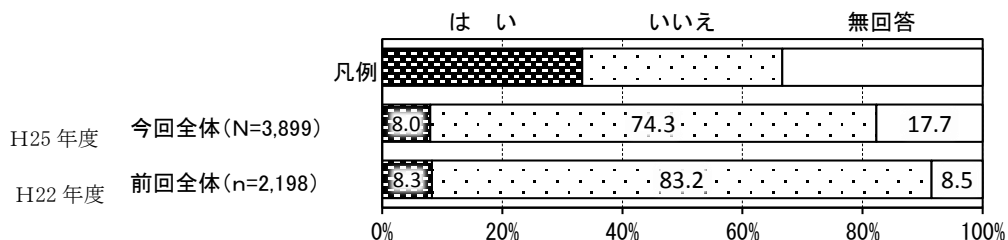


平成 25 年度高齢者実態調査

(3) 虐待を見聞きしたことがある人

高齢者の虐待を見聞きした経験のある人の割合は前回調査と同様に全体の1割以下となっており、経験のない人が多い。

【図表 3-8】「身近に高齢者虐待を見聞きしたこと」



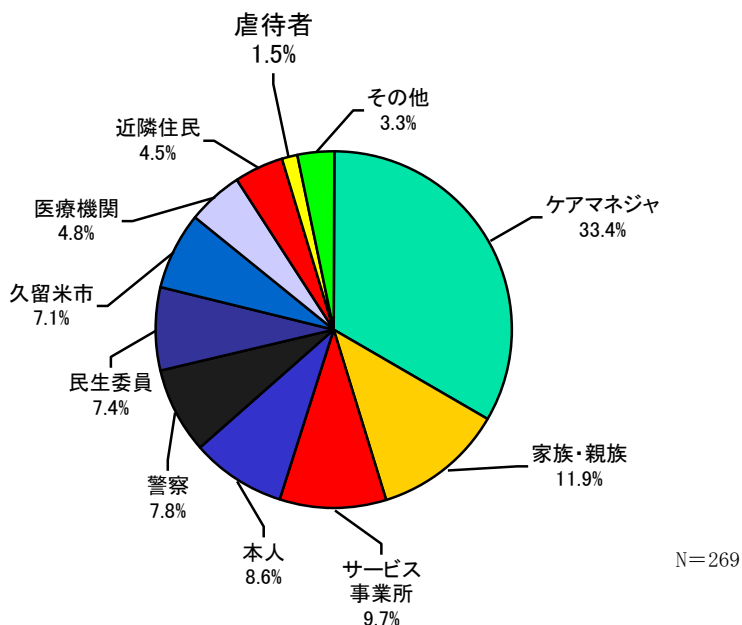
注) 平成 22 年度は一般高齢者のみ

平成 25 年度高齢者実態調査

(4) 虐待に関する通報・相談経路

高齢者に接する機会が多いケアマネージャや介護サービス事業所などの第三者からの通報が多い。

【図表 3-9】虐待に関する通報・相談経路

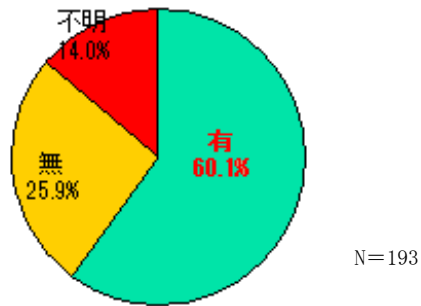


長寿支援課統計資料：25 年度～27 年度

(5) 被虐待者が認知症高齢者である割合

実際に虐待を受けた高齢者の6割が認知症高齢者となっている。

【図表 3-10】 被虐待者が認知症高齢者である割合

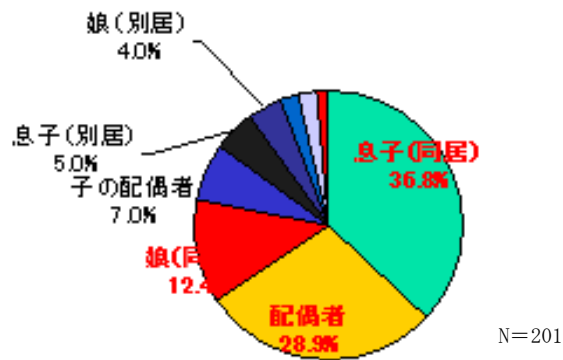


長寿支援課統計資料：25年度～27年度

(6) 虐待者の状況

高齢者虐待の加害者は、息子、配偶者、娘などほとんどが同居家族である。

【図表 3-11】 虐待者



長寿支援課統計資料：25年度～27年度

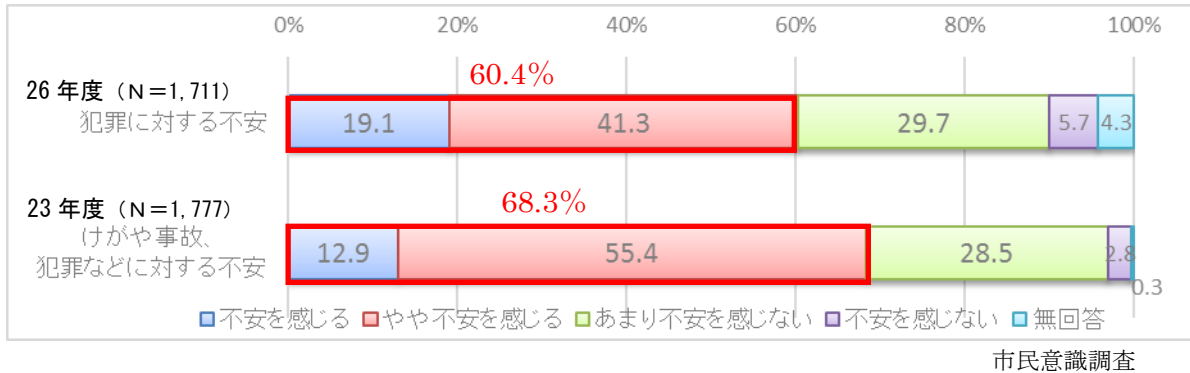
## 〈4〉 犯罪・暴力の予防

### 重点項目：①犯罪の防止・防犯力の向上

#### (1) 犯罪に対する不安感

市民意識調査の中で、「犯罪に対する不安感」をたずねたところ、平成23年度調査結果に比べ、「不安感」は7.9%減少したものの、依然60.4%が犯罪に対する不安を抱えている。

【図表 4-1】 「犯罪に対する不安感」

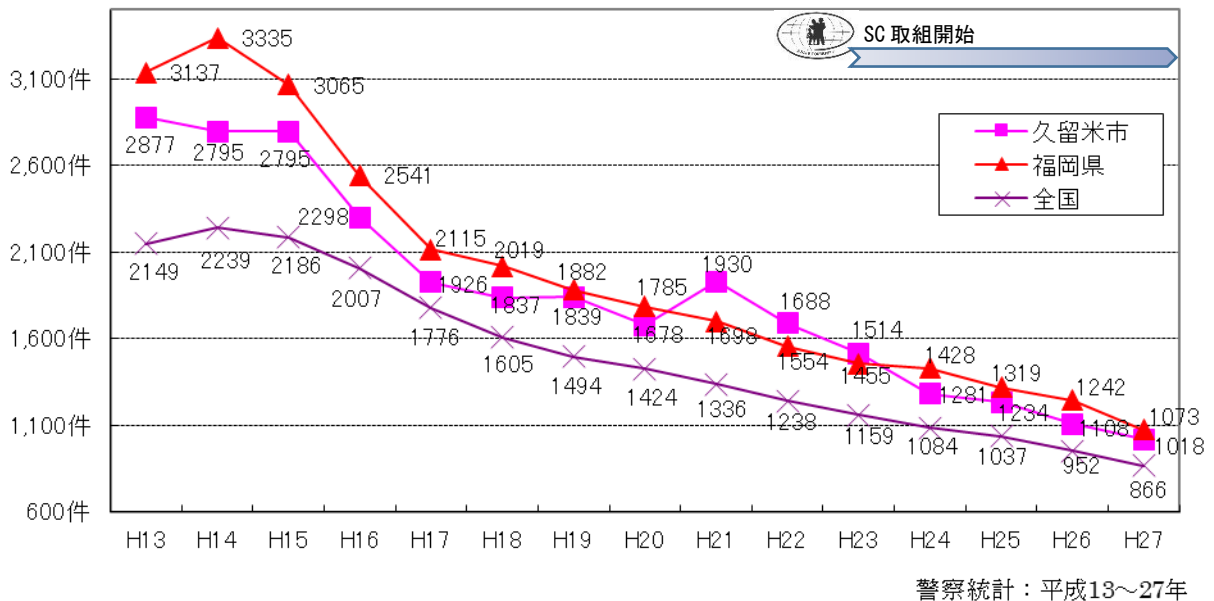


#### (2) 人口10万人当たりの一般刑法犯の認知件数

久留米市における一般刑法犯の認知件数は、平成13年の7,833件をピークに減少傾向にあり、平成27年は3,120件であった。

人口10万人当たりの一般刑法犯認知件数を比較すると、平成21年から平成23年にかけて県よりも高い水準にあったが、平成24年以降は県よりも低くなっている。また、全国と比較すると、依然高い水準にある。

【図表 4-2】 人口10万人当たりの一般刑法犯認知件数



※一般刑法犯とは、刑法犯全体から交通安全業過（交通事故によって人を死傷させた過失犯）を除いたもの。

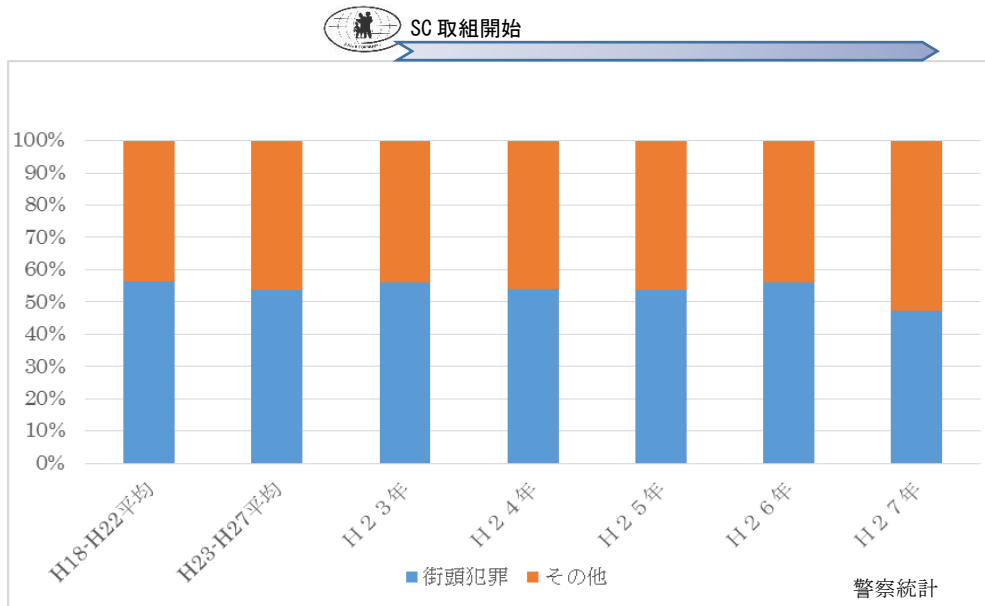
※[一般刑法犯の分類]

「凶悪犯」…殺人、強盗、放火、強姦      「粗暴犯」…暴行、脅迫、恐喝      「窃盗犯」…車上狙い、自転車等、空き巣  
「知能犯」…詐欺、横領、通貨偽造      「風俗犯」…賭博、強制・公然わいせつ      「その他」…公務執行妨害、住居侵入 等

### (3) 街頭犯罪の認知割合

一般刑法犯認知件数のうち、市民生活の身近で起きる街頭犯罪が占める割合が高い（約半数）。

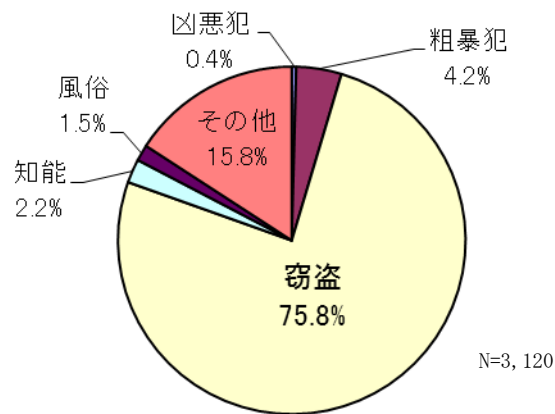
【図表 4-3】 街頭犯罪の占める割合



### (4) 一般刑法犯の犯罪種別

一般刑法犯の約 75%は「窃盗」である。

【図表 4-4】 一般刑法犯の犯罪種別認知割合

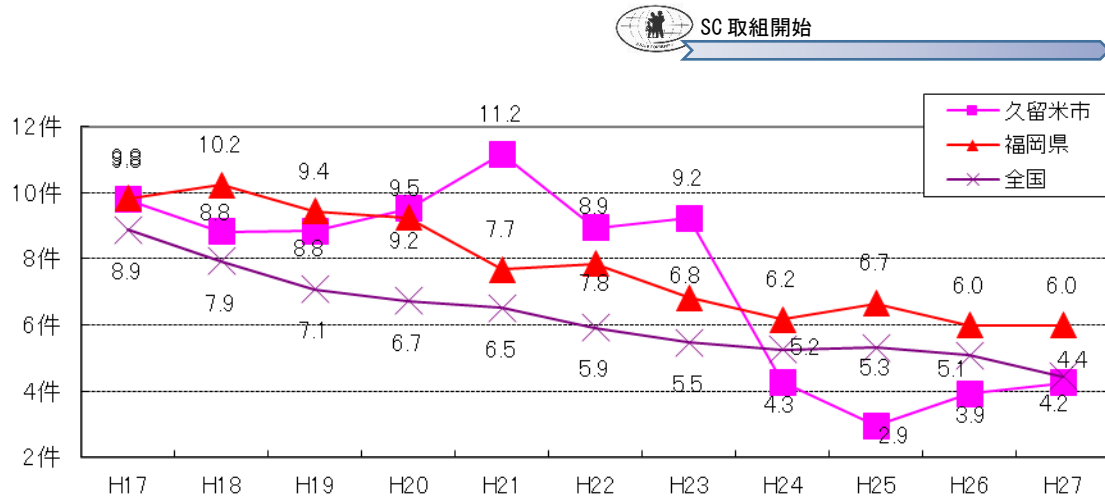


警察統計：平成 27 年

(5) 凶悪犯・粗暴犯の認知件数

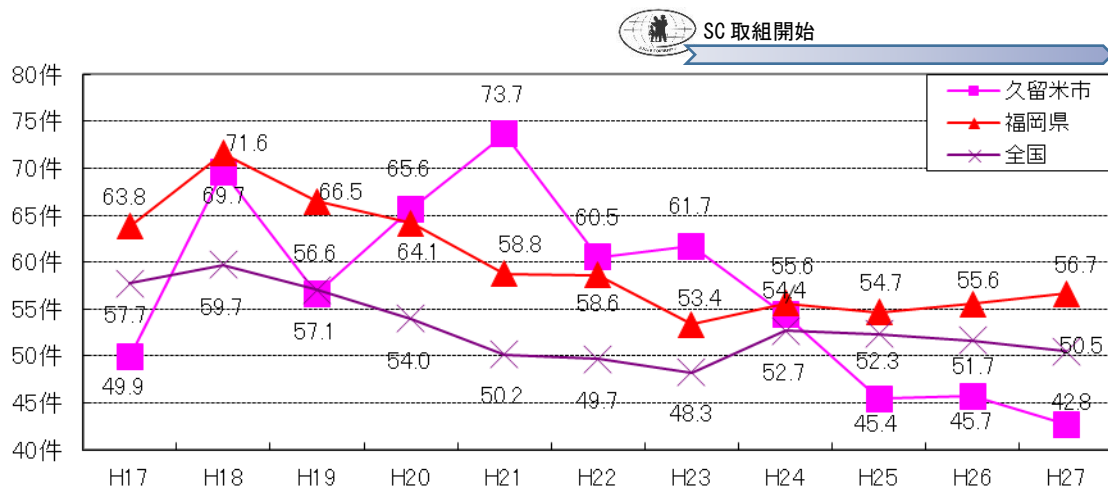
外傷や事故の原因に結びつくと考えられる「凶悪犯」や「粗暴犯」の人口10万人当たりの認知件数は、平成24年以降、県や全国と比較して低い水準にある。

【図表 4-5】人口10万人当たりの凶悪犯認知件数



警察統計：平成17～27年

【図表 4-6】人口10万人当たりの粗暴犯認知件数

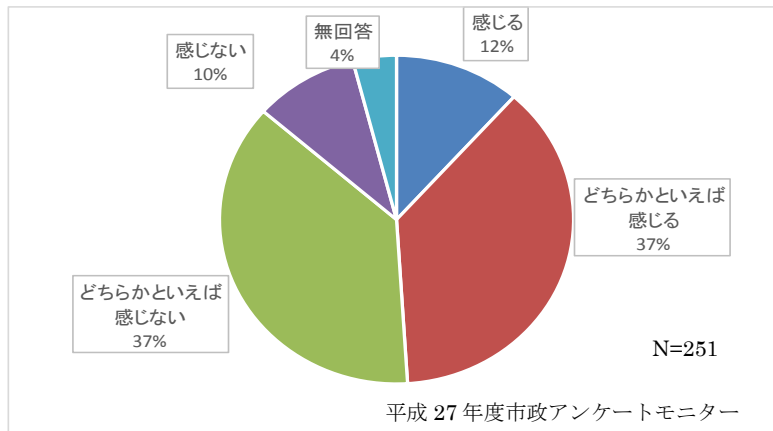


警察統計：平成17年～27年

(6) 犯罪への不安感

自身や家族などが日常生活で、何らかの犯罪に巻き込まれる不安を約半数の方が感じており、特に路上を不安に思う人が多い。

【図表 4-7】「犯罪に巻き込まれるかもしれない不安感」



(7) ニセ電話詐欺の被害

オレオレ詐欺、還付金詐欺などのニセ電話詐欺被害が相次ぎ、平成 27 年は過去最悪の被害額となるなど、高齢者などを狙った悪質な犯罪が増えている。

【図表 4-8】ニセ電話詐欺被害状況

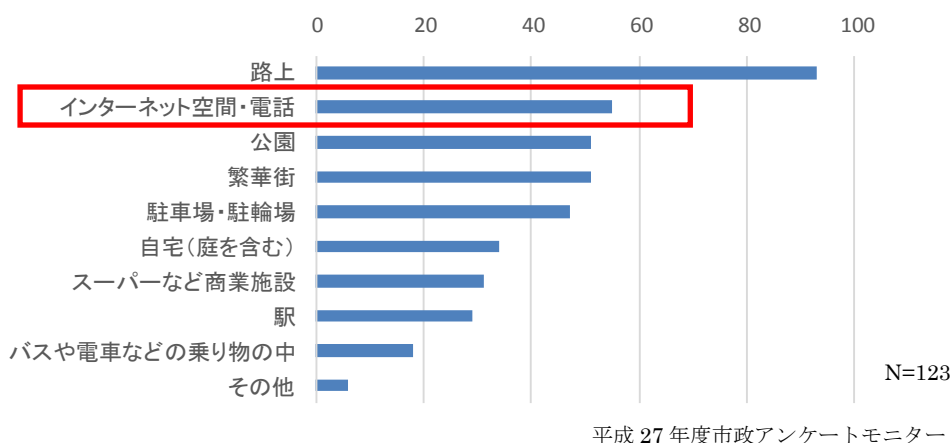
平成 26 年			平成 27 年		
	認知件数	被害金額		認知件数	被害金額
全国	12,444	565.5 億円	全国	12,768	476.8 億円
福岡県	272	12 億 9188 万円	福岡県	497	18 億 4,346 万円

警察統計

(8) 電話やインターネットを通じた被害への不安

犯罪にあう不安を感じる場所として、電話やインターネット空間をあげる人が路上に次ぐ第 2 位となっている。

【図表 4-9】「被害にあうかもしれないと不安に思う場所」



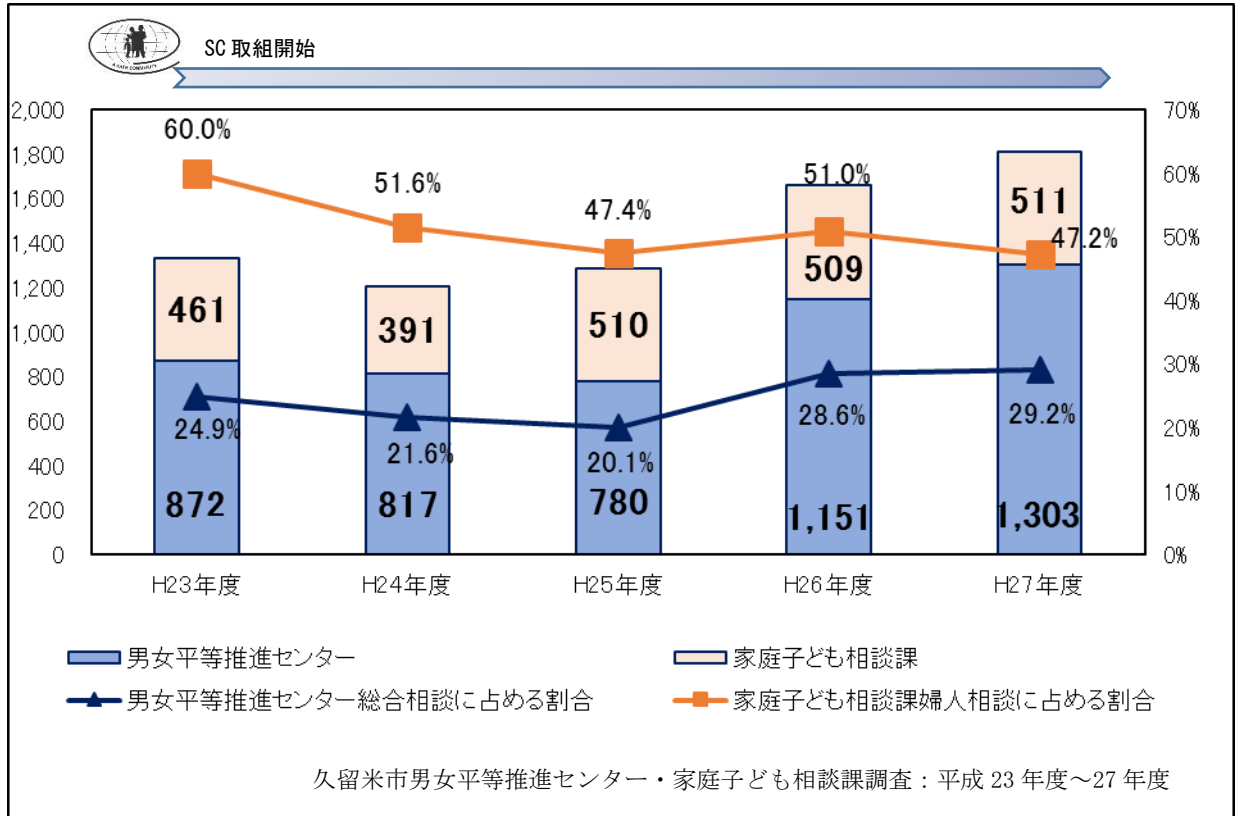


## 重点項目：②DV防止・早期発見

### (1) DVの相談件数

久留米市男女平等推進センター、家庭子ども相談課へのDVに関する相談件数は、近年増加している。

【図表 4-10】久留米市男女平等推進センター、家庭子ども相談課におけるDV相談件数



【図表 4-11】久留米市男女平等推進センターの総合相談・家庭子ども相談課の婦人相談におけるDV相談件数の推移

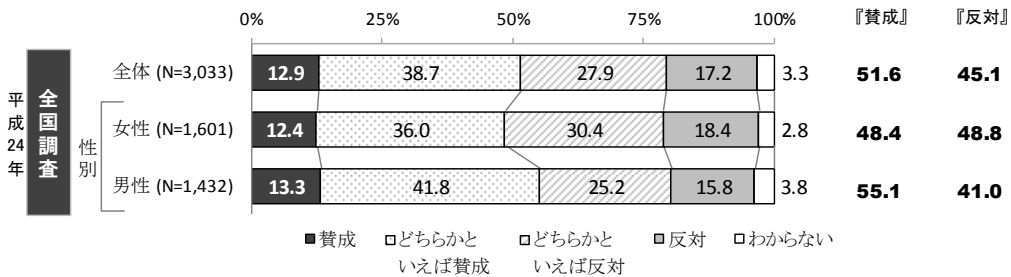
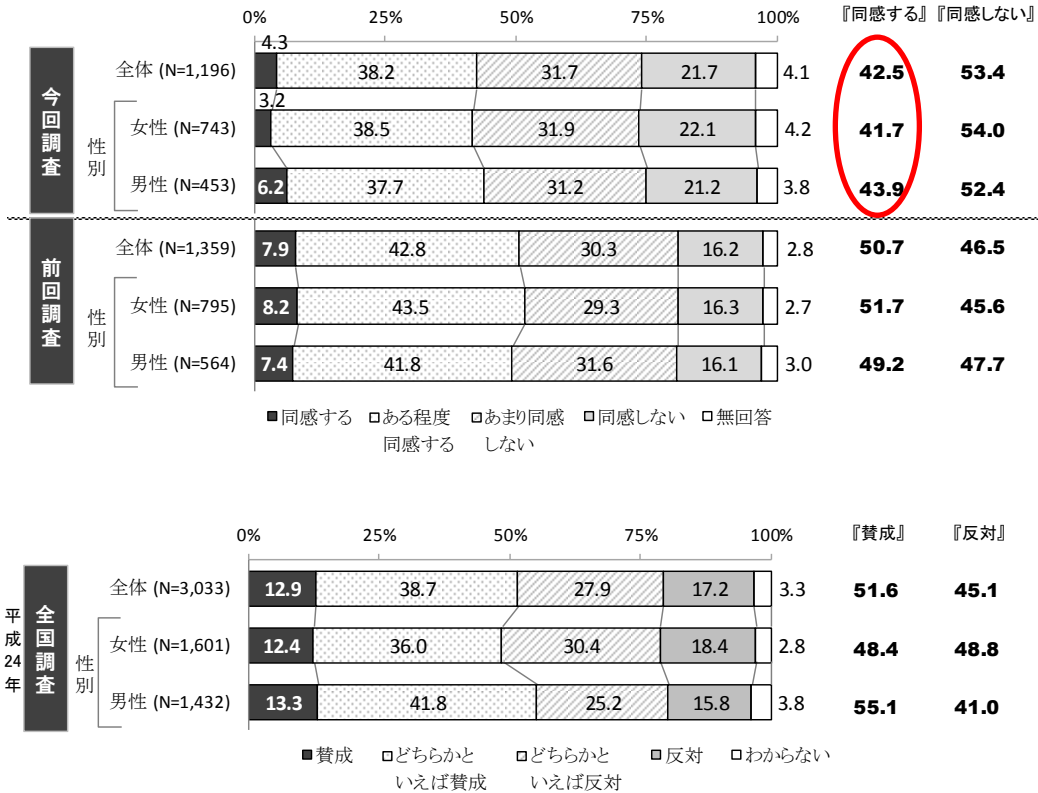
	男女平等推進センター			家庭子ども相談課	
	総合相談件数	うち主訴がDVの相談	DVがらみの相談	婦人相談件数	うちDV相談
H23 年度	3,501	872 (24.9%)	1,654 (47.2%)	804	461 (60.0%)
H24 年度	3,783	817 (21.6%)	1,877 (49.6%)	757	391 (51.6%)
H25 年度	3,874	780 (20.1%)	1,803 (46.5%)	1,075	510 (47.4%)
H26 年度	4,019	1,151 (28.6%)	2,046 (50.9%)	999	509 (51.0%)
H27 年度	4,460	1,303 (29.2%)	2,077 (46.6%)	1,083	511 (47.2%)

久留米市男女平等推進センター・家庭子ども相談課調査：平成 23 年度～27 年度

(2) 性別による固定的な役割分担の意識

「男は仕事、女は家庭」という固定的性別役割分担意識に「同感（賛成）する」人の割合が4割いる。

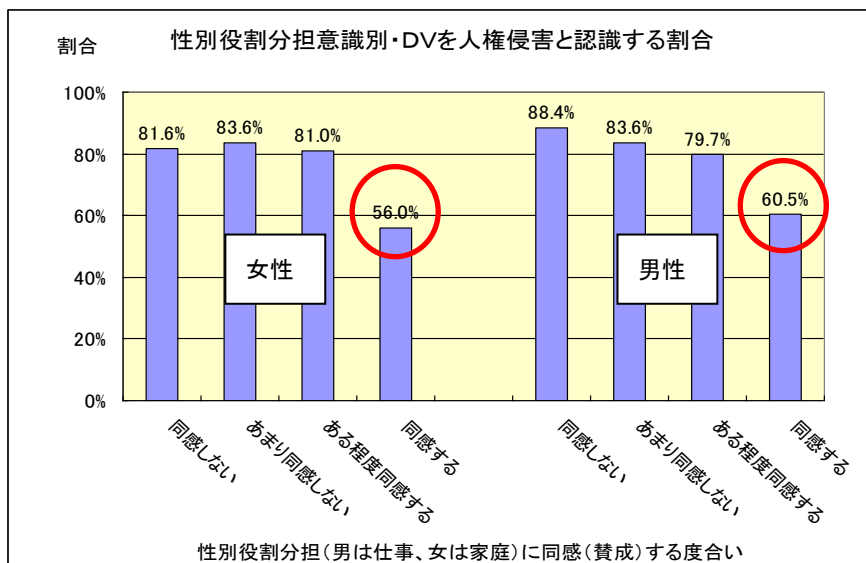
【図表 4-12】 「固定的性別役割分担意識『男は仕事、女は家庭』に同感（賛成）する人の割合」



平成 26 年度久留米市男女平等に関する市民意識調査

また、固定的性別役割分担意識に「同感（賛成）する」人ほど、「DVを女性への人権侵害と認識する」割合が少なくなっている。

【図表 4-13】 「固定的性別役割分担意識『男は仕事、女は家庭』に同感（賛成）する人の割合とDVを人権侵害と認識する割合の関係」

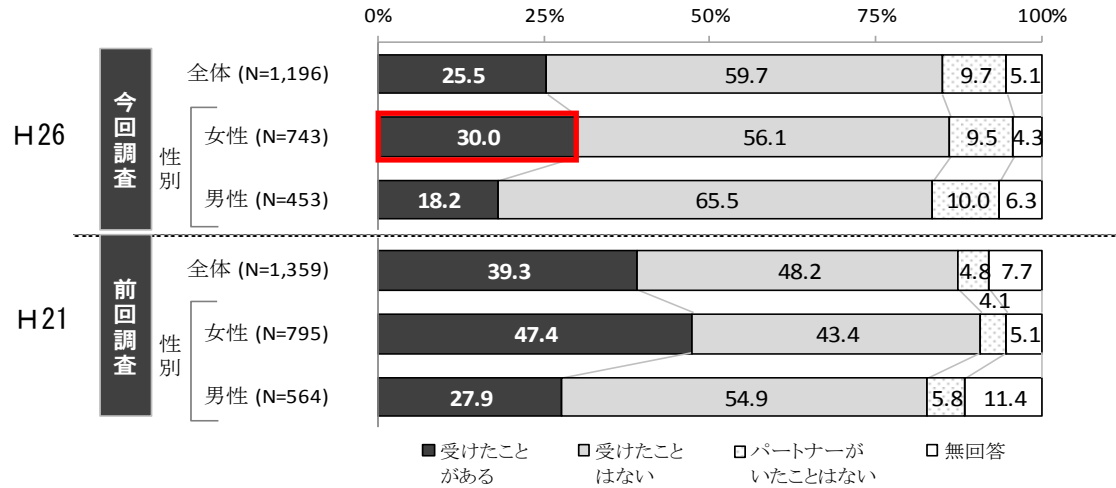


平成 26 年度久留米市男女平等に関する市民意識調査

(3) パートナーからのDV経験の有無

平成21年の調査の設問は「今までにパートナーから暴力を受けたことがありますか」としており、平成26年の調査では、「この5年間にパートナーから暴力を受けたことがありますか」と、聞き方を変更しているため、厳密な比較はできないが、それでも3割の女性がパートナーから暴力を受けている。

【図表 4-14】「この5年間に配偶者・パートナー（夫・妻・恋人）がいる（いた）人のうち、DVを受けた経験がある人の割合」

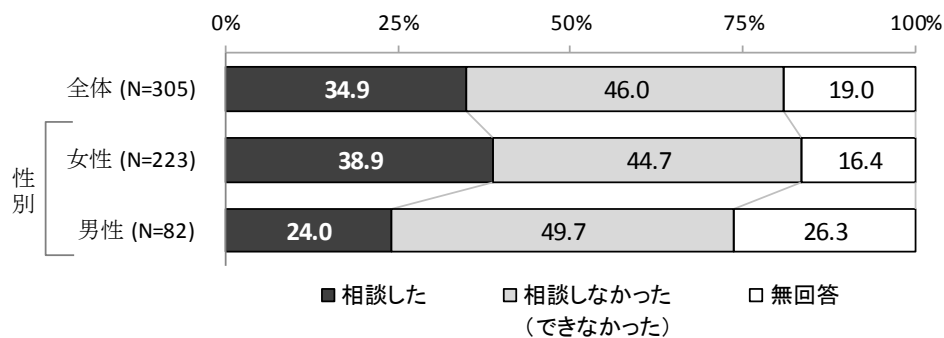


平成26年度久留米市男女平等に関する市民意識調査

(4) DVを受けた経験がある人の相談の有無

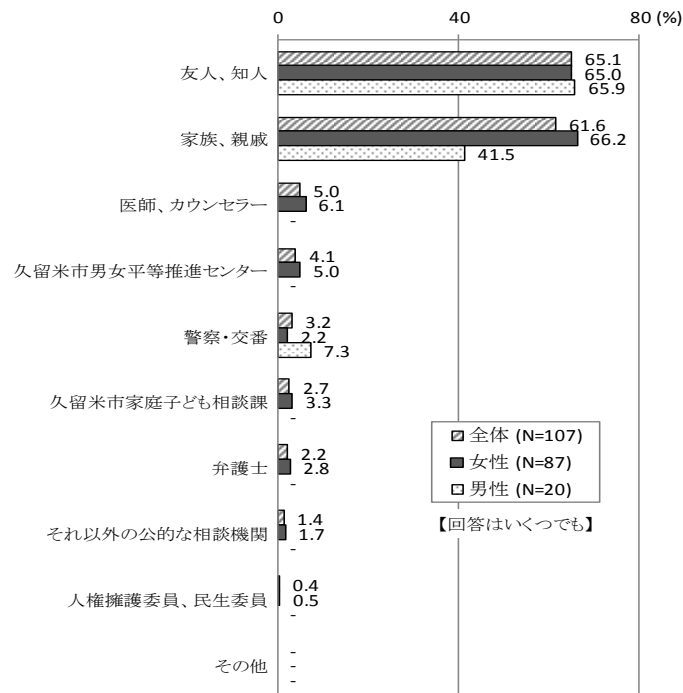
DV被害者のうち、約半数が相談していない。また、相談をした相手も「友人や家族」が約7割で、専門機関に相談した被害者は少ない。

【図表 4-15】「DVを受けた経験がある人の相談の有無」



平成26年度久留米市男女平等に関する市民意識調査

【図表 4-16】「DVを受けた経験がある人の相談先（相手）」

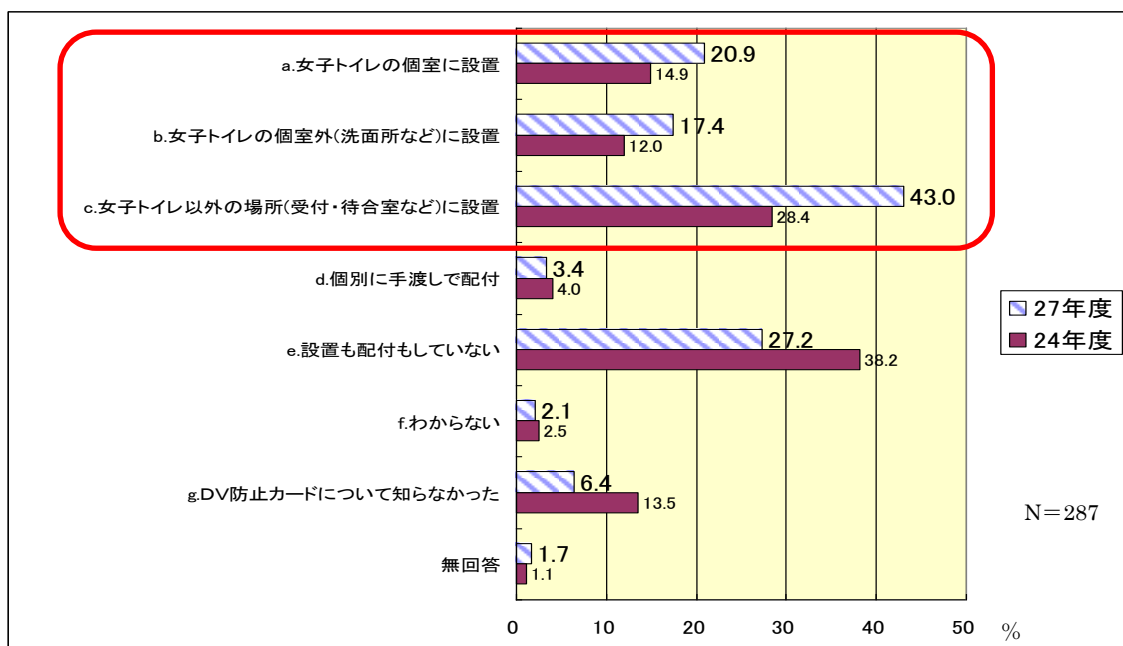


平成 26 年度久留米市男女平等に関する市民意識調査

(5) 医療機関におけるDV対策について

医療機関で実施しているDV対策についてアンケート調査を行い、施設内のDV防止カードの設置・配布状況についてたずねたところ、施設内のいずれかにDV防止カードを設置していると回答した医療機関が前回調査よりも増えており、医療機関のDVに関する意識が高まっていることがうかがえる。

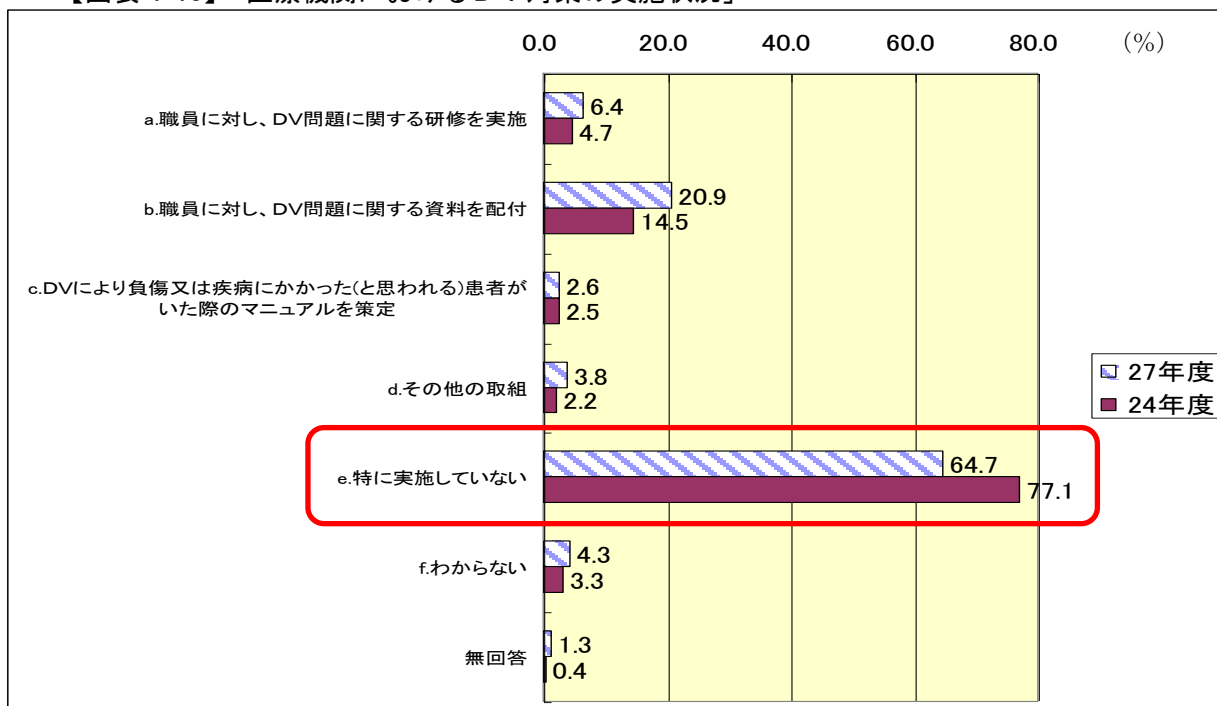
【図表 4-17】「施設内のDV防止カードの設置・配布状況」



平成 27 年度DV対策に係る医療機関の取組に関する調査

しかし一方で、DV対策について以下の取り組みを行っているかたずねたところ、6割以上の医療機関が、「特に実施していない」と回答している。

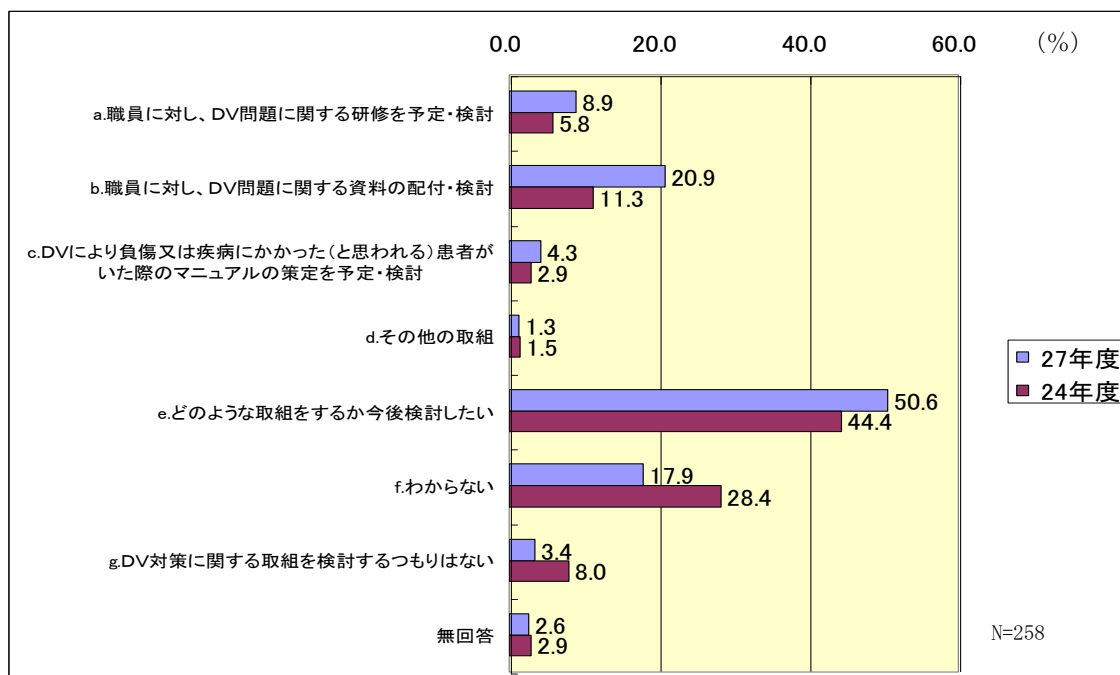
【図表 4-18】「医療機関におけるDV対策の実施状況」



平成 27 年度 DV 対策に係る医療機関の取組に関する調査

その中において、医療機関の約半数が、DV問題に関する取り組みについて「どのような取組をするか今後検討したい」と回答しており、医療機関がDVへの対応の必要性を感じていることがうかがえる。

【図表 4-19】「職員に対し、DV問題に関する取り組みを予定又は検討しているか」



平成 27 年度 DV 対策に係る医療機関の取組に関する調査

## 〈5〉 自殺予防

### 重点項目：自殺・うつ病の予防

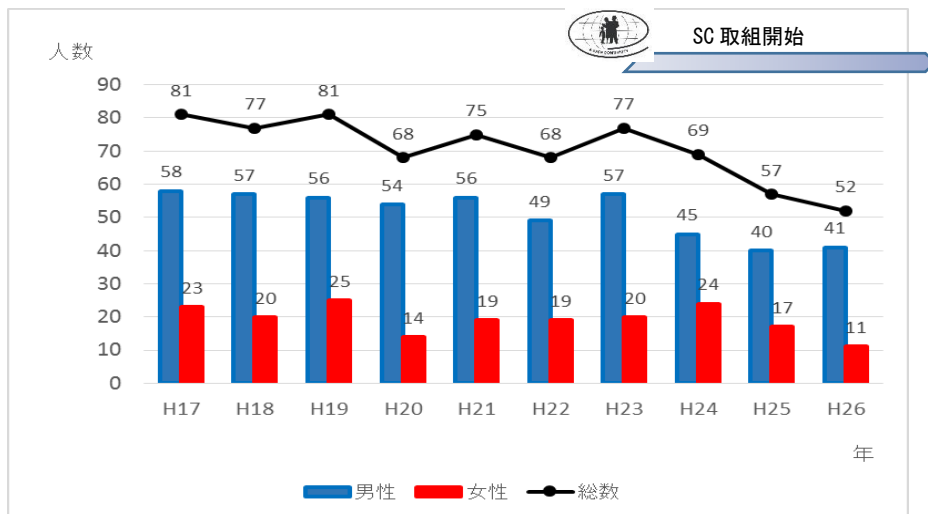
10代～70代の年齢層で、外的要因による死亡原因の1位となっている。【図表②】

また、自殺対策は、久留米市においても喫緊の課題。うつ病の早期発見・早期治療を推進するとともに、地域や職場などにおいて、身近な人の自殺のサインに気づき、専門相談機関へつなぐゲートキーパーの養成、啓発の充実、関係機関・団体の連携強化に取り組む必要がある。[※環境・状況等により]

#### (1) 自殺者数の推移

久留米市の自殺者数は、近年50～70人台で推移しており、病気を除いた死亡原因では最も多い。

【図表 5-1】 久留米市における自殺者数の推移

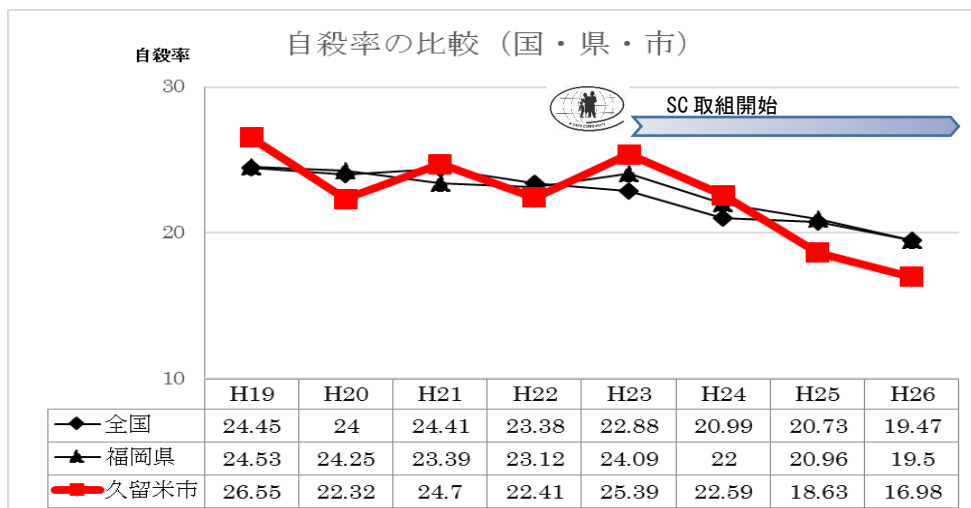


人口動態統計：平成17～26年

#### (2) 自殺率

人口10万人当たりの自殺率をみると、平成26年は、久留米市が17.0と、福岡県(19.5)や国(19.5)を若干下回っている。

【図表 5-2】 人口10万人当たりの自殺率

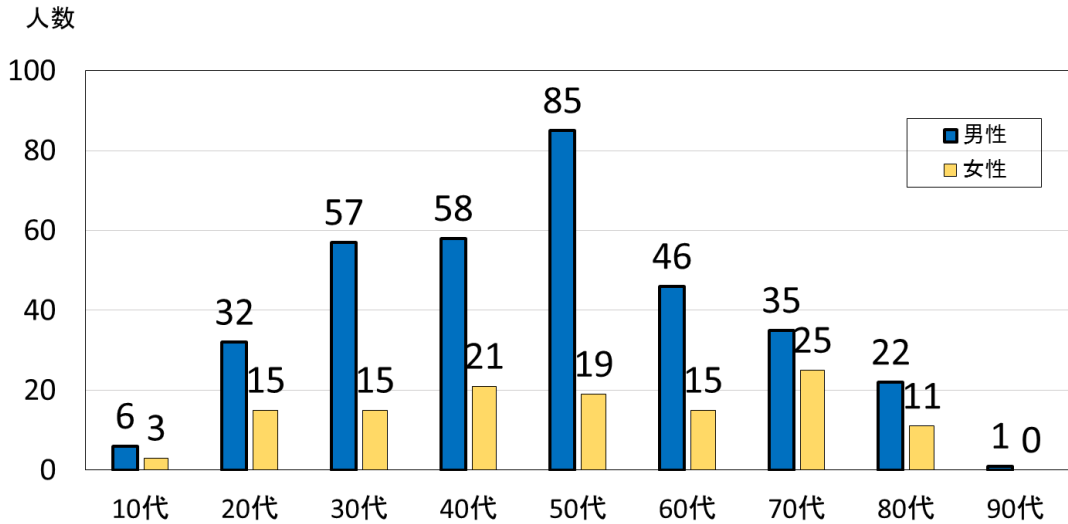


人口動態統計：平成19～26年

(3) 年代・性別でみた自殺者の状況

自殺者数を年代別に見ると、久留米市では、50代、40代、30代の順に多く、特に50代男性が多い。

【図表 5-3】久留米市の年代別性別自殺者数



人口動態統計：平成20年～26年

(4) うつや自殺に対する不安感

普段の生活の中で、「うつなどの心の病や自殺」に不安を感じている方が13.0%で、女性より男性の割合が高かった。

【図表 5-4】「普段の生活の中で不安に感じること」

「普段の生活の中で不安に感じることはなにか。」(n=1,711) ※複数回答

- ・「自動車による交通事故」 … 70.3%
- ・「地震や大雨などの災害」 … 54.2%
- ・空き巣や自転車の盗難、ひったくりなどの窃盗犯罪 … 48.9%
- ⋮
- ・うつなどの心の病や自殺 … 13.0%

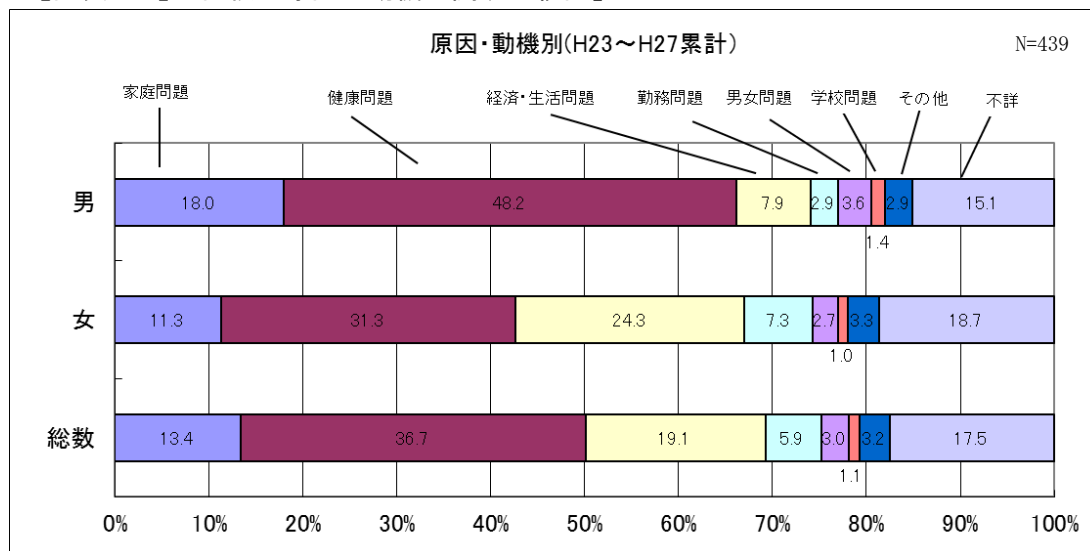
	男性	女性
全体(13.0%)	14.4%	11.9%
20歳代	24.7	16.2
30歳代	16.7	14.2
40歳代	18.7	14.4
50歳代	10.7	10.1
60歳代	11.1	9.8
70歳以上	7.1	7.1

平成26年度市民意識調査

(5) 自殺の原因・動機

久留米市における自殺の原因・動機の中では男女共に「健康問題」が最も多く、そのうち42%がうつ病であった。

【図表 5-5】「自殺の原因・動機に関する統計」



警察庁自殺統計：平成 23 年～27 年累計



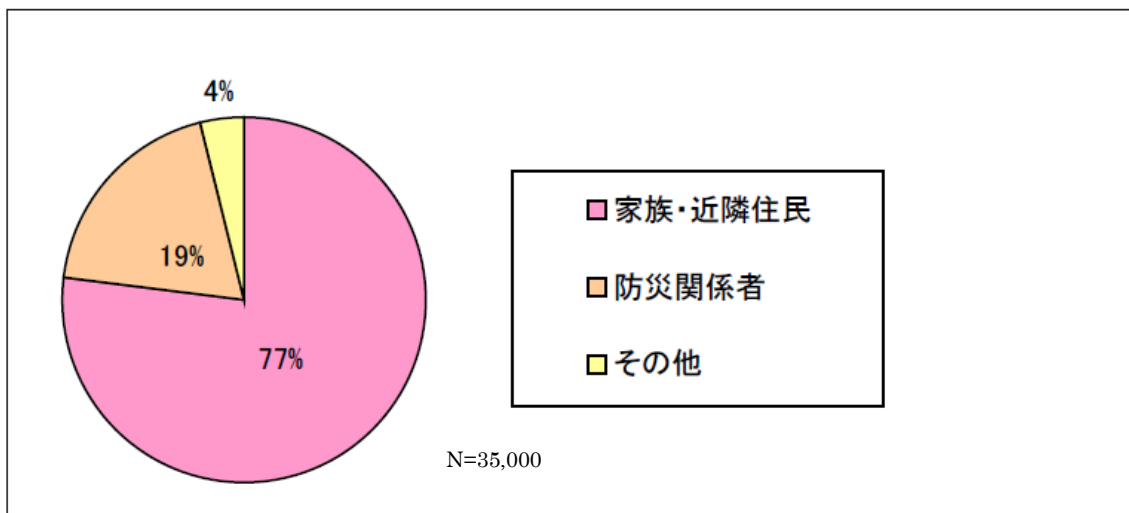
## 〈6〉 防災

### 重点項目：地域防災力の向上

#### (1) 大規模災害時の救出

阪神淡路大震災では、建物の倒壊などにより約 35,000 人の自力脱出困難者が発生しましたが、このうちの 77% (約 27,000 人) が家族や近隣住民から救出されました。

【図表 6-1】 阪神・淡路大震災時における自力脱出困難者の救出割合

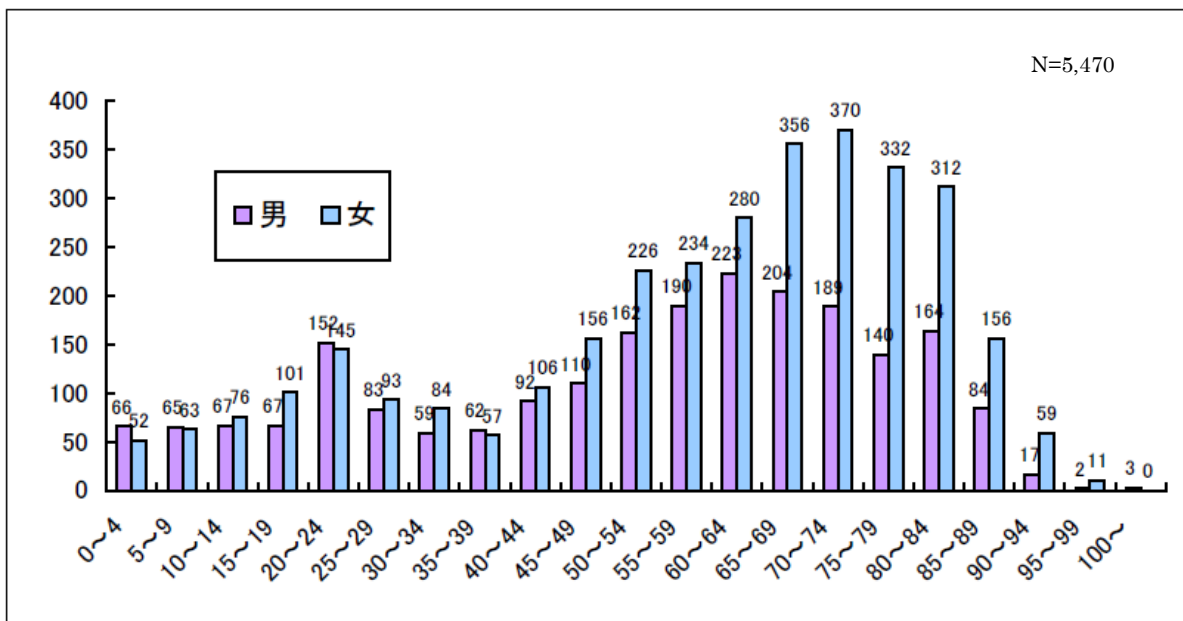


(出典：河田恵昭「大規模地震災害による人的被害の予測」1997年)

#### (2) 大規模災害時で犠牲になる年齢層

阪神淡路大震災では、若年層に比べ、高齢者のほうが犠牲になっている割合が高い。

【図表 6-2】 阪神・淡路大震災による死亡の状況

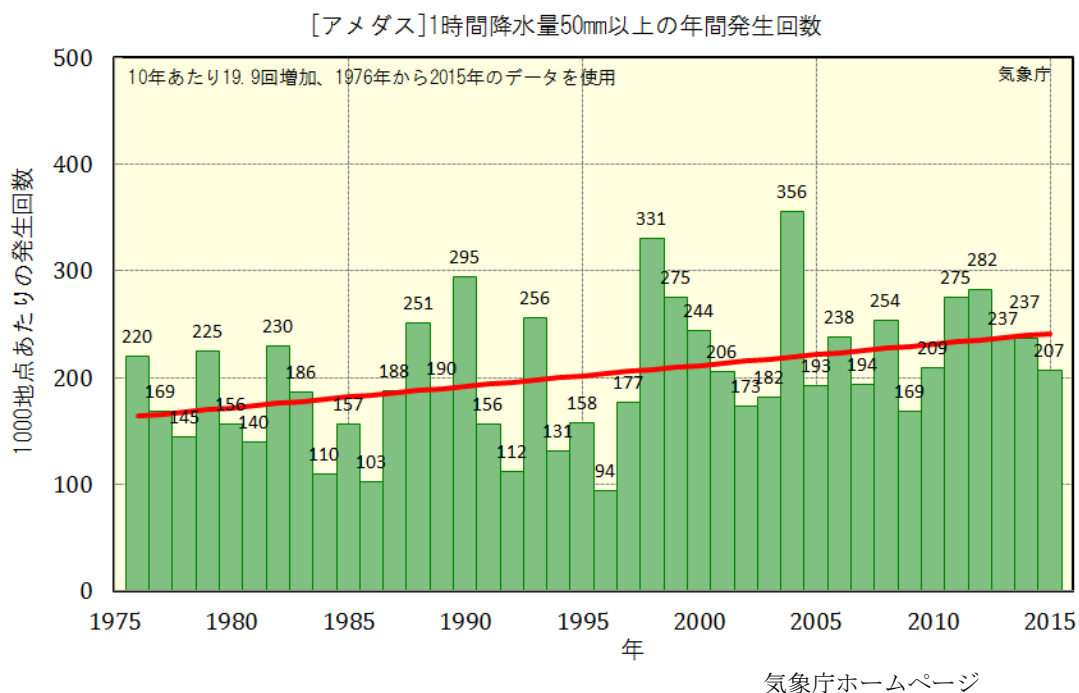


(出典：厚生省大臣官房「人口動態統計から見た阪神・淡路大震災による死亡の状況」1995年)

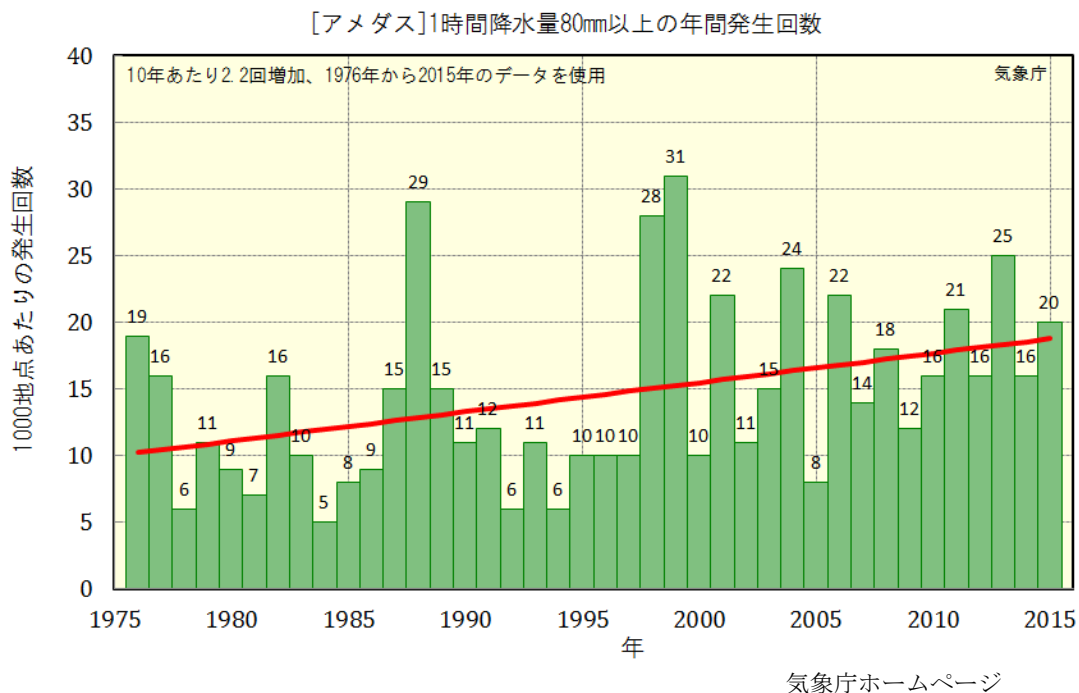
(3) 短時間強雨の件数

1時間降水量50mm、80mm以上の強雨の発生回数が増加している。

【図表 6-3】1時間降水量50mm以上の年間発生回数



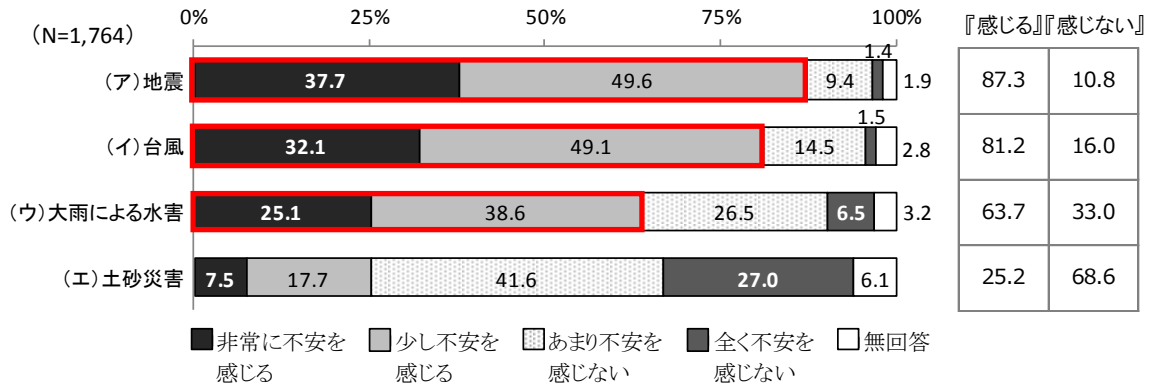
【図表 6-4】1時間降水量80mm以上の年間発生回数



(4) 災害に対する不安感

市民意識調査では、地震、台風、大雨などの自然災害に対し、市民の半数以上の方が不安感を持っている。

【図表 6-5】「災害に対する不安感」



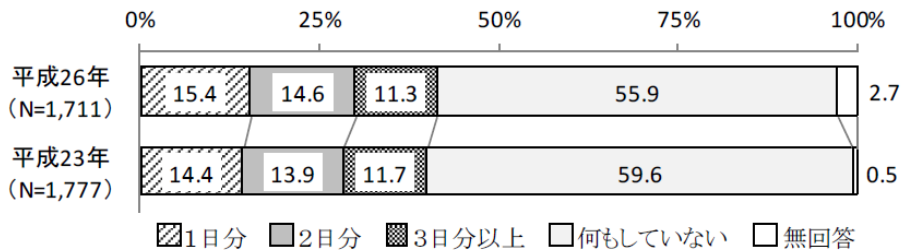
平成 28 年度市民意識調査

(5) 備蓄の状況

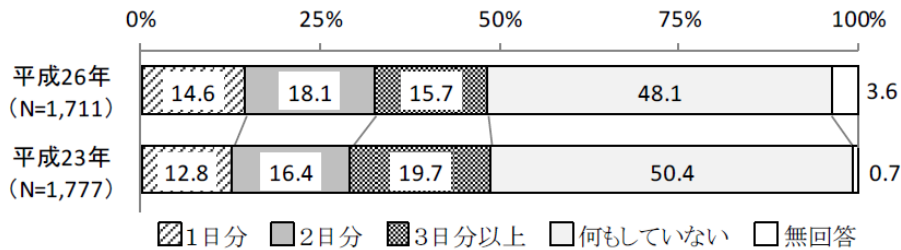
災害に対する不安感が高い一方で、災害時に備えた水や食料の備蓄を行っている市民は、半数以下となっている。

【図表 6-6】「水や食料の備蓄状況」

(ア) 水（1日あたり3リットルが目安）



(イ) 食料

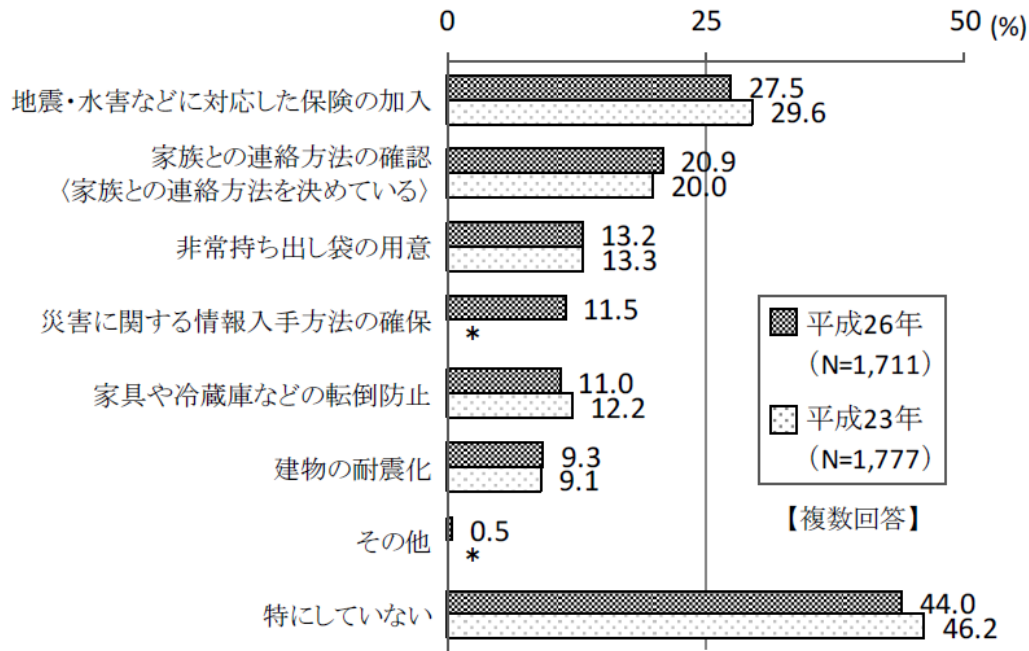


平成 26 年度市民意識調査

(6) 約半数の市民が、災害への備えを実施していない。

災害に対する不安感が高い一方で、市民の半数近くが、災害時に備えた対策を実施していません。

【図表 6-7】「災害に備えた対策の実施状況」



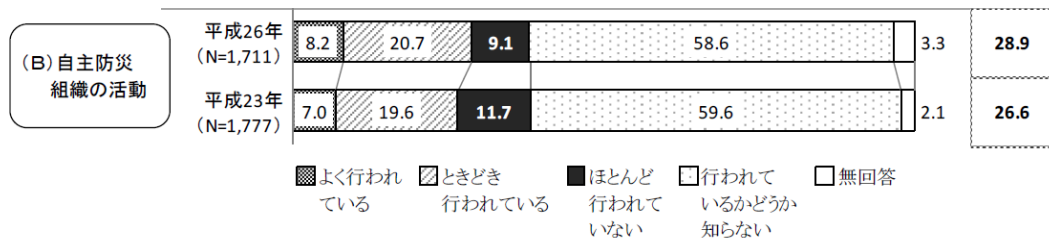
注) \*は平成23年調査にはない項目。

平成 26 年度市民意識調査

(7) 市民の半数以上の人々が、自主防災活動を知らない。

自主防災組織の活動が、地域で行われているかどうか知らない方が半数以上になっています。

【図表 6-8】「自主防災活動に関する認知度」



平成 26 年度市民意識調査

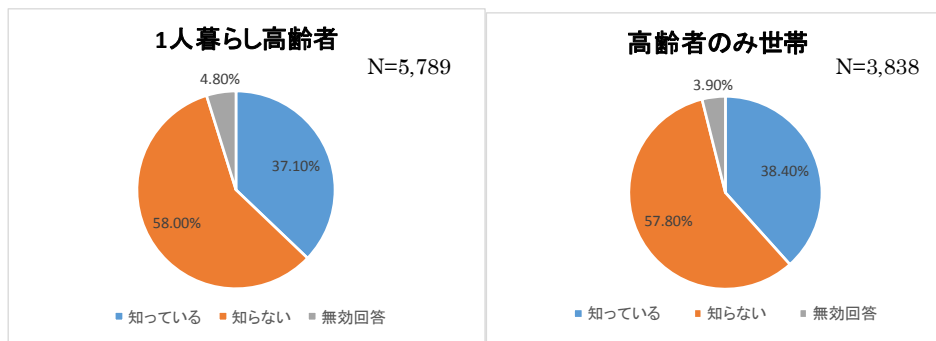
(8) 災害時要援護者名簿の認知度

在宅の単身高齢者・高齢者のみ世帯の災害時要援護者名簿の認知度は約4割

【図表 6-9】「災害時要援護者名簿の認知度」

「災害時要援護者名簿の認知度」

世帯区分	知っている	知らない	無効回答
1人暮らし高齢者	37.10%	58.00%	4.80%
高齢者のみ世帯	38.40%	57.80%	3.90%



民生委員による「平成27年久留米市在宅高齢者基礎調査」

# セーフコミュニティ具体的施策の総括票及び個票

平成 28 年 10 月



セーフコミュニティ国際認証都市 久留米市

久留米市のセーフコミュニティ推進の骨格（6分野10項目8対策委員会48施策）

重点取り組み分野 (6分野)	重点取り組み項目 (10項目)	対策委員会 (8組織)	No.	具体的施策 (48施策)
交通安全	高齢者の交通事故	交通安全 対策委員会	1	実技型高齢者交通安全講習の実施
			2	明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施
	3		交通安全マップの作成	
	4		交通安全教室の実施	
	5		自転車安全利用キャンペーンの実施	
子どもの安全	児童虐待の防止	児童虐待防止 対策委員会	6	乳児家庭訪問事業の地域連携
			7	学校への出前サロン事業
			8	子どもによるオレンジリボン作成
	学校の安全	学校安全 対策委員会	9	校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る校内環境づくり
			10	楽しく安全な遊び方の紹介
			11	実践的交通教室の実施
			12	交通指導の実施
			13	校区安全マップの作成と不審者対応の教育推進
			14	校区安全マップを活用した防犯安全パトロールの実施
			15	いじめの早期発見・早期対応の取り組みの実施
高齢者の安全	転倒予防	高齢者の安全 対策委員会	16	転倒に関するパンフレットの作成
			17	介護状態にならないための予防事業の実施
			18	健康、体力維持を目的とした地域活動への支援
			19	虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催
	高齢者虐待の防止		20	認知症サポーター養成講座
			21	介護サービス提供事業所向けの虐待予防研修
			22	地域で高齢者を見守るネットワークの構築
			23	家族介護教室の開催
犯罪・暴力の予防	犯罪の防止・ 防犯力の向上	防犯 対策委員会	24	ものわすれ予防検診
			25	自転車ツーロックの推進
			26	小学校区毎の地域安全マップの作成
			27	犯罪多発地域での合同パトロールの実施
			28	安全・安心感を高めるための地域環境の整備
			29	暴力団壊滅市民総決起大会等の開催
	DV防止・早期発見	DV防止 対策委員会	30	児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための研修や啓発の実施
			31	男女共同参画・DV防止に関する啓発の充実
			32	教育現場等における予防教育の充実
			33	医療関係者に対する研修の強化(No34と統合)
34	【欠番】医療機関におけるDV被害者支援の取り組みの促進(No.33と統合)			
35	子どもに関わる業務に携わる職務関係者に対する研修の充実			
36	DV被害者の心理的・社会的な回復支援の検討			
37	DV被害者の子どもへの理解を促すための研修			
38	子ども向け電話相談の実施			
39	DV被害者の子どもへの学習支援			
自殺予防	自殺・うつ病の予防	自殺予防 対策委員会	40	ゲートキーパーの養成
			41	かかりつけ医と精神科医の連携強化
			42	自殺対策連絡協議会の実施
			43	ワンストップサービス相談の実施
防災	地域防災力の向上	防災 対策委員会	44	定期的な防災研修・訓練・啓発の実施
			45	防災に精通しているリーダーの育成
			46	名簿登録推進にむけた積極的な情報提供
			47	災害時要援護者個別支援計画作成
			48	地域の避難計画を作成

重点6分野別・代表的な取り組み効果

## 交通安全

データ分析

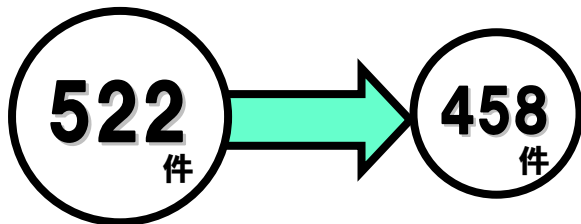
自転車関連事故は、10代での発生が突出して多い

**とらみ** 子どもたちの自転車事故や高齢者の交通事故を予防するため、年齢に応じた交通安全教室や、自転車利用のマナーアップキャンペーンなどを実施しています。

【自転車事故件数】 出典：警察統計

平成 23 年

平成 27 年



※12.3%減少



中学校での自転車教室



シルバーセーフティスクール

## 子どもの安全

データ分析

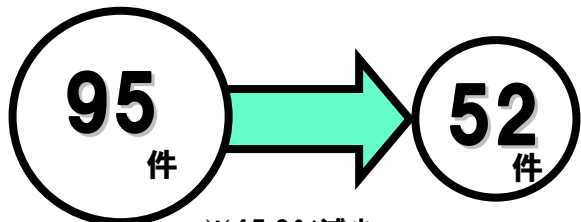
学校でのけがの多くが、休み時間に発生

**とらみ** 学校内や通学路でのけがや事故を予防するため、危険な場所を意識できる掲示板的作成や、校区内をフィールドワークして危険な場所をまとめた「校区安全マップ」を作成しています。

【上津小学校でのケガの発生件数】 出典：日本スポーツ振興センター統計

平成 23 年度

平成 27 年度



※45.3%減少

10月12日 上津小 けがのようす		けがの種類		けがした場所	
人数	割合	人数	割合	人数	割合
3	3/	4	4/	2	2/
2	2/	3	3/	0	0/
0	0/	1	1/	0	0/
1	1/	2	2/	0	0/
0	0/	2	2/	0	0/
0	0/	2	2/	0	0/
0	0/	2	2/	0	0/

けがの種類・場所をまとめた掲示板



校区内でのフィールドワーク

## 高齢者の安全

データ分析

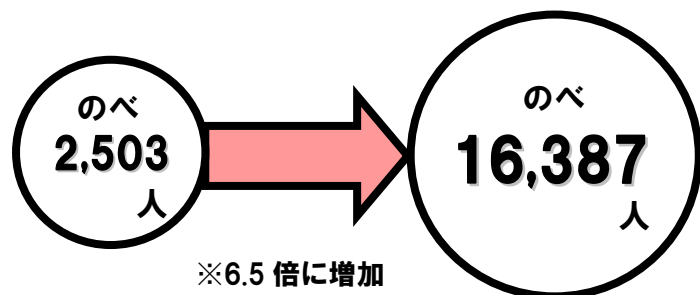
高齢者の虐待相談・通報件数は、横ばい状態

**とらみ** 認知症を正しく理解することで高齢者への虐待を防ぐため、認知症の人や家族を地域や職域などで温かく見守る「認知症サポーター」を養成しています。

【認知症サポーター養成講座受講者数】 出典：長寿支援課統計

平成 23 年度

平成 27 年度



※6.5倍に増加



認知症サポーターの養成講座



# 犯罪・暴力の予防

データ分析

犯罪は、大型商業施設・駅・繁華街で発生しやすい

とら  
くみ

地域や人が多く集まる場所での犯罪を抑止するため、青色防犯パトカーによるパトロールを実施しています。また、DVを容認しない意識作りのため、中学生や高校生を対象に、デートDV防止の啓発講座を実施しています。

【一般刑法犯の認知件数】 出典：警察統計

平成 23 年

平成 27 年

4,590  
件

3,120  
件

※32.0%減少



大型商業施設付近での合同パトロール



中学校でのデートDV防止の啓発講座

# 自殺予防

データ分析

自殺は、久留米市の事故等による死亡原因のトップ

とら  
くみ

自殺を予防するため、自殺のサインに気づき相談窓口につなぐ「ゲートキーパー」の養成や、関係機関と連携して支援する体制づくりに取り組んでいます。

【自殺者数】 出典：人口動態統計

平成 23 年

平成 26 年

77  
人

52  
人

※いまだ 50 名以上の方が自殺で亡くなっています。



ゲートキーパーの養成講座

# 防災

データ分析

大規模災害時における救出者の約 9 割が家族や近隣住民

とら  
くみ

地域による防災力を向上するため、各校区で自主防災訓練の実施や、自力や家族の協力では避難できない人の個別支援計画を作成しています。

【自主防災訓練の回数・参加者数】 出典：防災対策課統計

平成 23 年度

平成 27 年度

49  
回  
2,696  
人

129  
回  
8,859  
人

※3.2 倍に増加 (参加者数)



AEDの取扱い講座



自主防災訓練の実施

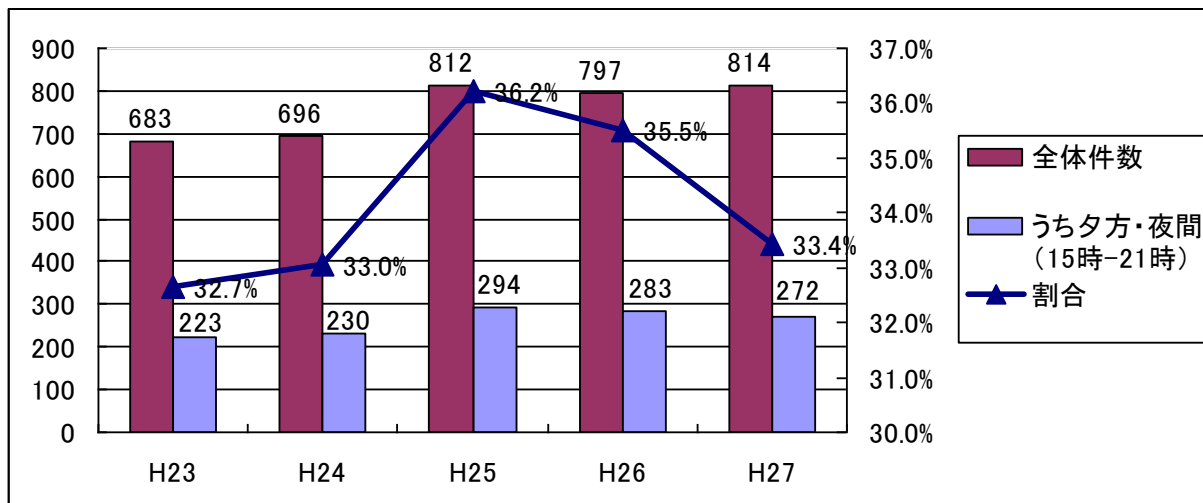
## 平成27年度取り組み実績及び平成28年度取り組み方針（案）について

- ・ 各対策委員会の取り組み

## 交通安全対策委員会

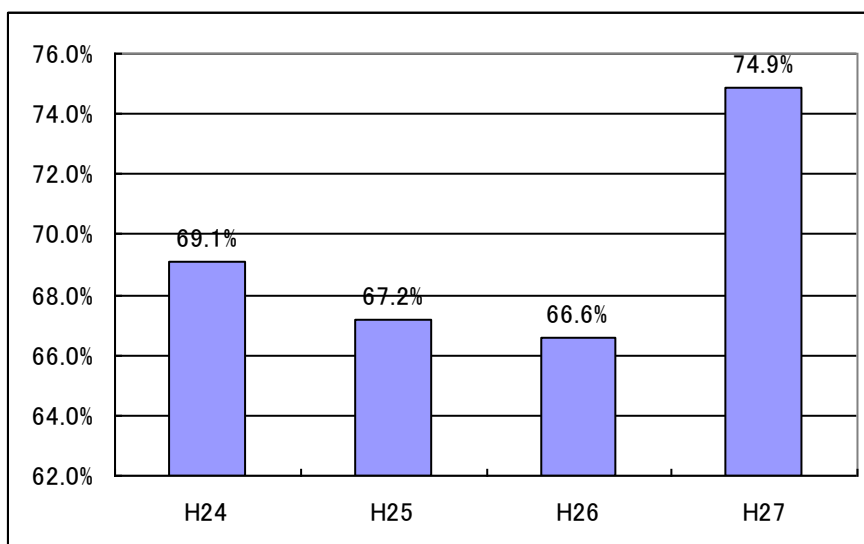
## ①成果〈数値で表せるもの〉

## 高齢者関連事故件数



※夕方・夜間における高齢者の交通事故について、件数及び全体に占める割合が減少

## 自転車利用者の意識の変化（ルールを知っており、守っている人の割合）



※市営自転車駐車場でのアンケート結果

## ②成果〈数値で表せないもの〉

啓発活動について、各団体等との連携が強化された。

- ・ 防犯対策との連携（青パト団体による反射材の配布）
- ・ 街頭啓発キャンペーンの協力者の拡大（保護司会、学生ボランティア等）
- ・ 老人クラブ連合会との連携（会報紙への掲載など自主的な啓発）
- ・ 「青少年の非行を生まない社会づくり推進対策本部」による高校生の討論会実施（自転車の乗車マナーについて）

③27年度の取り組みで最も成功した事例 ※年間活動報告書関連

啓発活動について、各団体等との連携が強化された（再掲）  
※②に同じ

④27年度で最も積極的に取り組んだ活動 ※年間活動報告書関連

各種街頭啓発キャンペーンの実施  
・警察や関係団体、ボランティアと連携し、SCの重点取り組み項目である高齢者の事故防止、自転車安全利用の啓発はもちろん、飲酒運転撲滅など、広く交通安全に関する啓発活動に取り組んだ

⑤-1 下記の分野において、27年度に何らかの取り組みの変更があったか。

(48 施策以外でも可) ※年間活動報告書関連

		子ども (0～14歳)	青年 (15～24歳)	成人 (25～64歳)	高齢者 (65歳～)
不慮の要因	家庭の安全				
	学校の安全				
	職場の安全				
	余暇・スポーツの安全				
	公共の安全 交通安全	特になし			
	自然災害				
意図的 要因	暴力 (DV, 虐待含)				
	自傷・自死				

⑤-2 変更があった場合、それはどのように変更したか。

特になし


⑥今後の方向性や取り組みを進める上での課題 ※年間活動報告書関連

H26、H27 は夕方・夜間における高齢者関連事故件数は減少しており、反射材着用の推進など、取り組みの効果が見られるが、高齢者関連の事故件数全体を見ると、増加傾向が続いている。高齢者が第一当事者となる交通事故も増えており、実技型教室等の充実による啓発・注意喚起をはじめ、免許証返納に対する支援など、より多角的な方策を検討する必要がある。

⑦分野横断的に行っていること

- ・警察をはじめ、各行政機関や関係団体等、多くの団体で組織する「久留米市交通安全対策協議会」において、ソフト・ハード両面における取り組みを協議しながら、それぞれの役割に応じて活動を行っている。
- ・啓発活動における各団体との連携  
保護司会や学生ボランティア、老人クラブ連合会等と連携し啓発活動を実施

⑧平成 28 年度の取り組み方針

具体的施策	内容
<p>1</p> <p>実技型高齢者交通安全講習の実施</p>	<p><b>体験型交通安全講習を受ける機会の拡大(継続)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各校区コミュニティ組織等との連携</li> <li>・交通安全指導員や地域交通安全活動推進員等の校区、地域における自主活動の促進</li> </ul> <p>※指導員やボランティア等への情報提供の充実</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>2</p> <p>明るい服及び反射材の着用キャンペーンの実施</p>	<p><b>反射材着用等の重要性を知る機会の拡大(継続)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なキャンペーンの実施</li> <li>・周知広報の充実</li> </ul> <p><b>防犯対策との連携(継続)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青パト活動団体等との連携 ※グッズの確保が必要</li> </ul>
<p>3</p> <p>交通安全マップの作成</p>	<p><b>他の対策委員会と連携したマップの作成(継続)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分野横断的なマップ作成</li> </ul> <p><b>コミュニティ組織や校区の関係団体との連携(継続)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校区コミュニティ組織や防犯協会、学校等との連携</li> </ul> <p><b>作成したマップを活用した各種取り組み強化・環境改善(継続)</b></p>
<p>4</p> <p>交通安全教室の実施</p>	<p><b>中学生・高校生への交通安全教育の充実(継続)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各中学校、高校への働きかけ ※防犯教室や非行防止教室との連携等</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
<p>5</p> <p>自転車安全利用キャンペーンの実施</p>	<p><b>マナー・ルールを知る機会の拡大(継続)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なキャンペーンの実施</li> <li>・周知広報の充実</li> </ul> <p><b>他分野との連携(継続)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防犯分野(自転車ツーロック)との連携</li> <li>・交通政策部門(ハード含む)との連携 ※自転車利用促進計画</li> </ul> <div style="text-align: right;">  </div>

# 児童虐待防止対策委員会

## ①成果〈数値で表せるもの〉

### ○中学校への出前サロン事業

	実施学校数	学校名
平成26年度	3	三潯中、江南中、宮ノ陣中
平成27年度	3	三潯中、江南中、宮ノ陣中
平成28年度	4	三潯中、江南中、宮ノ陣中、青陵中

全市中学校区への拡充を図るため、各学校へアンケートを実施。  
その結果を受け、平成28年度より1校（青陵中学校）拡充予定。

### ○乳児家庭訪問事業の地域連携

	校区数	校区
平成26年度	2	荘島小、小森野小
平成27年度	3	荘島小、小森野小、金島小
平成28年度	4	荘島小、小森野小、金島小、山川小

### ○子どもによるオレンジリボン作り

#### ・マナビィランド、健康フェスタにおけるオレンジリボン作り

	参加者数
平成25年度	791人
平成26年度	870人
平成27年度	800人

#### ・「荘島よかつ祭」におけるオレンジリボン啓発事業

	参加者数
平成25年度	141人
平成26年度	188人
平成27年度	203人

## ②成果〈数値で表せないもの〉

マナビィランドや荘島よかつ祭において、オレンジリボンづくりやクイズ等をおし、「オレンジリボンをつけている人は子どもの見方」などと、子ども達に対してオレンジリボンの意味や情報発信できることを伝えることが出来たと思われる。



③27年度の取り組みで最も成功した事例 ※年間活動報告書関連

中学校への出前サロン事業において、生徒からのアンケートの結果は以下のとおり  
 ・自らを振り返り子育て等の大変さを実感できた。  
 ・地域に相談できる大人がいることが分かった。  
 子育て家庭や子どもが地域から孤立しない取り組みや児童虐待問題を学ぶきっかけになったと思われる。

④27年度で最も積極的に取り組んだ活動 ※年間活動報告書関連

中学校への出前サロン事業実施校の拡大  
 全市中学校区への拡充を図るため、各学校へアンケートを実施した。  
 その結果をふまえ、平成28年度より1校（青陵中学校）拡充することにつながった。

⑤-1 下記の分野において、27年度に何らかの取り組みの変更があったか。

(48 施策以外でも可) ※年間活動報告書関連

		子ども (0～14歳)	青年 (15～24歳)	成人 (25～64歳)	高齢者 (65歳～)
不慮の要因	家庭の安全				
	学校の安全				
	職場の安全				
	余暇・スポーツの安全				
	公共の安全 交通安全				
	自然災害				
意図的 要因	暴力 (DV, 虐待含)				
	自傷・自死				

⑤-2 変更があった場合、それはどのように変更したか。

特になし



⑥今後の方向性や取り組みを進める上での課題 ※年間活動報告書関連

- ・事業調整を行う家庭子ども相談課での業務はケースワークが中心業務であり、校区拡充を視野に複数の校区で同時実施した場合、要員の確保が難しい。
- ・長期成果指標は児童虐待対応件数、久留米市での子育てに関する意識となっているが、実施している事業の効果がこれらの指標と関連性があるのか実証が難しい。

⑦分野横断的に行っていること

警察をはじめ、児童相談所などの関係機関で構成する要保護児童対策地域協議会を実施

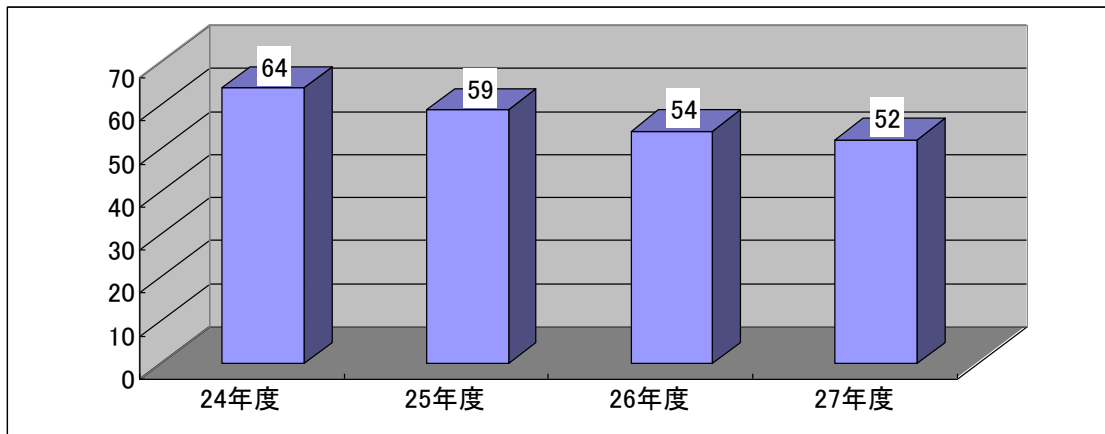
⑧平成 28 年度の取り組み方針

	具体的施策	内容
6	乳児家庭訪問事業の地域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主任児童委員研修(H28.5 開催予定)において、同行訪問にかかる事前研修を行う。</li> <li>・民児協、主任児童委員部会、生きがい健康づくり財団と協議を行いながら、同行訪問実施校区拡大を図る。</li> </ul>
7	学校への出前サロン事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江南中学校・青陵中学校・三瀬中学校・宮ノ陣中学校において実施する(江南中:6/21、6/30 予定 青陵中:6/9 予定)</li> </ul> 
8	子どもによるオレンジリボン作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マナビィランド、荘島よかつ祭等で実施。</li> <li>・どのようなイベントが効果的なのかを精査しながら、実施団体(校区)や参加児童数の拡大を図る。</li> </ul> 

# 学校安全対策委員会

## ①成果〈数値で表せるもの〉

日本スポーツ振興センター災害給付対象けが件数において下のグラフの通り、件数が年々減少している。



【上津小学校でのケガの発生件数】

## ②成果〈数値で表せないもの〉

- 保健委員会を中心として、児童の主体的な活動が活発になっていること。
- 交通指導、交通教室、不審者対応の学習等の取り組み方について評価、改善が加えられていることにより、取組が充実してきていること。

## ③27年度の取り組みで最も成功した事例 ※年間活動報告書関連

- ⑮ いじめに特化した無記名アンケートや教育相談の実施、校内いじめ問題対策委員会の実施により、いじめの早期発見により認知件数が増え、またその解決を図ることができた。

## ④27年度で最も積極的に取り組んだ活動 ※年間活動報告書関連

- ⑮いじめに特化した無記名アンケートや教育相談の実施、校内いじめ問題対策委員会の実施



⑤-1 下記の分野において、27年度に何らかの取り組みの変更があったか。

(48 施策以外でも可) ※年間活動報告書関連

		子ども (0～14歳)	青年 (15～24歳)	成人 (25～64歳)	高齢者 (65歳～)
不慮の 要因	家庭の安全				
	学校の安全	大きな変更は無			
	職場の安全				
	余暇・スポーツ の安全				
	公共の安全 交通安全				
	自然災害				
意図的 要因	暴力 (DV, 虐待含)				
	自傷・自死				

⑤-2 変更があった場合、それはどのように変更したか。

⑥今後の方向性や取り組みを進める上での課題 ※年間活動報告書関連

○上津小で成果のあった取組を全市に広げるための取組（セーフスクール）との関連化

⑦分野横断的に行っていること

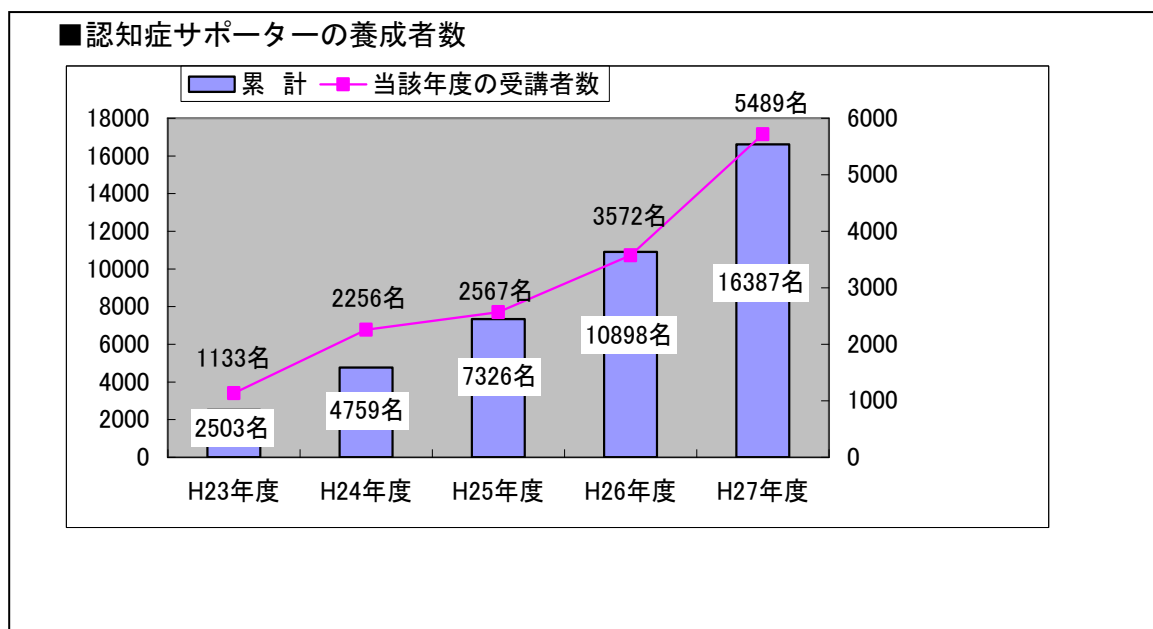
学校教育課が主管となって、安全安心推進課、道路整備課、路政課、警察や国・県等と連携した久留米市通学路安全推進会議を開催。通学路の安全確保について協議を行い、その結果をハード整備にもつなげている。

⑧平成 28 年度の取り組み方針

	具体的施策	内容
9	校舎内で安全に過ごす意識付けと実践化を図る校内環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健委員会児童による校内安全マップの作成</li> <li>・安全啓発ポスターの作成と掲示</li> <li>・全校児童へのけが状況報告や安全な校内歩行の啓発</li> <li>・けがで保健室を利用した人数の集計をグラフ化し廊下に掲示</li> </ul> 
10	楽しく安全な遊び方の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会委員会から長縄跳び集会の提案をする。</li> <li>・体育委員会から長縄を使った安全な遊びを紹介する。</li> <li>・保健委員会から運動場での運動場のけが状況の変化を報告する。</li> </ul>
11	実践的交通教室の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路コース・技能コース・評価コースの3コースを設け、保護者や地域団体ボランティアを活用した交通教室を実施する。</li> </ul> 
12	交通指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域、各地域団体の交通指導の内容（場所、時間）を地域交通安全協会が中心となって集約し、危険箇所や時間に応じた効果的な交通指導ができるように調整する。</li> </ul>
13	校区安全マップの作成と不審者対応の教育推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が地域団体や PTA と一緒に校区をフィールドワークして危険箇所や子どもの 110 番の家を調査・確認し、校区安全マップを作成する。(11月~12月)</li> <li>・地域団体、関係機関、学生ボランティアに加えて専門家をゲストティーチャーとして招聘し不審者対応の体験的学習を行う。</li> </ul> 
14	校区安全マップを活用した防犯安全パトロールの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童や PTA が作成した「校区安全マップ」を活用した防犯パトロールを実施（月 2 回）する。</li> <li>・「校区安全マップ」作成で明らかになった危険箇所付近に「子ども 110 番の家」設置を促進する。</li> </ul>
15	いじめの早期発見・早期対応の取り組みの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに特化した無記名アンケート及び教育相談（学期 1 回）と生活アンケート（月 1 回）を実施する。</li> <li>・保護者用チェックリストを実施し、結果を活用する。</li> <li>・いじめに係る教職員研修を実施する。</li> <li>・校内いじめ問題対策委員会（月 1 回）を実施する。</li> <li>・アンケートや教育相談の結果情報を校内いじめ問題対策委員会や職員会議で共有し、いじめの予防や早期発見、早期対応に組織的に取り組む。</li> </ul>

# 高齢者の安全対策委員会

## ①成果〈数値で表せるもの〉



## ②成果〈数値で表せないもの〉

○管理者等の介護サービス提供事業所職員に対して、虐待防止研修（基本及び事例対応研修）を行うことにより、虐待防止のための意識の啓発を行った。

## ③27年度の取り組みで最も成功した事例 ※年間活動報告書関連

○ 認知症サポーター養成講座養成者数  
H26年度 3,572人（累計10,898人）→H27年度 5,489人（累計16,387人）

## ④27年度で最も積極的に取り組んだ活動 ※年間活動報告書関連

○地域での介護予防の取り組みを促すため、一次予防事業のうち、介護予防教室を実施している「ドレミ♪で介護予防!!」及び「にこにこステップ運動」について、講師派遣型事業を開始するとともに、出前講座形式の「おたっしや出張講座」の事業拡充を図った。

⑤-1 下記の分野において、27年度に何らかの取り組みの変更があったか。

(48 施策以外でも可) ※年間活動報告書関連

		子ども (0～14歳)	青年 (15～24歳)	成人 (25～64歳)	高齢者 (65歳～)
不慮の要因	家庭の安全				転倒予防パンフレット改訂
	学校の安全				
	職場の安全				
	余暇・スポーツの安全				
	公共の安全 交通安全				
	自然災害				
要因的	暴力 (DV, 虐待含)				
	自傷・自死				

⑤-2 変更があった場合、それはどのように変更したか。

○重点取り組み項目「転倒予防」において作成した「転倒予防パンフレット」について、掲載データの時点修正をするとともに、専門的な視点を踏まえ、内容の一部改訂を行った。


⑥今後の方向性や取り組みを進める上での課題 ※年間活動報告書関連

○重点取り組み項目である、転倒予防と高齢者虐待の防止の具体的施策について、関連する指標も含め、検証を行ない、必要に応じて見直し等を行なう。

⑦分野横断的に行っていること

○高齢者をはじめすべての市民が、地域から孤立することなく安心して暮らせるように「くるめ見守りネットワーク」を実施し、行政と地域や事業者が連携・協力して、地域全体で見守り活動を行っている。

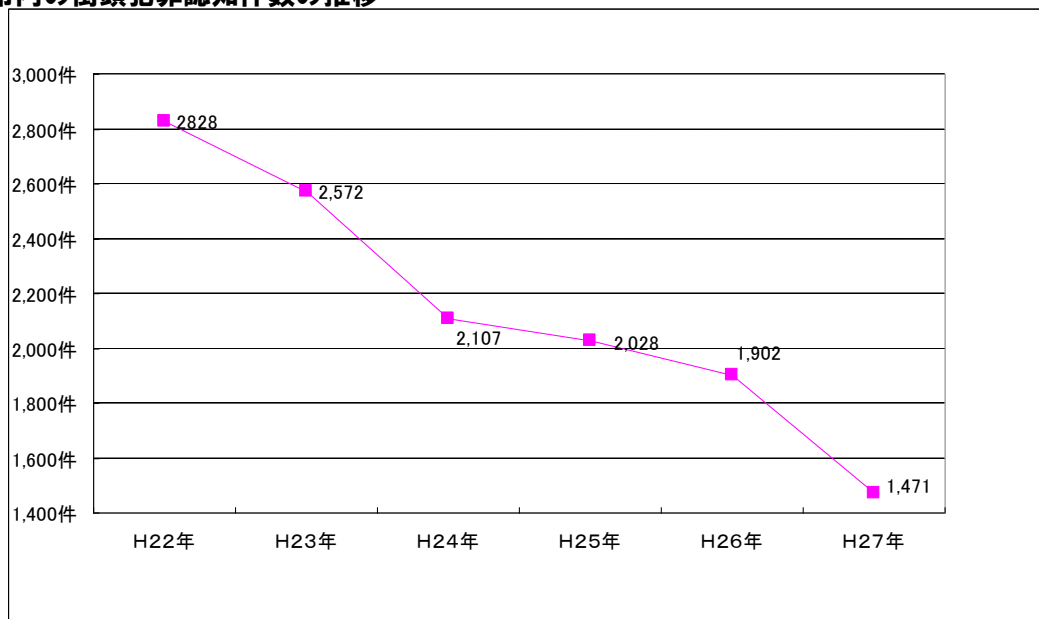
⑧平成 28 年度の取り組み方針

	具体的施策	内容
16	転倒に関するパンフレットの作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に対し、「要介護状態になる大きな要因が転倒であり、その後の生活に与える影響が大きいこと」についての理解をさらに深めてもらうため、啓発機会や対象者の拡大を図る。</li> <li>・啓発活動を効果的に進めるため、よりわかりやすくパンフレットをリニューアルし活用を図ることで、転倒防止対策を意識的に行う高齢者の拡大に努める。</li> </ul> 
17	介護状態にならないための予防事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護状態にならないための予防事業に身近な地域で継続して取り組めるように、講師派遣型事業等の充実を図るとともに、要介護状態等になることの予防や軽減及び悪化防止を目的とした介護予防事業を展開する。</li> </ul>
18	健康、体力維持を目的とした地域活動への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康、体力維持を目的とした地域で取り組んでいるラジオ体操やウォーキング活動の周知・啓発に努め、自発的な活動参加者の拡大を図る。</li> </ul>
19	虐待や認知症に関する講演会・学習会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者虐待防止の啓発を図るとともに、認知症に関連する事案が、高齢者の虐待ケースの約半数を占めていることから、認知症の予防や認知症への適切な対応、認知症への正しい理解を深めるため、学習機会の提供に努める。</li> </ul>
20	認知症サポーター養成講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センターや関係機関・団体等と連携しながら、幅広い世代から認知症サポーターを養成する。</li> <li>・認知症サポーター養成講座の講師役を担うキャラバン・メイトのフォローアップ研修等を通じてスキル向上に努める。</li> </ul>
21	介護サービス提供事業所向けの虐待予防研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護サービス提供事業所の職員を対象とした研修が、より効果的なものとなるように、事業所の運営を担う経営者などに対しても参加を働きかけていくなどの工夫をしながら、研修の定期開催に取り組む。</li> </ul>
22	地域で高齢者を見守るネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で高齢者を見守るネットワークの構築について、地域の関係機関・団体との連携を図り、虐待を早期に発見し、相談支援につなげるための取り組みを進めるとともに、虐待認識の啓発と向上に努めることで、地域の見守り体制の充実を図る。</li> </ul>
23	家族介護教室の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果を参考としながら、参加しやすい環境づくりに努めるとともに、関係団体との意見交換等により家族介護者の支援ニーズを検証し、新たな参加者の掘り起こしを行う等して事業に取り組んでいく。</li> </ul>
24	ものわすれ予防検診	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の疑いがある高齢者に検診の機会を広く提供するため、開催場所や広報周知等の検討を行い、早期発見、早期対応に努める。</li> </ul>

# 防犯対策委員会

## ①成果〈数値で表せるもの〉

### 市内の街頭犯罪認知件数の推移



街頭犯罪…身のまわりで発生しやすい10の犯罪の総称

(侵入盗、車上狙い、部品狙い、自販機ねらい、自転車盗、オートバイ盗、自動車盗、路上強盗、ひったくり、強制わいせつ)

## ②成果〈数値で表せないもの〉

### ● 地域自主防犯団体等に対する支援の広がり

セーフコミュニティ関連の取組をはじめ、自主防犯団体の積極的な活動に対する認知が高まり、青パトやドライブレコーダーの寄附がなされた。

また、企業等との連携による市防犯協会連合会の自主事業「青パト導入サポート事業」により青パトが校区に導入されるなど、多方面からの支援がなされた。

この結果として、地域自主防犯団体の活動が更に充実する好循環となった。

## ③27年度の取り組みで最も成功した事例 ※年間活動報告書関連

青パト活動など自主防犯団体の活性化をはじめ、地域との協働による市防犯灯設置費補助の継続や街頭防犯カメラ増設等の環境整備、各種啓発活による市民一人ひとりの防犯意識の向上など、それぞれの取り組みが効果を高めあうことで、街頭犯罪認知件数の減少につながっている。

## ④27年度で最も積極的に取り組んだ活動 ※年間活動報告書関連

暴力団に対する警察の取締り強化がなされるなか、校区暴力追放組織の設立をはじめ、年2回の暴力団壊滅市民総決起大会の継続実施など、地域社会一丸となった暴追運動の充実に取り組んだ。

【参考 (H27 実績)】校区暴追組織：3校区設立

市民総決起大会：6月1,500人(過去最多)、12月2,000人

⑤-1 下記の分野において、27年度に何らかの取り組みの変更があったか。

(48 施策以外でも可) ※年間活動報告書関連

		子ども (0～14歳)	青年 (15～24歳)	成人 (25～64歳)	高齢者 (65歳～)
不慮の要因	家庭の安全				
	学校の安全				
	職場の安全				
	余暇・スポーツの安全				
	公共の安全 交通安全				
	自然災害				
意図的 要因	暴力 (DV, 虐待含)				ニセ電話サギ被害の予防啓発
	自傷・自死				

⑤-2 変更があった場合、それはどのように変更したか。

平成 27 年前半に市内でのニセ電話詐欺被害が相次いだ。頻繁に目にする新聞報道等による市民の体感治安の悪化や、暴力団の資金源となる恐れもあるため、警察をはじめ市の関係部局、老人クラブ連合会などが連携し、積極的な啓発活動に取り組んだ。

⑥今後の方向性や取り組みを進める上での課題 ※年間活動報告書関連

●地域の自主的な活動の充実、安定的な支援を行うための仕組みづくり  
 例) ・青パト活動を希望する校区への車両導入  
 ・地域が自ら行う防犯環境整備の支援 など  
 ※ 地域が設置する街頭防犯カメラへの市補助 (H28～) などの他、関係機関・団体、企業等との連携により、地域のニーズに応じた支援方策の検討

⑦分野横断的に行っていること



- ・ 青パト活動団体によるパトロール中の反射材配布 (高齢者の交通安全)
- ・ 自転車安全利用 (交通安全) と連携した自転車ツーロックの街頭啓発
- ・ 交通安全対策、防災対策と連携した校区安全安心マップ作成の取り組み
- ・ 特殊サギ防止対策 (高齢者関係部局、老人クラブ連合会など)



⑧平成 28 年度の取り組み方針

	具体的施策	内容
25	自転車ツーロックの推進	<p><b><u>ツーロックの重要性を知る機会の拡大（継続）</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様なキャンペーンの実施…場所や時間など効果的なキャンペーンの展開</li> <li>・駅やスーパーでの実施、校区行事等とのタイアップなど</li> <li>・周知広報の充実…コミュニティ組織等と連携し、校区だより等での周知 各校区コミュニティセンター等へのチラシ・ポスター配布</li> </ul> <p><b><u>他分野との連携（継続）</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全分野との連携</li> </ul>
26	小学校区毎の地域安全マップの作成	<p><b><u>他の対策委員会と連携したマップの作成（継続）</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分野横断的なマップ作成（継続）</li> </ul> <p><b><u>コミュニティ組織や校区の関係団体との連携（継続）</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校区コミュニティ組織や防犯協会、学校等との連携</li> </ul> <p><b><u>作成したマップを活用した各種取り組み強化・環境改善（継続）</u></b></p> 
27	犯罪多発地域での合同パトロールの実施	<p><b><u>青パト合同パトロールの拡充（継続）</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青パト活動実施校区の拡大</li> <li>地域防犯活動団体の自主的な取り組み支援</li> <li>青パト活動団体同士の連携による自主的な合同パトロール</li> <li>毎月 21 日のパトロールの充実</li> <li>・効果的な時間・場所の設定</li> </ul> <p><b><u>【26 関連】安全安心マップの活用・反映（継続）</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各校区が作成するマップを活用した巡回ルートの設定等</li> </ul> <p><b><u>青パト活動団体による他分野との連携（継続）</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間巡回時、反射材を使用していない歩行者等への啓発 (交通安全分野／高齢者の交通安全)</li> </ul> 
28	安全・安心感を高めるための地域環境の整備	<p><b><u>【26 関連】安全安心マップの活用（継続）</u></b></p> <p><b><u>各実施者の連携による地域環境の整備（継続）</u></b></p> <p><b><u>街頭防犯カメラ設置による安心感の向上（継続）</u></b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・警察、地域と連携した街頭防犯カメラ設置の推進</li> <li>※ 街頭防犯カメラ設置補助事業（新規事業）</li> </ul> 



<p>29</p>	<p>暴力団壊滅市民総決起大会等の開催</p>	<p><b><u>市民総決起大会等の実施（継続）</u></b>          ・暴力団情勢等に応じた大会、会議の開催  <b><u>校区暴力追放推進協議会の全校区設置（継続）</u></b>          ・未設立校区への働きかけ          ※H28年度に1校区設立予定 ⇒ 全校区設置が実現  <b><u>市暴力追放推進協議会による各校区暴追協への支援（継続）</u></b>          ・各校区暴追協が行う自主的な暴追活動に対し、補助金交付、啓発物品配布などを継続実施</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>30</p>	<p>児童生徒、青少年への暴力団の実態や構成員になるのを防ぐための研修や啓発の実施</p>	<p><b><u>年齢に応じた教室・教育の実施（継続）</u></b>          ・非行防止教室や薬物乱用防止教室の機会を活用          ※小学生については、非行防止やルール・マナーを守ることを重点に実施し、その中で暴力団に関する内容に触れる  <b><u>日常的な啓発・教育活動（継続）</u></b>          校区暴追協による校区行事等での啓発活動  <b><u>【27 関連】 合同パトロールの実施</u></b>          ・非行防止の観点を持ってパトロールを実施</p>

# DV 防止対策委員会

## ①成果〈数値で表せるもの〉

○平成27年度実施に実施した医療機関へのアンケートにおいて、DV対策について取り組みを行っている医療機関の数が53から70に増えた。

### 問9 DV対策について以下の取組を行っているか(複数回答可)(N=235)

	回答数	構成比
a.職員に対し、DV問題に関する研修を実施	15	6.4%
b.職員に対し、DV問題に関する資料を配付	49	20.9%
c.DVにより負傷又は疾病にかかった(と思われる)患者がいた際のマニュアルを策定	6	2.6%
d.その他の取組	9	3.8%
e.特に実施していない	152	64.7%
f.わからない	10	4.3%
無回答	3	1.3%
合計	244	103.8%

## ②成果〈数値で表せないもの〉

○男女平等推進センターにおいて様々な講座を実施する中で、久留米市内の大学との連携が強化されたので、今後の学生への予防教育にいかせると考える。

## ③27年度の取り組みで最も成功した事例 ※年間活動報告書関連

○医療機関への研修を継続して実施しており、医療関係者から相談者を繋いでくる件数が増えている。  
○デートDV防止啓発講座について、学校への実施依頼を継続して行っている中で、実績として実施数は減ったものの中学校1校、大学1校、新規の学校に実施することができた。

## ④27年度で最も積極的に取り組んだ活動 ※年間活動報告書関連

○教育委員会や関係機関と連携し、啓発の実施に向けた取り組みを行った。

⑤-1 下記の分野において、27年度に何らかの取り組みの変更があったか。

(48 施策以外でも可) ※年間活動報告書関連

		子ども (0～14歳)	青年 (15～24歳)	成人 (25～64歳)	高齢者 (65歳～)
不慮の要因	家庭の安全				
	学校の安全				
	職場の安全				
	余暇・スポーツの安全				
	公共の安全 交通安全				
	自然災害				
意図的 要因	暴力 (DV, 虐待含)				
	自傷・自死				

⑤-2 変更があった場合、それはどのように変更したか。

⑥今後の方向性や取り組みを進める上での課題 ※年間活動報告書関連

若い世代への、暴力を容認しない意識や固定的な性別役割分担意識にとらわれない考え方の啓発がさらに必要である。

⑦分野横断的に行っていること

・市内 28 相談関係部局のほか、警察、弁護士会、医師会等を含む公・民相談機関や支援団体とのネットワーク会議を開催し、事例研究や意見交換等を行うことで支援体制の充実を図っている。

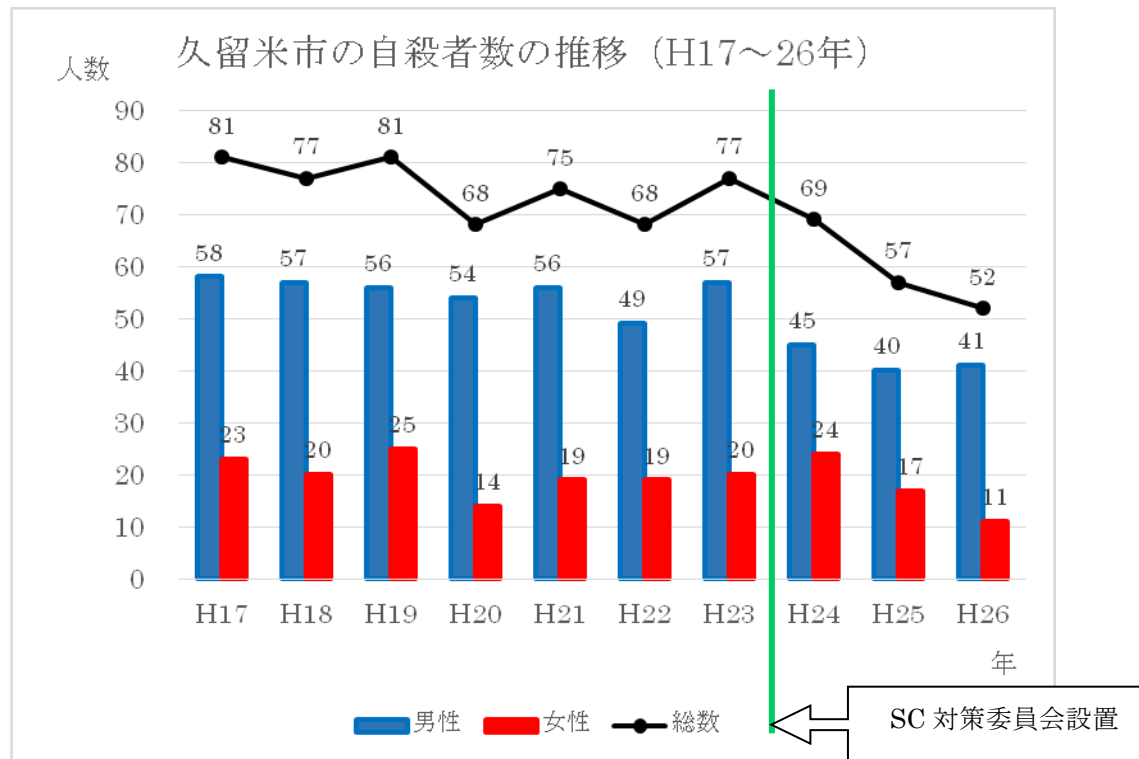
⑧平成 28 年度の取り組み方針

具体的施策		内容
31	男女共同参画・DV防止に関する啓発の充実	・引き続き男女共同参画、DV防止に関する講座を男女平等推進センターや地域で実施していく。
32	教育現場等における予防教育の充実	・引き続き中・高・大学などでデートDV防止講座を実施する。 
33	医療関係者に対する研修の強化(No34 と統合)	・引き続き医療機関従事者等を対象とした研修の充実 
34	【欠番】医療機関におけるDV被害者支援の取り組みの促進(No.33 と統合)	34「医療機関におけるDV被害者支援の取り組みの促進」は、マニュアル作成が完了したことを受け、33「医療関係者に対する研修の強化」と一本化する。 (33「医療関係者に対する研修の強化」、34欠番)
35	子どもに関わる業務に携わる職務関係者に対する研修の充実	・保育所・幼稚園等の職務関係者、学校関係者及び民生委員・児童委員への研修の充実
36	DV被害者の心理的・社会的な回復支援の検討	・引き続き、関係課及び支援団体とDV被害者の回復・自立を図るための場の設置のあり方について検討を行っていく。
37	DV被害者の子どもへの理解を促すための研修	・DVの中にいる(いた)子どもに直接関わる職務関係者への研修の実施
38	子ども向け電話相談の実施	・課題の解決に向けて団体と協議を行いながら、引き続き団体の活動支援として、「子どもからの無料電話相談」に要する経費に対し補助を行う。
39	DV被害者の子どもへの学習支援	・引き続き民間支援団体と市が連携して学習支援事業を行う。

# 自殺予防対策委員会

## ① 成果〈数値で表せるもの〉

自殺予防対策委員会設置後、自殺者数が3年連続で減少した。



## ② 成果〈数値で表せないもの〉

- かかりつけ医と精神科医の連携が強化。
- 自殺対策連絡協議会の構成団体間の連携強化と自殺対策に関する意識の高まり。
- ゲートキーパー研修の実施による、地域への意識の浸透。

## ③ 27年度の取り組みで最も成功した事例 ※年間活動報告書関連

理容組合の組合員に対してゲートキーパー研修を行ったことをきっかけに、勉強会を行うなど団体内での意識が高まった。接客の際の心構えや、自殺対策についての関心の高まりなどの変化だけでなく、店舗にリーフレットを設置する等、具体的な取組みにつながっている。また、これらの取組みについて、委員会の施策の一つである「自殺対策連絡協議会」及び「SC フェスタ」において事例発表をしてもらうとともに、各店舗に設置するポスターを自発的に作製されるなど、自殺予防に向けた取組みが着実に進んでいる。

④27年度で最も積極的に取り組んだ活動 ※年間活動報告書関連

ゲートキーパーの養成をめざして、地域や職域において積極的に研修を行った。特に、校区や理容組合等に出向き、継続的に研修を行うとともに、葬祭事業者や高校生徒指導協議会等、新規対象者への啓発を行った。また、消費生活センターが出席する出前講座に同伴するなど、ゲートキーパーを浸透させるための活動を行った。

⑤-1 下記の分野において、27年度に何らかの取り組みの変更があったか。

(48 施策以外でも可) ※年間活動報告書関連

		子ども (0～14歳)	青年 (15～24歳)	成人 (25～64歳)	高齢者 (65歳～)
不慮の要因	家庭の安全				
	学校の安全				
	職場の安全				
	余暇・スポーツの安全				
	公共の安全 交通安全				
	自然災害				
意図的要因	暴力 (DV, 虐待含)				
	自傷・自死		啓発パネル展示 及び相談カード 設置		

⑤-2 変更があった場合、それはどのように変更したか。

市内大学等の図書館において、自殺に関するパネル展示や相談カードの設置を行うとともに、関連図書を設置を依頼した。

⑥今後の方向性や取り組みを進める上での課題 ※年間活動報告書関連

- ゲートキーパーの啓発を行う上で、対象者の拡大を図るとともに、研修受講者が実践に繋げられるよう、フォローアップにも取り組む。
- 効果的な周知方法
- 自殺対策連絡協議会における参加者の意識の向上と関係機関の連携強化

⑦分野横断的に行っていること

- 労政課やハローワークなど、雇用弱者と接する機会の多い職員に対し、ゲートキーパーの研修を行った。
- 消費生活センターが出席する出前講座に同伴し、ゲートキーパーに関する啓発を行った。

⑧平成 28 年度の取り組み方針

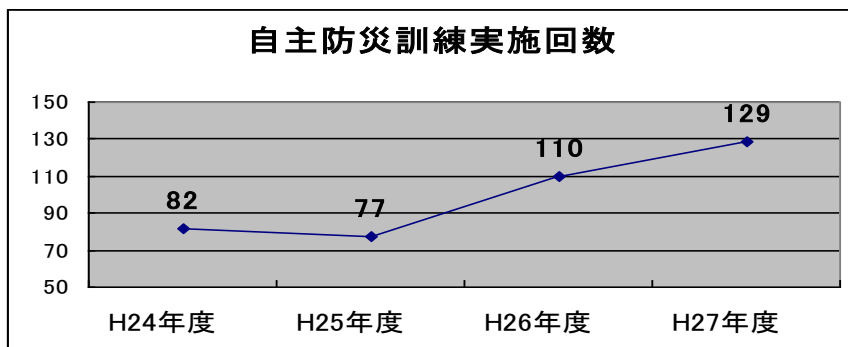
	具体的施策	内容
40	ゲートキーパーの養成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校区、民生委員、理美容師・介護福祉サービス事業者へのゲートキーパー研修に継続的に関わり、金融機関、中小企業等の新規対象者の拡大及びタクシー組合、飲料組合等との連携強化を図る。</li> </ul> 
41	かかりつけ医と精神科医の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ かかりつけ医から精神科へ紹介された患者の実態把握及び研修会等の継続的实施。</li> </ul>  
42	自殺対策連絡協議会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係機関と連携し自殺対策への取り組みの強化を図る。更に連携による取組みを実施した協議会構成団体等の数を増やす。</li> </ul>  
43	ワンストップサービス相談の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 司法書士会、ハローワークと連携し相談会を継続実施する。</li> <li>・ 効果的な広報周知を実施し、利用者の増加を図る。</li> </ul>



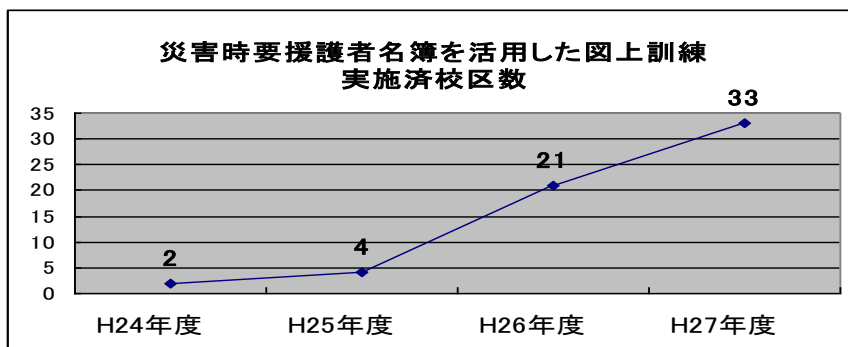
# 防災対策委員会

## 成果① 〈数値で表せるもの〉

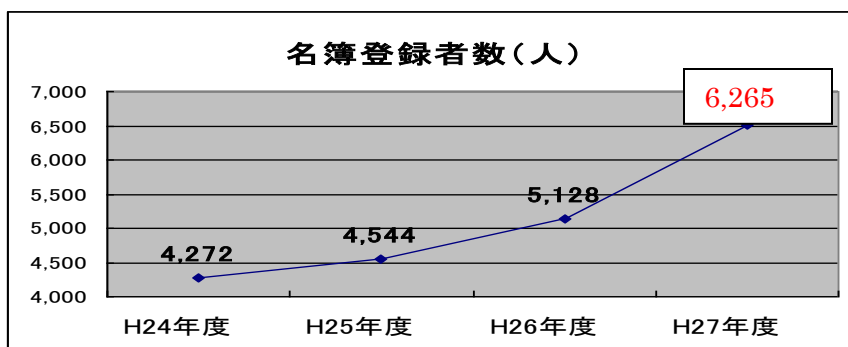
- 自主防災研修の実施回数



- 災害時要援護者名簿を活用した図上訓練の実施



- 災害時要援護者名簿登録者の増加



## 成果② 〈数値で表せないもの〉

山本校区高齢者サロンにおいて、防災対策課、地域福祉課、地域包括支援センターの連携により防災研修を実施し、災害時要援護者名簿登録の呼びかけ、居住地区の危険箇所や避難所、避難経路等の確認を行い、自分の避難計画を作成してもらうなど、自助の意識を高めることができた。



### ③27年度の取り組みで最も成功した事例

#### ○災害時要援護者名簿登録促進

平成27年3月～5月にかけて行われた、民生委員の在宅高齢者基礎調査の際に登録の促進の呼びかけにご協力をいただき、約1,600名の登録に繋がった。

### ④27年度で最も積極的に取り組んだ活動

各地域の地域コミュニティ組織、自治会、民生委員、消防団、自主防災組織などの参加のもと、災害時要援護者名簿を活用した図上訓練を18校区で実施した。(12校区で新規実施+6校区で再実施)

これにより要援護者ごとの個別支援計画の具体化を推進した。

### ⑤-1 下記の分野において、27年度に何らかの取り組みの変更があったか。

(48施策以外でも可) ※年間活動報告書関連

		子ども (0～14歳)	青年 (15～24歳)	成人 (25～64歳)	高齢者 (65歳～)
不慮の要因	家庭の安全				
	学校の安全				
	職場の安全				
	余暇・スポーツの安全				
	公共の安全 交通安全				
	自然災害				
要因的	暴力 (DV, 虐待含)				
	自傷・自死				

### ⑤-2 変更があった場合、それはどのように変更したか。

特になし

### ⑥今後の方向性や取り組みを進める上での課題

地域防災力のためには、地域における防災訓練や自主防災研修、災害時要援護者名簿を活用した図上訓練などが非常に重要である。それを地域が主体的に実施していくためには、防災士の活躍が必要不可欠であるが、防災士が地域の防災訓練等を企画・運営していけるような体制作りが出来ている校区が少ないのが課題である。今後は、市と地域が協働して防災士が活躍できるような体制作りを検討していく。

### ⑦分野横断的に行っていること

- ・ 防災対策課、地域福祉課、包括支援センターによる自主防災研修
- ・ 防災対策課、地域福祉課による図上訓練
- ・ 防災対策課、安全安心推進課による地域の防災マップ作成指導

⑧平成 28 年度の取り組み方針

具体的 48 施策		内容
44	定期的な防災研修・訓練・啓発の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校区における自主防災活動の課題聞き取り</li> <li>・自主防災活動の活性化に向けた研修メニューの検討</li> </ul> 
45	防災に精通しているリーダーの育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年 2 回実施している防災リーダー研修会において、防災士が地域における自主防災活動を担っていく体制や仕組みづくりを具体的に示していく。</li> </ul>
46	名簿登録推進にむけた積極的な情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者・要介護認定者など未登録の要援護者に名簿登録促進を図る。</li> <li>・引き続き要援護者支援に係る関係団体に登録促進協力を依頼。</li> </ul>
47	災害時要援護者個別支援計画作成	<p>引き続き、災害時要援護者名簿を活用した図上訓練を実施し、その中で個別支援計画の具体化を図る。新規実施 13 校区を予定（※市内全校区での訓練実施完了予定）</p>
48	地域の避難計画を作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校区における各種マップの作成状況の把握及び他の対策委員会等と連携したマップの作成</li> </ul> 

## 外傷等動向調査委員会

<p>取り組み概要</p>	<p>外傷の発生動向データの収集・分析を行い、対策委員会等と連携を図りながら、予防活動の効果・影響等の測定・評価を行なう</p>
<p>27年度取り組み実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関に自主外来される患者へのアンケート調査を実施し、10月～12月にかけて261件のサンプルを回収。</li> <li>・平成23年7月のセーフコミュニティの取組開始から約5年経過し、重点取り組み分野・項目または取り組みの効果確認など、これまでの総括の実施について検討を行う。</li> </ul>
<p>27年度中の改善点</p>	<p>これまでに、比較的重症な外傷の状況や死亡状況については、救急搬送データや人口動態統計により把握し、主に重症から軽症までの外傷の状況を、市民へのアンケート調査により把握してきた。</p> <p>今回の調査により、比較的軽度の外傷の発生状況について把握することができたので、救急搬送データやアンケート調査結果との違いを確認するとともに、収集されたデータの有効な活用方法や、継続的な収集が可能かどうかを検証した。</p>
<p>課題 (28年3月末現在)</p>	<p>重点分野・項目、取組内容に関して、これまでの総括を実施するには、膨大な量のデータ収集、分析、検証、評価などの作業が伴ってくるので、外傷等動向調査委員会と対策委員会の総括に係る役割またスケジュールを明確にし、計画に沿って実施する必要がある。</p>
<p>28年度の取り組み方針 (案)</p>	<p>重点取り組み分野・項目または取り組みの効果確認に必要なデータの収集・分析、評価・検証等を実施予定。その中で、分析や評価・検証を行った結果については、対策委員会へ情報提供や助言を行っていくなど、連携の強化を図っていきたい。</p>